

共同債務者ハ又其利益保護ノ爲メ任意ニ自費ヲ以テ訴訟ニ参加スルコトヲ得

第五十七條 連帶債務ノ履行ノ爲メ既テ受ケタル各債務者ハ自己ノ權利ニ基クテ共同債務者ノ權利ニ基クテトテ間ハス義務ノ組成又ハ消滅ヨリ生スル答辯方法ヲ以テ債務ノ全部ニ付キ債權者ニ對抗スルコトヲ得

右ノ外更改、免除、相殺及ヒ混同ニ關シテハ財産編第五百一條、第五百六條、第五百九條、第五百二十一條及ヒ第五百三十五條ノ規定ニ從フ

第五十八條 債務者ノ一人ノ無能力又ハ承諾ノ瑕疵ニ基キタル答辯方法ハ其人自身ニ非レハ之ヲ採用スルコトヲ得然レトモ此答辯方法一旦許サレタル上ハ債務ニ於ケル其者ノ部分ニ付キ他ノ債務者ヲ利ス但他ノ債務者カ契約ノ際義務履行ニ付キ其者ノ分擔ヲ豫期スルコト有リタルトキニ限ル

第五十九條 前二條ニ規定シタル種種ノ事項ニ付キ債權者ト債務者ノ一人トノ間ニ有リタル判決及ヒ自由ハ他ノ債務者ノ利害ニ於テ前二條ニ同シキ限度及ヒ區別ヲ以テ其效力ヲ生ス

第六十條 一人ノ債務者ト他ノ債務者トノ間ニ於ケル連帶ノ存在ノミニ關シテ其一人ト債權者トノ間ニ有リタル判決及ヒ自由ハ他ノ債務者ヲ害セス又之ヲ利セス

第六十一條 連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ時効ヲ中斷シ又ハ付連帶ヲ成ス原因ハ他ノ債務者ニ對シテ同一ノ效力ヲ有ス

債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ存スル時効停止ノ原因ハ他ノ債務者ノ利益ニ於テ其部分ノ爲メ時効ノ進行スルコトヲ妨ケス

第六十二條 義務ノ目的物ノ滅失其他總テ義務履行ノ不能カ連帶債務者ノ一人ノ過失ニ因リ又ハ其付連帶後ニ生スルトキハ他ノ債務者ハ債權者ニ對シ連帶シテ損害賠償又ハ過意約款ノ責ニ任ス但過失

アリ又ハ過失ニ在リシ債務者ニ對スル他ノ債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第六十三條 連帶債務者中ニテ債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得セシメタル者ハ他ノ債務者ニ對シ辨濟又ハ免責ノ限度ニ於テ其各自ノ負擔部分ニ付キ自己ノ權利ニ基キテ求償權ヲ有ス

右ノ求償中ニハ會社及ヒ代理ノ規則ニ從ヒ辨償金及ヒ必要ナル出捐ノ賠償ノ外辨償以後ノ法律上ノ利息及ヒ避クルコトヲ得サリシ費用ヲ包含ス

第六十四條 債務ヲ辨濟シタル債務者ハ債權者ノ實際受取リタルモノノ限度ニ於テノミ財産編第四百八十二條第一號ニ從ヒ法律上ノ代位ニ因リテ其債權者ノ權利及ヒ訴訟ヲ行フコトヲ得

然レトモ其債務者ハ前條ニ記載シタル如ク其共同債務者ノ各自ノ間ニ於テ自己ノ既テ分ツテ要ス第六十五條 不注意ニテ辨濟シタル保證人ニ對シ第三十二條及ヒ第三十三條ニ規定シタル求償ノ失權ハ既退又ハ辨濟ヲ共同債務者ニ告知スルコトヲ怠リタル連帶債務者ニ對シテ之ヲ適用ス

第六十六條 共同債務者ノ一人カ上ニ指示シタル方法ノ一ニ因リ求償ノ行ハレタル當時ニ於テ無資力ナルトキハ無資力者ノ部分ハ辨濟シタル者ヲ加ヘテ他ノ資力アル者ノ間ニ割合ニ應ジテ之ヲ分ツ但求償者ノ責ニ歸ス可キ懈怠アリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ連帶債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタルトキハ債權者ハ其債權ノ全部ニ付キ清算ニ加ハルコトヲ得

此場合ニ於テ辨濟ノ殘額ハ他ノ債務者之ヲ負擔ス但其債務者ノ自己ノ部分外ニ負擔シタルモノニ對スル求償ハ其清算ニ加ハリタル他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス

第六十八條 債務者ノ一人ノ無資力ト爲リタル前ニ一分ノ辨濟アリタルトキハ債權者ハ辨濟殘額ノ爲

◎債權擔保編



メニ非サレハ其清算ニ加ハルコトヲ得ヌ又五分ノ辨濟ヲ爲シタル他ノ債務者ハ第六十三條ニ從ヒ自  
巳ノ受取ル可キモノヲ辨償セシムル爲メ清算ニ加ハルコトヲ得

第六十九條 何等ノ辨濟モ有ラサル前ニ總テノ連帶債務者又ハ其中ノ數人ノ無資力ト爲レル場合ニ  
於テ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ各清算ニ加ハルコトヲ得

然レトモ債權者カ清算ノ一ニ於テ配當金ヲ受取リタルトキハ他ノ清算ニ於テ其債權ノ全額ニ從ヒ債  
權者ニ充テタル新配當金ハ以前ノ配當ニ於テ未タ受取ラサルモノノ割合ニ應スルニ非サレハ債權者  
之ヲ受取ルコトヲ得ヌ

受取ノ殘額ハ各清算ニ之ヲ返還ス但各清算ノ辨濟シタルモノノ割合ニ從フ

第三款 債務者間ノ連帶ノ終了

第七十條 債權者カ總債務者ニ對シテ連帶ヲ拋棄スルトキハ財産編第四百三十八條第一項ニ規定シタ  
ル如ク其債務者ノ義務ハ單ニ連合ノモノト爲リテ存シ其他ノ性質ヲ變スルコト無シ

第七十一條 財産編第五百十條ニ從ヒ明示又ハ默示ニテ債務者ノ一人又ハ數人ニ對シテノミ連帶ノ拋  
棄アリタルトキハ他ノ債務者ハ連帶ノ免除ヲ得タル者ノ部分ニ於テノミ其義務ヲ免カル

連帶ノ免除ヲ得サル債務者中ニ無資力者アルトキハ債權者ハ其無資力ニ付キ連帶ノ免除ヲ得タル者  
ノ部分ヲ負擔ス

第七十二條 債權者カ連帶債務者ノ一人ヨリ供シタル擔保ニシテ他ノ債務者ノ辨濟シテ代位スルコト  
ヲ得ヘキモノノ全部又ハ一分ヲ毀損シ又ハ滅失セシメタルトキハ他ノ債務者ハ其擔保ヲ供シタル者  
ノ部分ニ付キ連帶ノ義務ヲ免カレント請求スルコトヲ得  
右ノ請求ニ因リテ宣告シタル免責ハ連帶ノ任意免除ト同一ノ效力ヲ有ス

第四款 全部義務

第七十三條 財産編第三百七十八條、第四百九十七條第二項及ヒ其他法律カ數人ノ債務者ノ義務ヲ其

各自ニ對シ全部ノモノト定メタル場合ニ於テハ相互代理ニ付シタル連帶ノ效力ヲ適用スルコトヲ得  
ス但其總債務者又ハ其中ノ一人カ債務ノ全部ヲ辨濟スル旨渡テ受ケタルトキモ亦同シ

然レトモ一人ノ債務者ノ爲シタル辨濟ハ債權者ニ對シ他ノ債務者ヲ免カレシム又辨濟シタル者ハ事  
務管理ノ所權ニ依リ又ハ債權者ニ代位シテ得タル所權ニ依リテ他ノ債務者ニ對シ其部分ニ付キ求償  
權ヲ有ス

第二節 債權者間ノ連帶

第一款 債權者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第七十四條 債權者間ノ連帶即チ總方連帶ハ權利ノ保存及ヒ行使ニ付キ其債權者ヲシテ互ニ代人タラ  
シム

此連帶ハ合意又ハ遺言ヨリ生ヌ

第七十五條 數人ノ連帶債權者ニ對スル債務者ノ義務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時、同所ニ於テ之ヲ契  
約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス

又債務者ハ數人ノ債權者ニ對シ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ資ニ任スルコトヲ得

第二款 債權者間ノ連帶ノ效力

第七十六條 各連帶債權者ハ唯一人ノ債權者ナル如ク義務全部ノ履行ヲ債務者ニ要求スルコトヲ得  
債權者ノ一人カ既チ起シタルトキハ他ノ各債權者ハ共通ノ利益及ヒ自己ノ利益ノ保護ノ爲メ訴訟ニ  
参加スルコトヲ得

○債權擔保編



第七十七條 債務者ハ債權者ノ一人ヨリ既追又ハ合式ノ要求ヲ受ケサル間ハ債務ノ全額ノ辨濟ヲ受ケルコトヲ債權者ノ各自ニ強要スルコトヲ得之ニ反スル場合ニ於テハ既追者又ハ要求者ニ對スルニ非サレハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

若シ同時ニ數人ノ既追者又ハ要求者アルトキハ債務者ハ其總テノ者ニ對スルニ非サレハ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

第七十八條 義務組成ノ瑕疵ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ債務ノ全部ニ對シ總債權者ノ利害ニ於テ其効力ヲ生ス但既認ニ其名ヲ出ササリシ者ニ對シテモ亦同シ

第七十九條 義務消滅ノ原因ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ハ左ノ區別ニ從フニ非サレハ既認ニ與カラサリシ債權者ニ對シテ其効力ナシ

第一 第七十七條ニ定メタル條件ニ從ヒ債權者ノ一人ニ爲シタル辨濟ハ全部ニ付キ總債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得又財産編第五百二十一條第三項ニ記載シタル如ク債權者ノ一人ニ對シ債務者ノ有スル相殺ニ付テモ亦同シ但相殺ノ原因カ第七十七條ニ從ヒ債務者ヨリ其債權者ニ在リニ辨濟スルコトヲ得ヘキ時期ニ於テ生シタルトキニ限ル

第二 債權者ノ一人ノ行爲ヨリ生シ又ハ其權利ニ基キテ生スル更改、免除及ヒ混同ハ財産編第五百一條第三項、第五百十五條第一項及ヒ第五百三十五條第二項ニ從ヒ其債權者ノ部分ニ非サレハ債務ヲ消滅セシメス但此行爲ハ他ノ債權者ノ既追又ハ要求ノ前ニ在ルコトヲ要ス

又右同一ノ行爲ニ關シ及ヒ辨濟又ハ相殺ニ關スル和解ニ付テモ又同シ

第八十條 債權者中ノ一人ノ一身ニ限ル債務者ノ抗辯ニ付キ有リタル判決ハ他ノ債權者ヲ害セス又之ヲ利セス又債權者ノ一人カ其連帶ニ於ケル權利ニ付キ債務者ト爲シタル和解ニ付テモ亦同シ

第八十一條 債權者ノ一人カ債務者ニ對シテ時効ヲ中斷シ又ハ其債務者ヲ連帶ニ付スル行爲ハ全部ニ付キ他ノ債權者ヲ利ス

債權者ノ一人ノ利益ニ於テ法律ノ設定シタル時効ノ停止ハ其部分ニ限リ其一人ノミチ利ス

第八十二條 義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ得タル連帶債權者ハ他ノ債權者ノ特別ノ關係及ヒ其相互ノ部分ニ從ヒ之ニ其利益ヲ分與スルコトヲ要ス

第三款 債權者間ノ連帶ノ終了

第八十三條 債權者間ノ連帶ハ拋棄ニ因リテ止ム其拋棄ハ明示ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八十四條 連帶ノ拋棄ハ債權者ノ一人若クハ數人又ハ其總員ヨリ之ヲ爲スコトヲ得  
總債權者ノ働方連帶ノ拋棄ハ第七十條ニ規定シタル如ク受方連帶ノ拋棄カ共同債務者ニ對シテ生セシムルト同一ノ効力ヲ其債權者間ニ生セシム  
若シ債權者ノ一人又ハ數人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ此拋棄ヲ爲シタル者ノ部分ニ付テノミ既チ爲シ又ハ辨濟ヲ受クル權利ヲ失フ

第三章 任意ノ不可分

第八十五條 連帶ノ拋棄ハ債務者ノ承諾ナクシテ有效ナリ  
然レトモ其拋棄ハ之ヲ債務者ニ告知セシカ又ハ債務者明確ニ之ヲ知りタルトキニ非サレハ上ノ規定ヲ以テ債務者ニ許シタル辨濟其他ノ行爲ニ對シテ債權者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得ス  
債務者ハ拋棄ヲ申立ツル利益アルトキハ之ヲ申立ツルコトヲ得又拋棄カ其權利ノ詐害ニ於テ爲サレタルトキハ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第八十六條 財産編第四百四十一條及ヒ第四百四十二條ニ規定シタル不可分ノ外債務ハ尙ホ數人ノ債務

乙三百一



者ノ負擔又ハ數人ノ債權者ノ利益ニ於テ債務履行ノ擔保トシテ任意上不可分タルコトヲ得但財產第  
第四百四十三條ニ指示シタル如ク受方又ハ働方ノ連帶ニ併合シ又ハ併合セサルコト有リ

任意ノ不可分ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得此不可分ハ明示タルコトヲ要ス

第八十七條 債權者ノ負擔ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ働方タル可キコトノ明示アルニ非サレハ  
債權者ノ利益ニ於テ存立セス

又債權者ノ利益ニ於テ設定シタル不可分ハ同時ニ受方タル可キコトノ明示アルニ非サレハ債權者ノ  
負擔ニ於テ存立セス

第八十八條 受方ナルト働方ナルトト間ハ任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ受方又ハ働方ノ連帶ヲ  
明示ニテ阻却セサル場合ニ限り債權者又ハ債權者ノ間ニ此連帶ノ效力ヲ生セシム

第八十九條 債務者ノ一人ニ對シテ時効ヲ中斷又ハ停止スル原因ハ總債務ニ付キ他ノ債務者ニ對シテ  
中斷又ハ停止ヲ生ス

又債權者ノ一人ノ權利ヨリ生スル時効ノ中斷又ハ其停止ノ原因ハ他ノ債權者ヲ利ス

第九十條 債權者ノ受方又ハ働方ニテ同時ニ連帶及ヒ不可分ナルトキハ第八十三條及ヒ財產編第五百十  
條ニ記載シタル區別ニ從ヒ明示ナルトト默示ナルトト間ハ連帶ノ拋棄ハ又任意ノ不可分ノ拋棄ヲ惹  
起ス但不可分ノ拋棄ハ連帶ヲ存立セシム

第九十一條 財產編第四百四十四條乃至第四百四十九條、第五百一條第四項、第五百六條第三項、第五  
百九條第一項、第五百十三條、第五百十五條第二項、第五百二十一條第四項、第五百三十六條及ヒ第  
五百三十七條第二項ノ規定ハ任意ノ不可分ニ之ヲ適用ス

債權者カ不可分ニテ義務ヲ負ヒタル債務者ノ代位ニ因リテ得ルコト有ル可キ擔保ヲ滅失セシメ又ハ

減少セシメタルトキハ其債務者ハ債權者ニ對シテ第七十二條ノ免責ヲ採用スルコトヲ得

第二部 物上擔保

第一章 留置權

第九十二條 留置權ハ財產編及ヒ財產取得編ニ於テ特別ニ之ヲ規定シタル場合ノ外債權者カ既ニ正當  
ノ原因ニ由リテ其債務者ノ財產又ハ不動產ヲ占有シ且其債權カ其物ノ讓渡ニ因リ或ハ其物ノ保存ノ  
費用ニ因リ或ハ其物ヨリ生シタル損害賠償ニ因リテ其物ニ關シ又ハ其占有ニ密連シテ生シタルトキ  
ハ其占有シタル物ニ付キ債權者ニ屬ス

委任ナクシテ他人ノ事務ヲ管理シタル者ハ必要ノ費用及ヒ保持ノ費用ノ爲メニ非サレハ其管理シタ  
ル物ニ付キ留置權ヲ有セス

第九十三條 債權者カ留置スル權利ヲ有シタル物ノ一分ノミヲ留置シタルトキ其部分ハ總債務ヲ擔保  
スルニ足ルニ於テハ之ヲ擔保ス

之ニ反シテ債權者ハ債務者ヨリ一分ノ辨濟ヲ受ケタリト雖モ全部ノ辨濟ヲ受クルニ至ルマテ留置權  
ニ服シタル總テノ物ヲ留置スルコトヲ得

第九十四條 留置權ハ留置物ノ價額ニ付キ債權者ニ先取特權ヲ付與セス

然レトモ留置物ヨリ天然又ハ法定ノ果實又ハ產出物ノ生スルトキハ留置權者ハ他ノ債權者ニ先ダチ  
テ之ヲ收取スルコトヲ得但其果實又ハ產出物ハ其債權ノ利息ニ充當シ猶ホ餘分アルトキハ元本ニ充  
當スルコトヲ要ス

留置權者ハ其收取スルコトヲ怠リタル果實及ヒ產出物ニ付キ其責ニ任ス

第九十五條 留置權ハ債權者カ留置物ヲ讓渡シ又他ノ債權者カ之ヲ差押へ及ヒ或却セシムル妨ト爲ラ



ス

然レトモ孰レノ場合ニ於テモ取得者ハ留置権者ニ全ク辨濟セシテ其物ヲ占有スルコトヲ得ス  
第九十六條 右ノ外動産又ハ不動産ノ留置権者ハ次ノ二章ニ規定シタル如ク動産又ハ不動産ノ買取債  
權者ト同一ノ責任ニ従フ

此他動産買及ヒ不動産買ニ關スル規定ハ此章ノ規定ニ觸レサル限りハ留置権ニ之ヲ適用ス時ニ債權  
者カ有意ニテ留置権ヲ行フコトヲ怠リ又ハ實際之ヲ行フコトヲ止メタルトキハ其留置権ヲ失フ

### 第二章 動産買

#### 第三節 動産買契約ノ性質及ヒ成立

第九十七條 動産買ハ債務者カ一箇又ハ數箇ノ動産ヲ特ニ其義務ノ擔保ニ充ツル契約ナリ

第九十八條 動産買契約ハ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ好意ニテ債務者ノ爲メ擔保ヲ供スル第三者ト債權  
者トノ間ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得

孰レノ場合ニ於テモ動産買ヲ供シタル第三者ハ第三十條及ヒ第三十一條ニ從ヒ保證人ノ如ク債務者  
ニ對シテ求償權ヲ有ス

第九十九條 動産買ハ其物ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有效ニ之ヲ供スルコトヲ得ス  
合意上、法律上及ヒ裁判上ノ管理人ニ付テモ亦同シ此等ノ者ハ其權限ヲ踰エサルコトヲ要ス

若シ債務ニ關係ナキ第三者ヨリ動産買ヲ供シタルトキハ其第三者ハ第十二條ニ記載シタル如ク無償  
ニテ物ヲ處分スル能力ヲ有スルコトヲ要ス

第一百條 動産買ハ債權及ヒ買物ヲ明カニ指定セル證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス  
右買物及ヒ之他物ニ島フルコトヲ得サル様詳細ニ記載シ且要アルトキハ之ヲ評價スルコトヲ要ス

若シ買物カ定置物ナルトキハ其種類、數量、尺度ヲ以テ之ヲ指定スルコトヲ要ス

第一百二條 法律ニ從ヒ證人ニ依リテ債權ヲ證スルコトヲ得ル場合ニ於テハ證書ノ複製ヲ要シ、此場合  
ニ於テハ債權ノ額及ヒ買物ノ相違ナキコト其性質、價額ヲ或ハ併合シ或ハ各別ニ人證ヲ以テ證スル  
コトヲ得

第一百三條 動産買ハ買取債權者カ有體ナル買物ヲ現實ニ且繼續シテ占有スルニ非サレハ之ヲ以テ第三  
者ニモ他ノ債權者ニモ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ買物ハ當事者雙方カ選定シ又ハ債權者カ自己ノ責任ヲ以テ選定シタル第三者ノ手ニ之ヲ寄  
託スルコトヲ得

此規定ハ債權ノ無記名證券ニモ之ヲ適用ス

第一百三條 買物カ債權ノ記名證券ナルトキハ買取債權者ハ其證券ヲ占有スルコトヲ要ス

此他記名證券ノ買ノ設定ニ付テハ債權ノ讓渡ヲ告知スル通常ノ方式ヲ以テ第三債務者ニ其設定ヲ告  
知シ又ハ其第三債務者カ任意ニテ之ニ參加スルコトヲ要ス

又財産編第三百四十七條ノ規定ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

右ハ總テ裏書ヲ以テ取引ス可キ商證券又ハ商品ノ買ニ關シ商法ニ記載シタルモノヲ指ケス

第一百四條 會社ノ記名ノ株券又ハ債券ヲ買ト爲ストキハ証券ノ交付ノ外會社定款又ハ法律ニ於テ株券  
又ハ債券ノ讓渡ノ爲メニ定メタル方式ヲ以テ之ヲ會社ニ告知シ其帳簿ニ之ヲ記入スルコトヲ要ス

第一百五條 動産買ハ當事者ノ意思ニ從ヒ働方及ヒ受方ニテ不可分々ニ但反對ナル明示ノ合意アルトキ  
ハ此限ニ在ラス

動産買ハ債務者ヨリ債務ノ一分ヲ辨濟シタルトキト雖モ元利及ヒ費用ノ皆濟ニ至ルマテ買物ノ全部



及ヒ各箇ニ於テ存在ス

第二節 動産質契約ノ效力

第六六條 質取債權者ハ質物ヲ返還スルマテ其看守及ヒ保存ニ付キ善見ナル管理人ノ注意ヲ加フル責アリ

質取債權者ハ債務者ノ許諾ヲ受ケスシテ質物ヲ貸貸スルコトヲ得ニ又債務者ノ許諾ヲ受ケタルトキ又ハ物ノ使用力其保存ニ必要ナルトキニ非サレハ自ラ之ヲ使用スルコトヲ得ス

若シ質取債權者カ質物ヲ濫用スルトキハ裁判所ハ其失權ヲ宣告スルコトヲ得

第七七條 質取債權者ハ自己ノ責任ヲ以テ質物ヲ自己ノ債權者ニ轉賣ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉賣ヲ爲ササレハ生セサル可キ意外又ハ不可抗ノ危險ニ付テモ亦其責ニ任ス

第八八條 質物カ果實又ハ產出物ヲ生スルトキハ之ニ關シ質取債權者ハ第九十四條第二項ニ定メタル留置權者ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

質ト爲シタル債權ニ關シテハ質取債權者ハ其利息ヲ收取シテ之ヲ自己ノ債權ニ充當ス然レトモ債務者ノ特別ナル委任ヲ受ケスシテ其元本ヲ受取ルコトヲ得ス但專書ヲ以テ取引ス可キ證券ニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第九九條 質取債權者カ質物保存ノ爲メ必要ノ出費ヲ爲シタルトキハ債權ニ先タチ動産質ヲ以テ其出費ノ辨償ヲ擔保ス

質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ債權者ノ受ケタル損害ノ賠償ニ付テモ亦同シ

第一百條 質取債權者ハ動産質ノ附キタル主從ノ債務及ヒ前條ノ債金ノ皆濟ニ至ルマテ債務者及ヒ其讓受人ニ對シテ質物ノ占有ヲ留置スルコトヲ得

債權者ハ其債權ノ満期ニ至ラサル間ハ債務者ノ他ノ債權者ヨリ爲ス質物ノ差押及ヒ其競賣ヲ拒ムコトヲ得

第十一條 動産質ノ附キタル債務カ満期ト爲リタルトキ債務者履行ヲ爲ササルニ於テハ質取債權者又ハ其他ノ債權者ヨリ質物ノ競賣ヲ求ムルコトヲ得質取債權者ハ他ノ債權者ニ先タチ元利、費用及ヒ第九九條ニ掲ケタル債金ノ辨償ヲ受ク

第十二條 他ノ債權者ヨリ競賣ヲ求メ又ハ之ヲ實行スルコトヲ得ザルトキ質取債權者ハ質物ヲ已レノ有ト爲サントスルコトニ付キ債務者ト一致セサルニ於テハ鑑定人ノ評價シタル價額ニ達スルマテ質物ヲ辨濟ニ充ツ可キコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其請求書ヲ債務者ニ豫メ提示スルコトヲ要ス

質物ノ價額カ債務ヲ超ユル場合ニ於テハ質取債權者ハ債務者ニ其超過額ヲ辨償スルコトヲ要ス

第十三條 總テ動産質契約ノ約款又ハ債務満期前ノ合意ニシテ債權者ニ其債權ノ全部又ハ一分ニ付キ辨濟ノ爲メ裁判上ノ評價ナクシテ流質ヲ許スモノハ當然無効タリ

本條ノ禁止ヲ犯ス爲メ債務者カ債權者ニ爲シタル受戻約款附ノ賣買其他ノ合意ハ之ヲ無効ト宣告スルコトヲ得

本條ニ定メタル無効ハ質取債權者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得スシテ債務者又ハ其承繼人ノミ之ヲ援用スルコトヲ得

第十四條 質物カ質取債權者ノ方ニ存スル間ハ其債務ノ免責時効ノ成就ヲ停止ス

第十五條 質物ノ占有ハ常ニ容假ノ占有ニシテ其占有ノ繼續期ノ如何ニ拘ハラヌ又債務カ辨濟其他ノ方法ニテ消滅シタル後ト雖モ質取債權者ハ取得時効ヲ援用スルコトヲ得ス

○債權擔保編



然レトモ財産編第八十五條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テハ容假タルコトハ止ム

第三章 不動産質

第一節 不動産質ノ目的、性質及ヒ組成

第百十六條 不動産質契約ハ不動産質債權者ニ他ノ總債權者ヨリ先ニ其不動産ノ果實及ヒ入額ヲ收取スル權利ヲ付與ス

債務ノ満期ニ至レハ債權者ハ抵當權アル債權者ノ權利ヲ行フ

此期限ハ三十个年ヲ超過スルコトヲ得ス之ヲ超ユルトキハ當然三十个年ニ減縮ス

此期限ハ縱令之ヲ延フルモ前後通算シテ三十个年ヲ超過スルコトヲ得ス

第百十七條 不動産質ハ債務者ノ爲メ第三者之ヲ設定スルコトヲ得其不動産質ハ債務者ト設定者トノ間ニ於テ不動産質ノ爲メ第九十八條ニ定メタル効力ヲ生ス

第百十八條 不動産質ハ第百九十七條及ヒ第百九十八條ニ從ヒ抵當ト爲スコトヲ得ヘキ財産ノ上ニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

此他設定者ハ質ト爲ス財産ノ收益權ヲ自ラ有スルコトヲ要ス其質ハ如何ナル場合ニ於テモ其收益權ノ繼續期間ヲ超過スルコトヲ得ス

不動産質設定ノ爲メニ要スル能力ハ第百九條及ヒ第百十條ニ定メタル抵當設定ノ能力ト同一ナリ

第百十九條 不動産質カ合意上ノモノナルトキハ其實ハ公正證書又ハ私署證書ヲ以テスルニ非サレハ當事者ノ間ニ之ヲ設定スルコトヲ得ス

又不動産質ハ第百十二條ニ從ヒ遺言上ノ抵當ノ許サレタル場合ニ於テハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

不動産質ハ之ヲ設定スル證書又ハ遺言書ニ依リ財産編第三百四十八條ニ從ヒテ登記シタル後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

右ノ登記ハ抵當ノ順位ヲ保存スル爲メ抵當ノ登記ニ同シキ効力ヲ有ス

第百二十條 不動産質ヲ設定スル證書又ハ遺言書ニハ其不動産ノ精確ナル指示ノ外元利ノ償還額ヲ指示スルコトヲ要ス

右ノ指示カ不十分ナル場合ニ於テハ既ニ爲シタル登記ニ補足ノ合意ヲ附記ス然レトモ此附記ハ其日附後ニ非サレハ効力ヲ生セス

第百二十一條 質ト爲シタル物權カ用益權、賃借權又ハ永借權ナルトキハ此權利ノ設定證書ニ依ル登記ニ其質權ヲ附記スルヲ以テ足レトス

第百二十二條 質取債權者ハ右ノ外不動産質ニ關シ第百二條記載シタル如ク其質權ヲ擔保スル不動産ヲ現實ニ占有スルコトヲ要ス

第百二十三條 不動産質ハ動産質ニ關シ第百五條ニ記載シタル如ク擔方及ヒ受方ニテ不可分タリ

第百二十四條 質取債權者ハ質ニ取リタル不動産ヲ財産編第百十九條乃至第百二十二條ニ規定シタル制限ニ從ヒ且質契約ノ期間ニ限り質貸スルコトヲ得但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

又質取債權者ハ自己ノ權利ノ繼續期間ニ限り動産質ニ付キ第百七條ニ記載シタル如ク自己ノ責任ヲ以テ其不動産ヲ轉質ト爲スコトヲ得

第百二十五條 質取債權者ハ租稅其他毎年ノ公課ヲ負擔ス

○質權擔保編

乙三百九



買取債權者ハ小修繕及ヒ必要且急迫ナル大修繕ヲ爲ス費ニ任ス若シ此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス但此大修繕ノ費用ハ債務者之ヲ償還ス

第二百二十六條 建物、宅地ノ質ニ付テハ債權者ハ自ラ之ヲ領スルト之ヲ貸付スルトヲ間ハス其貸付ナ自己ノ債權ノ利息ニ充當シ猶ホ超過額アルトキ又ハ債權カ無利息ナルトキハ元本ニ充當ス

田畑山林ノ質ニ付テハ常事者ノ間ニ於テ果實ト利息トハ計算セスシテ相殺シタリト看做ス但反對ノ合意アルトキ又他ノ債權者ニ對シ又ハ利息ノ法律上ノ制限ニ付キ尙著ナル許容アルトキハ此限ニ在ラス

貸付又ハ果實ヲ利息ニ充當スルニハ毎年ノ公課及ヒ保持ノ管理ノ費用ヲ控除シタル純利益額ニ付キ之ヲ爲ス

第二百二十七條 買取債權者ハ如何ナル反對ノ合意アルニ拘ハラズ當ニ已レノ爲メ自擔重キニ過クルト思慮スル收益權ヲ將來ニ向ヒテ拋棄シ無利息ニテ抵當權ノミヲ存スルコトヲ得然レトモ適當ノ時期ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十八條 債權者ハ債務ノ皆済ニ至ルマテ質ニ取リタル不動産ノ占有ヲ留置スルコトヲ得然レトモ買取債權者ハ債務ノ満期前又ハ満期後ニ債務者又ハ他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス

又買取債權者ハ満期後自ラ賣却ヲ申立ツルコトヲ得  
右ハ下ニ指示シタル別異ノ効力ヲ生ス  
第二百二十九條 他ノ債權者ヨリ求メタル賣却ノ場合ニ於テハ買取債權者ハ其順位ニ於テ其抵當權ヲ行ヒ且其債權者カ如何ナル先取特權又ハ抵當權アル他ノ債權者ニモ先セラレサルトキ及ヒ先ンセラ

ルルモ他ノ債權者カ總テノ代價ヲ取盡サスシテ殘餘アルトキハ取得者ハ買取債權者ノ尙ホ受ク可キモノノ爲メ第百十六條ニ從ヒ質ノ終了ス可キ時期ニ至ルマテ留置權ニ違フ責アリ

債務者ノ爲シタル賣却ニシテ先取特權者クハ抵當權アル債權者又ハ買取債權者ノ請求ニ因リテ増價競賣ノ有リタル場合ニ於テモ亦同シ

然レトモ買取債權者自ラ賣却ヲ求メタル場合ニ於テハ其收益權及ヒ留置權ハ消滅ス但其賣却ニ付キ明白ニ此權利ヲ留保シ且順位ノ如何ヲ問ハス他ニ先取特權又ハ抵當權アル債權者アラサルトキハ此限ニ在ラス

右二箇ノ條件アルトキハ取得者債務ノ消滅ニ至ルマテ質權ニ違フ責アリ  
第三百十條 第百六條、第百九條、第百十條及ヒ第百十三條乃至第百十五條ハ不動産質ニモ之ヲ適用ス

第四章 先取特權

第百三十一條

先取特權ハ合意ナキモ法律カ或ル債權ノ原因ニ附著セシメタル優先權ナリ但不動産質及ヒ不動産質ヨリ生スル先取特權ハ合意上ノモノトス

先取特權ハ法律ノ制限シテ定メタル原因、條件及ヒ目的ニ於ケルニ非サレハ存在セス  
先取特權カ第三所持者ニ對シテ追及權ヲ付與スル場合及ヒ其權利行使ノ條件モ又法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三百二十二條 先取特權ハ不動産質及ヒ不動産質ニ關シ第百五條及ヒ第百二十三條ニ記載シタル如ク働方及ヒ受方ニテ不可分タリ

第三百二十三條 先取特權ノ負擔アル者カ第三者ノ方ニテ滅失シ又ハ毀損シ第百三條此カ爲メ債務者ニ賠償ス



債ヲ負擔シタルトキハ先取特權アル債權者ハ他ノ債權者ニ先タテ此賠償ニ於ケル債務者ノ權利ヲ行フコトヲ得但先取特權アル債權者ハ清算前ニ合式ニ拂渡差押ヲ爲スコトヲ要ス

先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却シ又ハ質貸シタル場合及ヒ其物ニ關シ權利ノ行使ノ爲メ債務者ニ金額又ハ有價物ヲ清算ス可キ總テノ場合ニ於テモ亦同シ

第三百三十四條 先取特權ノ種類ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 債務者ノ總動産及ヒ附隨ニテ其總不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第二 或ル動産ニ係ル特別ノ先取特權

第三 或ル不動産ニ係ル特別ノ先取特權

第三百三十五條 一般又ハ特別ノ先取特權ヲ有スル債權者ノ相互ノ順位ハ本章ノ各箇ニ於テ之ヲ規定ス不動産ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ其同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ有スル債權者ニ先タツ但法律ニ於テ特別ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス

同原因又ハ同順位ノ先取特權アル債權者ハ其債權額ノ割合ニ應シテ清算ヲ受ク

第三百三十六條 本法ニ定メタル先取特權ハ商法又ハ特別法ヲ以テ規定シ又ハ規定ス可キ先取特權ヲ妨ケス

商法又ハ特別法ノ先取特權ハ別段ノ規定ナキ場合ニ於テハ下ニ定メタル一般ノ規則ニ從フ

第一節 動産及ヒ不動産ニ係ル一般ノ先取特權

第一款 一般ノ先取特權ノ原因

第三百三十七條 動産及ヒ不動産ニ係ル先取特權アル債權者ハ之ヲ左ニ掲ク但下ニ定メタル制限及ヒ條件ニ從フ

第一 訟事費用

第二 葬式費用

第三 最後疾病費用

第四 雇人給料

第五 日用品供給

第一則 訟事費用ノ先取特權

第三百三十八條 訟事費用ノ先取特權ハ或ハ債務者ノ財産ヲ保存スル爲メ或ハ其財産ヲ清算配當スル爲メ各債權者ノ共同利益ニ於テ正當ニ爲セル裁判上若クハ裁判外ノ總テノ行爲ニ付キ金錢ノ立替ヲ爲シタル債權者又ハ給料若クハ謝金ヲ受取ル可キ債權者ニ屬ス

總債權者ニ有益ナラザリシ費用ニ付テハ先取特權ハ特別ノモノニシテ其費用ノ爲メ利益ヲ得タル債權者ニ對スルニ非サレハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二則 葬式費用ノ先取特權

第三百三十九條 債務者ノ身分ニ應シ且慣習ニ從ヒテ爲シタル葬式費用ハ先取特權アルモノトス

先取特權ハ債務者ノ擔當ニ係ル同居親族ノ葬式費用ニモ亦之ヲ適用ス

此先取特權ハ葬式ニ連續シタル出費ニ及ハス縱令其出費カ慣習上ノモノタルモ亦同シ

第三則 最後疾病費用ノ先取特權

第四百十條 最後疾病費用ノ先取特權ハ債權者又ハ前條ニ指定シタル親族ノ死亡前ノ疾病ニ關スル醫師藥商ノ看病人其他此ニ類スル費用ヲ包含ス但債務者ノ破産前又ハ無資力前ノ疾病及ヒ其親族ノ疾病ニ關スル費用モ亦同シ

○債權擔保編



長病ノ場合ニ於テハ右ノ費用ノ先取特權ハ最後ノ一年ノ費用ニ之ヲ制限ス

右ノ費用ヲ生シシメタル疾病ノ外ナル原因ノ爲メ死亡アリタルトキト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス

第四則 雇人給料ノ先取特權

第四百十一條 雇人ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居親族ノ雇人ニ屬ス

右ノ先取特權ハ最後ノ一年ノ給料ノミヲ擔保ス

第五則 日用品供給ノ先取特權

第四百十二條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其擔當ニ係ル同居ノ親族及ヒ雇人ノ生活ニ必要ナル日用品ノ供給者ニ屬ス

右ノ先取特權ハ最後ノ六ヶ月間ノ供給ノミヲ包含ス

第二款 一般ノ先取特權ノ效力及ヒ順位

第四百十三條 一般ノ先取特權ハ先取特權アル各債權者カ動産ニ付キ配當ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

然レトモ動産代價ノ配當ニ先メテ不動産代價ノ配當アルトキハ債權者ハ假ニ條件附ニテ之ニ加入スルコトヲ得但日後動産代價ノ配當加入ニ於テ差濟ヲ得サル部分ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

動産代價ノ配當ニ有益ナル時期ニ加入スルコトヲ意リタル債權者ハ動産ニ付キ受ク可カリシモノノ限度ニ於テ不動産ニ付キ其優先權ヲ失フ

第四百十四條 一般ノ先取特權ノ互ニ競合スル場合ニ於テハ第三百三十八條乃至第四百十二條ニ列記シタル相互ノ順序ニ從ヒテ配當加入ヲ定ム

右ノ數條ニ掲ケタル同原因ノ債權ハ同順位ニテ配當ニ加入ス

若シ一般ノ先取特權カ動産ニ係ル特別ノ先取特權ト競合スルトキハ其順位ハ下ノ第二節ニ於テ之ヲ規定ス

不動産ニ係ル特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先タチ又特別ノ抵當ハ後ノ設定ニ係ルト雖モ詐害ナキニ於テハ一般ノ先取特權ニ先タツ

然レトモ一般ノ先取特權ハ其發生前ノ取得ニ係ル一般ノ抵當ニモ先タツ

一般ノ抵當ノ負擔アル總不動産ヲ同時ニ賣却シタル場合ニ於テハ一般ノ先取特權ハ各不動産ノ賣却代價ノ割合ニ應シテ其總不動産ニ付キ配當ニ加入ス

若シ順次ニ右ノ不動産ヲ賣却スルトキハ一般ノ先取特權ハ初ノ賣却ニ付キ全部之ヲ充當シ尙ホ附隨ニテ次ノ賣却ニ付キ之ヲ充當ス且此先取特權ヲ負擔セシ不動産ニ付キ一般ノ抵當ヲ有スル債權者ハ他ノ不動産ノ賣却代價ニ付キ求償權ヲ有ス

第四百十五條 一般ノ先取特權ハ不動産カ債務者ニ屬スル間ハ他ノ債權者ニ對抗スル爲メ其不動産ニ付テノ登記ヲ要セス

第二節 動産ニ係ル特別ノ先取特權

第一款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的

第四百十六條 上ノ第二章ニ規定シタル先取特權ヲ有スル動産買取債權者ノ外下ニ指定シタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有スル債權者ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 不動産ノ貸貸入

第二 種子及ヒ肥料ノ供給者

第三 農業ノ稼人及ヒ工樂ノ職工

○債權擔保編



第四 動産物ノ保存者

第五 動産物ノ賣主

第六 旅店主人

第七 舟車運送營業人

第八 保証金ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ所爲ニ對スル債權者

第九 右保証金ノ貸主

第一則 不動産貸借人ノ先取特權

第四百十七條 居室、倉庫其他ノ建物ノ貸借人ハ貸借人ノ使用又ハ商工業ノ爲メ此建物内ニ備ヘタル動産物ニ付キ先取特權ヲ有ス

右ノ動産物カ貸借人ニ屬セスト雖モ先取特權ハ猶ホ存ス但貸借人カ貸借場所ニ此動産物ノ持込ヲ知リタル當時其物ノ貸借人ニ屬セサル事實ヲ知ラス且其事實ヲ豫見スルニ足ル可キ理由アラサリシトキニ限ル

貸借人ノ先取特權ハ現金ニ付キ又貸借人及ヒ其家族ノ一身ノ使用ニ供シタル金玉寶石ニ付キ又無記名ナルモ証券ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第四百十八條 貸借人ハ家賃ノ當期分及ヒ後ノ一期分ノ雜費ヲ擔保スルニ足ル可キ動産ヲ貸借シタル場所ニ備フルコトヲ貸借人ニ要求スルコトヲ得貸借人之ヲ爲サス且此家賃ノ前拂又ハ之ニ相當スル其他ノ擔保ヲ供セサルトキハ貸借人ハ貸借借ヲ解除スルニトヲ得尙ホ損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得

貸借場所ニ備ヘタル動産ヲ貸借人ノ許諾ナクシテ取去リタルモ別ニ許諾ナキニ於テハ貸借人ハ其擔

保カ不足ト爲リタルトキ且貸借人ニ屬スル權利ノ限度内ニ非サレハ此動産ヲ其場所ニ復セシムルコトヲ得ス

然レトモ貸借人ノ權利ヲ詐害シテ爲シタル行爲ニ付テハ貸借人ハ財産編第三百四十一條以下ニ記載シタル條件及ヒ區別ニ從ヒ第三者ニ對シテ其行爲ヲ廢絶セシムルコトヲ得

右ハ總テ第三百三十三條ニ依リテ貸借人ノ有スル權利ヲ妨ケス

第四百十九條 貸借借ト永賃借トテ間ハス田畑山林ノ貸借人ハ貸借人カ居宅並ニ土地利用ノ建物内ニ備ヘタル動産ニ付キ及ヒ土地ノ利用ニ供シタル動物農具其他ノ器具ニ付キ上下同一ノ限度ニ於テ先取特權ヲ有ス

右ノ貸借人ハ貸借シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物カ猶ホ土地ニ附著スルト土地ニ保存シ有ルトテ間ハス其收穫物及ヒ產出物ニ付キ先取特權ヲ有ス

分果貸借人ハ貸借シタル土地ノ收穫物其他ノ產出物ノ中ニテ自己ノ權利ヲ有スル部分カ猶ホ分果小作人ノ方ニ存スル間ハ直接ニ其收穫物其他ノ產出物ノ上ニ先取特權ヲ行フ

第五百十條 賃借權ノ讓渡又ハ轉賃ノ場合ニ於テ賃借人ハ貸借場所ニ備ヘ有ル動産カ讓受人又ハ轉賃人ニ屬スルコトヲ知ルト雖モ其先取特權ハ此等ノ物ニ及フ

此場合ニ於テ先取特權ハ第三百三十三條ニ從ヒ讓渡又ハ轉賃ノ代價トシテ主タル賃借人ノ受取ル可キ金額ニ及フ但前拂ヲ以テ賃借人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百十一條 賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃借人ハ土地、建物ノ借賃其他ノ負擔ニ付キ前期、當期及ヒ次期ノ分ニ非サレハ前數條ニ定メタル先取特權ヲ有セス

此他先取特權ハ賃借借ヨリ生スル他ノ合意上ノ義務前期及ヒ當期ニ於テノ賃借人ノ過失又ハ懈怠

○債權擔保編



ノ爲メ貸貸人ノ受ク可キ賠償及ヒ貸貸人カ請求スルコトヲ得ヘキ解除ニ添ヒタル損害賠償ヲ擔保ス  
第百五十二條 右清算ノ場合ニ於テ他ノ債權者ハ自己ノ利益ノ爲メ貸貸借ノ解除ヲ防止シ及ヒ初ヨリ  
轉貸又ハ讓渡ノ禁止アルニ拘ハラス其貸借權ヲ轉貸シ又ハ讓渡スコトヲ得但貸借借定期ノ爲メ貸貸  
人ニ土地、建物ノ借賃其他ノ納額ヲ擔保スルコトヲ要ス

第二則 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權

第百五十三條 所有者ノ用益者、貸借人又ハ占有者ニ種子及ヒ肥料ヲ供給シタル者ハ之ヲ用ヒタル年ノ  
果實ニ付キ先取特權ヲ有ス

穀種及ヒ蠶ノ飼養ニ供スル桑葉ヲ供給シタル者ニ付テモ亦同シ

第三則 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權

第百五十四條 雇人ノ外其年ノ耕耘收穫ノ爲メ勞働シタル稼人ハ一ヶ年間ノ給料ノ爲メ其收穫物ニ付  
キ先取特權ヲ有ス

又工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付キ先取特權ヲ有ス但其年ノ給料中最後ノ三ヶ  
月間ノ爲メノミニ限ル

第四則 動產物保存者ノ先取特權

第百五十五條 動產物ノ修繕又ハ保存ノ費用ニ付テノ債權者ハ第九十二條ニ從ヒ已レニ屬スル留置權  
ヲ行ハサルトキト雖モ其修繕又ハ保存シタル物ニ付キ先取特權ヲ有ス

右ノ先取特權ハ金額、有價物其他動產物ニ關スル物權又ハ入債ヲ債務者ノ爲メニ追認シ保存シ又ハ  
實行セシメタル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ノ費用ニ之ヲ適用ス

第五則 動產物賣主ノ先取特權

第百五十六條 動產物ノ賣主ハ代價締済ノ爲メ期限ヲ許與シタルト否トテ間ハス其代價及ヒ利息ノ爲  
メ賣却物ニ付キ先取特權ヲ有ス

若シ補足額ヲ以テスル交換アリテ其補足額カ讓渡シタル物ノ價額ノ半ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其  
補足額ノ爲メ交換物ニ付キ存在ス

第百五十七條 先取特權ハ賣却物カ用方ニ因リ又ハ不動産ニ合體スルニ因リテ不動産ト爲リタルトキ  
ト雖モ猶モ買主ノ占有ニ在リ且變形セサル間ハ存続ス但合體ノ場合ニ於テハ不動産ヲ毀損セスシテ  
其物ヲ分離スルヲ得ルコトヲ要ス

第百五十八條 賣主ノ先取特權ハ財產取得編第四十七條及ヒ第八十二條ニ規定シタル留置及ヒ解除ノ  
權利ヲ妨ケス

第六則 旅店主人ノ先取特權

第百五十九條 旅店ノ主人ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料、食料ノ爲メ其旅客ノ携帶シテ尙ホ旅店ニ  
存スル手荷物ニ付キ先取特權ヲ有ス

第七則 舟車運送營業人ノ先取特權

第百六十條 舟車運送營業人ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃ノ爲メ及ヒ關稅其他正當ナル附從ノ費用ノ爲メ  
自己ノ手ニ存スル運送物ニ付キ先取特權ヲ有ス

運送營業人カ運送物ノ引渡ヨリ四十八時以内ニ債務者又ハ其名ヲ以テ其物ヲ受取リタル者ニ對シ其  
物ヲ返還スルカ又ハ運送賃其他ノ費用ヲ締済スルカノ催告ヲ爲シ且其效果ヲ生セシムル爲メ成ル可  
ク短キ時間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルトキハ其先取特權ハ物ノ引渡後ト雖モ存続ス  
如何ナル場合ニ於テモ第三取得者ニ對シテ物ヲ回復スルコトヲ得ス但第百四十八條ニ規定シタル如

○ 質權擔保編



ク詐害アル場合ハ此限ニ在ラス且第百三十三條ノ適用ヲ妨ケス

第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權

第百六十一條 保證ヲ供スル義務アル公吏ノ職務上ノ過失又ハ職務ノ濫用ヨリ生スル債權ハ其保證金ニ付キ先取特權アリ

第九則 保證金貸主ノ先取特權

第百六十二條 前條ノ保證金ヲ貸付タル第三者ハ職務上ノ所爲ヨリ害ヲ受ケタル者ニ對シテ後第百六十二條ニテ此保證金ニ付キ先取特權ヲ有ス但第三者カ貸付ノ當時又ハ債權者ヨリ何等ノ故除キ違ヘサルモ前規則ニ從ヒテ其權利ヲ認シタルトキニ限ル

第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位

第百六十三條 動産ニ係ル特別ノ先取特權ト一般ノ先取特權ト適合スルトキハ優先ノ順序ヲ左ノ如ク規定ス

第一 訟事費用ハ其費用ノ有益タリシ總債權者ノ債權ニ先タツ但有益ノ限度又ハ割合ニ從フ

第二 其他四箇ノ一般ノ先取特權ハ第百三十三條ニ定メタル順序ヲ以テ總テノ特別ノ先取特權ニ先タツ但特別ノ先取特權ニ屬セサル動産ノ不足ナル場合ニ限ル

第百六十四條 一箇ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權ヲ有スル諸種ノ債權適合スルトキハ其相互ノ優先權ハ下ノ順序及ヒ區別ニ從ヒテ之ヲ定ム

第一ノ順位ハ先取特權ノ目的物ヲ保存シタル者ニ屬ス

若シ數人ノ債權者漸次ニ保存ヲ爲シタルトキハ優先權ハ其間ニテ最後ノ保存者ニ屬ス

第二ノ順位ハ合意上ノ動産質ニ因リ或ハ不動産ノ貸貸人旅店主人又ハ運送營業人ノ如ク默示ノ動産

質ニ因リテ物ヲ質ニ取リタル債權者ニ屬ス

第三ノ順位ハ物ノ質主ニ屬ス

然レトモ質取債權者ハ動産質設定ノ時其物ノ保存費用ノ未タ支拂アラサルコトヲ知ラザリントキハ第一ノ順位ヲ得

之ニ反シテ質取債權者カ賣却代價ノ未タ支拂アラサルコトヲ知リタルトキハ質主之ニ先タツ  
收穫物ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ採人ニ第二ノ順位ハ種子及ヒ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ貸貸人ニ屬ス

工業ノ職工ハ工業ヨリ生スル產出物又ハ製造品ニ付キ貸貸人ニ先タツ

公吏ノ保證金ニ關シテハ職務上ノ所爲ニ對スル各債權者ハ相共ニ債權ノ割合ニ應シ其債權ノ日附ニ關セス他ノ債權者ニ先タチ又保證金ヲ貸付タル債權者ニモ先タツ其保證金ヲ貸付タル債權者ハ保證金ノ殘額ニ付キ第二位ニテ先取特權ヲ有ス

第三節 不動産ニ於ル特別ノ先取特權

第一款 不動産ニ於ル特別ノ原因及ヒ目的

第百六十五條 左ノ債權者ハ下ニ定メタル債權ノ爲メ其條件ニ從ヒ不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第一 賣買、交換其他有價ノ行爲ニ因リ又無價ナルモ負擔ヲ帶フル行爲ニ因リテ不動産ヲ讓渡シタル者ハ其讓渡シタル不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第二 共同分割者ハ分割中ニ包含シタル不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第三 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ工事ニ因リテ不動産ニ生シタル増價ニ付キ先取特權ヲ有ス

第四 先取特權ヲ生セシムル行爲ノ當時讓渡人共同分割者、工事請負人ニ支拂ヒタル金銭ノ質主

○債權擔保編



ハ右同一ノ不動産ニ付キ先取特權ヲ有ス

第一則 譲渡人ノ先取特權

第百六十六條 譲渡人ノ先取特權ハ左ノ各人ニ属ス

- 第一 賣買ノ代價及ヒ利息其他ノ負擔ニ付テハ債主
- 第二 交換ノ補足額、負擔及ヒ交換物ノ追尋擔保ニ付テハ交換者
- 第三 贈與ノ負擔ニ付テハ贈與者又ハ其承繼人

此他ノ不動産譲渡人ハ一般ニ其對價及ヒ負擔ニ付キ先取特權ヲ有ス

第百六十七條 賣買代價、交換補足額ノ外賣買、交換、贈與ノ負擔及ヒ交換其他有債ノ合意ニ於ケル追尋擔保ノ未定ノ賠償ハ讓渡ノ証書又ハ日後ノ証書ヲ以テ金錢ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス  
此他右ノ証書ハ次款ニ記載スル如ク之ヲ公示スルコトヲ要ス

第百六十八條 交換其他不動産ノ讓渡ノ對價トシテ受取リタル不動産ノ追尋擔保ノ爲メノ先取特權ハ其追尋カ讓渡ノ時ヨリ十年内ニ生シ且廢絶ス可カラサル判決ヨリ一个年内ニ擔保ノ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セス

對價トシテ受取リタル動産ニ關シテハ擔保ノ爲メノ先取特權ハ追尋カ一个年内ニ生シ且廢絶ス可カラサル判決ヨリ一个年内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ存在セス

第百六十九條 不動産ノ讓渡人ノ先取特權ハ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ其權利ニ基キ且其費用ヲ以テ不動産ニ加ヘタル増加及ヒ改良ニ及ハス

第二則 共同分割者ノ先取特權

第百七十條 社員其他ノ共有者ハ或ハ抽籤ノ方法或ハ合意上ノ指定或ハ不分物競賣ニ因レル分割ヨリ

生スル左ノ債權ノ爲メ其分割ニ於テ各自ノ得タル不動産ニ付キ互ニ先取特權ヲ有ス

第一 補足額ノ爲メ即チ相當部分ノ返還ノ爲メニハ之ヲ負擔セル分割者ニ歸シタル不動産ニ付先取特權アリ

第二 不分物競賣ノ代價ノ爲メニハ其競賣シタル不動産ニ付キ先取特權アリ

第三 分割者ノ一人カ其相當部分ノ動産又ハ不動産ニ於テ受ケタル追尋ノ擔保ノ爲メニハ他ノ分割者ニ歸シタル總不動産ニ付キ先取特權アリ但各分割者ノ債務ノ部分ニ限ル

第百七十一條 右ノ擔保ハ左ノ條件ニ之ヲ適用ス

第一 社員ニシテ他ノ社員ニ對シ補足額又ハ不分物競賣ノ代價ヲ負擔シタル者ノ無資力

第二 分割者ノ一人ノ相當部分ニ債權ヲ充テタルトキ其債務者ノ無資力但其債務者ハ分割タルト

外人タルトナ間ハ分割者ノ當時無資力タリシコトヲ要ス

第百七十二條 第百六十八條ハ分割者間ノ追尋擔保ノ先取特權ニ之ヲ適用ス  
分割者タルト否トナ間ハ債務者ノ無資力ニ對シテハ其擔保ハ元本ニ於ケル債務ノ満期ヨリ一个年内ニ請求ヲ爲シ之ヲ公示シタルトキニ非サレハ當事者ノ間ニテモ第三者ニ對シテモ之ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

債務カ無期又ハ終身ノ年金權タルトキ債務者ノ無資力カ分割ノ日ヨリ十介年後ニ生スルニ於テハ其擔保ノ負擔ハ止ム  
債務カ利息ヲ生スル元本ニシテ其満期カ十介年以上ニ及フトキモ亦同シ

第百七十三條 第百六十九條ノ規定ハ分割者ノ先取特權ニモ亦之ヲ適用ス

第三則

工匠技師及ヒ工事請負人ノ先取特權



第七十四條 工匠、技師及ヒ工事請負人ハ建物、土手若クハ掘削ノ築造若クハ修繕又ハ地上ニ爲シ

ル排泄、灌溉、開鑿、土其他之ニ類似スル工事ヨリ生スル債權ノ爲メ先取特權ヲ有ス

右ノ先取特權ハ鐵坑及ヒ石坑ノ開掘、利用、閉鎖又ハ廢止ニ關スル地下又ハ外部ノ工事ノ爲メ工匠、技

師及ヒ工事請負人ニ屬ス

第七十五條 右ノ工事ヨリ生スル先取特權ハ其工事ニ因リ土地又ハ建物ニ加ヘタル増價ニシテ先取

特權行使ノ當時猶ホ存スルモノノミニ付キ存在ス

右ノ増價ハ裁判所ノ選任シタル鑑定人ノ作レル三箇ノ調書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

此第一調書ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ作りテ場所ノ現狀ヲ明定シ且目驗見タル工事ノ概略ヲ指示スル

コトヲ要ス

此第二調書ハ工事ノ受取ニ付キ争アルモ工事ノ竣成ヨリ又ハ原因ノ如何ヲ問ハス其工事ノ廢止ヨリ

三個月内ニ之ヲ作り且其工事ヨリ現ニ生スル増價ヲ證スルコトヲ要ス

此第三調書ハ配當加入ノ請求ノ當時之ヲ作り且右増價ノ存スルモノヲ證スルコトヲ要ス

第四則 金錢貸主ノ先取特權

第七十六條 前數條ニ掲ケタル先取特權ハ讓渡若クハ分割ノ當時又ハ工匠、技師若クハ工事請負人

トノ契約ノ當時ニ於テ賣買若クハ不分割物競賣ノ代價、交換若クハ分割ノ補足額又ハ工事ノ代金ノ當

濟ノ爲メ金錢ヲ貸付タル者ニ法律ニ依リテ直接ニ屬ス但其金錢ノ貸付及ヒ使用ヲ此等ノ行爲ノ證書

中ニ記載シタルトキニ限ル

若シ讓渡人、分割者又ハ工事ノ爲メノ債權者ノ利益ニ於テ先取特權ノ生セシ後ニ金錢ヲ貸付タルト

キハ貸主ハ財產編第四百八十一條及ヒ第四百八十一條ニ定メタル條件及ヒ方式ニ從ヒ債權者又ハ債務

ヨリ合意上ノ代位ヲ得タルトキニ非サレハ先取特權ヲ取得ニス

孰レノ場合ニ於テモ金錢ノ貸主ハ債務ノ一分ノミヲ拂ヒタルトキハ貸主ハ其總ヒタルモノノ割合ニ

應シ財產編第四百八十六條ニ從ヒ原債權者ト共ニ先取特權ヲ行フ

第二款 債權者間ニ於ケル不動産ノ特別先取特權ノ效力及ヒ順位

第七十七條 前數ニ掲ケタル先取特權ハ下ニ定メタル方法、條件及ヒ期間ヲ以テ公示シ且保存シタ

ルトキニ非サレハ之ヲ以テ他ノ債權者ニテ抗スルコトヲ得ス

第七十八條 賣買代價ノ爲メ貸主ノ先取特權及ヒ補足額ノ爲メノ交換者ノ先取特權ハ代價又ハ補足

額ノ全部又ハ一分ヲ未タ清濟セサル旨ヲ記シタル所有權移轉證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス

又交換ニ於ケル追奪擔保ノ爲メ及ヒ賣買、交換其他所有權移轉契約ノ附從負擔ノ爲メノ先取特權ハ

證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス但擔保及ヒ負擔ノ評價ヲ證書中ニ記載シタルトキニ限ル

第七十九條 分割者ノ先取特權ハ分割證書ニ依ル登記ヲ以テ之ヲ保存ス但其證書ニ不分割物競賣代價

又ハ補足額即チ配當過分ノ返還及ヒ追奪擔保ノ評價其他各配當部分ノ負擔ノ評價ヲ記載シタルトキ

ニ限ル

第八十條 右讓渡又ハ分割ノ證書ニ依ル登記ナキ間ハ取得者又ハ分割者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ得

タル債權者ハ其擔保ヲ登記シタルトキト雖モ其登記ヲ以テ先取特權アル讓渡人又ハ分割者ニ對抗ス

ルコトヲ得ス但工事ヨリ生スル先取特權アル債權ハ此限ニ在ラス

然レトモ利害關係人ハ原契約者ノ承諾ヲ得スト雖モ當ニ右讓渡又ハ分割ノ登記ヲ爲サシムルコトヲ

得

第八十一條 讓渡又ハ分割ノ證書ニ其對價物ノ全部若クハ一分ノ未タ清濟アラサルコト又ハ負擔ノ

○債權擔保編



付シ有ルコトヲ記載セサルトキハ日後ノ証書ヲ以テ此脱漏ヲ補フコトヲ得且其補脱ハ債權者ノ注意ヲ以テ譲渡又ハ分割ト共ニ之ヲ公示スルコトヲ得

右ノ補脱ヲ譲渡又ハ分割ノ登記ト共ニ公示セサルトキハ債權者ハ何時ニテモ其補脱ヲ公示スルコトヲ得但此場合ニ於テハ先取特權ハ單純ナル法律上ノ抵當ニ變性ス

右ノ抵當ハ二箇ノ公示ノ間ニ於テ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ之ヲ公示シタル債權者ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

譲渡若クハ分割ノ証書ニ記シタル負擔又ハ擔保ノ評價ヲ日後ノ証書ニ記載シタルトキモ亦同シ但此証書ニ依ル抵當ノ登記ハ其登記ヲ爲シタル日附ニ從テ債權者ノ順位ヲ定ム

第百八十二條 譲渡人又ハ分割者ハ其先取特權カ法律上ノ抵當ニ變性シタルトキハ此抵當ノ登記前ニ債務者ノ權利ニ基キ物上擔保ヲ取得シ且合式ニ保存シタル債權者ヲ害シテ義務不履行ノ爲メノ解除戻權ヲ行フコトヲ得ス

第百八十三條 工匠、技師又ハ工事請負人ノ先取特權ハ第百七十五條ニ定メタル第一第二ノ調書ニ依リ登記スルヲ以テ之ヲ保存ス

此第一調書ニ依ル登記ハ工事ヲ始ムル前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二調書ニ依ル登記ハ其調書ヨリ一个月内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二調書ニ依ル登記ノ効力ハ第一調書ノ日附ニ溯及シ且工事ノ前又ハ後ニ債務者ト契約シタル各人ニ對シ其増價ニ付テノ優先權ヲ先取特權アル債權者ニ保有セシム

利害關係人中ノ一人ノ爲シタル右調書ニ依リテ爲シタル登記ハ委任ナキト雖モ他ノ關係人ヲ利シ且總關係人ニ其債權ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受クル爲メノ同一ノ順位ヲ保有セシム但總テノ者カ有益ノ

時期ニ於テ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス

第百八十四條 前條ニ指定シタル期間ニ二箇ノ調書ニ依ル登記ノ一ヲ爲サザリシトキハ先取特權ハ法律上ノ抵當ニ變性シ其順位ハ左ノ日附ヲ以テ之ヲ定ム

第一 工事ノ鉅成又ハ絶止ノ時ヨリ三个月内ニ第二調書ヲ調製シ且次月内ニ之ヲ登記シタルトキ

ハ第一調書ノ運延登記ノ日附

第二 右ノ三个月内ニ第二調書ヲ調製セス又ハ三个月内ニ之ヲ調製シタルモ次月内ニ之ヲ登記セサルトキハ其第二調書ニ依ル登記ノ日附

第百八十五條 取得、分割又ハ工事ノ爲メ初ニ金錢ヲ貸付タル者ノ第百七十六條第一項ニ從ヒテ有ス

ル先取特權ハ譲渡人、分割者又ハ工事請負人ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ保存ス

右貸主カ日後代位ニ因リテ譲渡人、分割者又ハ工事請負人ニ承繼シタルトキ未タ先取特權ノ公示アラサルニ於テハ其貸主ハ主タル証書及ヒ代位証書ニ依ル登記ニ因リテ其公示ヲ爲サシム

若シ代位前ニ公示アリタルトキハ貸主ハ登記ニ代位ノ附記ヲ請求ス可シ

又先取特權アル債權ヲ讓受ケタル者ハ譲渡ノ附記ヲ請求ス可シ

此末ノ二箇ノ場合ニ於テ附記ヲ爲サシムルコトヲ運延シタル代位者又ハ讓受人ハ其以前善意ニテ債務者又ハ其承繼人ト原債權者トノ間ニ爲シタル辨濟其他ノ免責ノ行爲ヲ駁撃スルコトヲ得ス

○債權擔保



第百八十七條 不動産ニ付キ先取特權アル債權者間ノ相互ノ優先權ハ左ノ順序ニ從フ

第一 工匠、技師及ヒ工事請負人但其債權カ他ノ債權ヨリ後ニ生シタルトキモ亦優先權ヲ有ス  
此工事ヨリ生スル増價額カ右ノ各人ニ全ク辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テハ債權ノ割合ニ應ジ  
同一ノ順位ニテ其配當加入ヲ定ム

第二 譲渡人又ハ分割者

逐次ノ譲渡又ハ分割ノ場合ニ於テハ優先權ハ債權者間最モ舊キ者ニ屬ス  
金錢ノ貸主ハ或ハ初ヨリ或ハ合意上ノ代位ニ因リ貸付タル其金錢ニテ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ受ケタ  
ル債權者ト同一ノ順位ヲ有ス

第百八十八條 先取特權ノ登記及ヒ其更新、抹消、減少ニ關スル規則ハ先取特權及ヒ抵當權ニ共通ニシ  
テ之ヲ次章ニ規定ス

第三款 第三所持者ニ對スル不動産先取特權ノ効力

第百八十九條 合式ニ公示シタル先取特權ハ其負擔アル不動産ニ付キ第三所持者ニマテ追及ス  
第三所持者カ下ニ定ムル方法ノ一ニ依リテ先取特權アル債權者ニ辨濟セサルトキハ其債權者ハ第三  
所持者ニ對シ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得

第百九十條 一般ノ先取特權ハ第三所持者ノ取得ノ登記前ニ之ヲ登記シタルトキニ非サレハ其第三所  
持者ニ移轉シタル不動産ニ付キ追及權ヲ與ヘス

第百九十一條 譲渡者ノ取得ノ登記前ニ登記セサル譲渡又ハ分割ニ因リテ先取特權ヲ有スル債權者ハ  
其先取特權ノ生シタル權原ヲ登記スルコトニ付キ轉得者ヨリ催告ヲ受ケタルモ一个月内ニ其登記ヲ  
爲ササリシトキニ非サレハ追及權ヲ失ハス但此一个月ニハ距離ニ應ジテ法律上ノ期間ヲ加フ

然レトモ轉得者ハ其譲渡人カ十一年以上不動産ニ付キ法定ノ占有ヲ爲シタルトキハ右ノ催告ヲ爲ス  
賈ナク且舊所有者ノ總テノ先取特權ヲ免カル

第百九十二條 工事ニ因リ先取特權ヲ有スル債權者ハ工事ノ竣成又ハ其終止ノ前ニ譲渡ノ登記アリタ  
ルモ第一關書ニ依ル登記ニ因リテ追及權ヲ行フコトヲ得

工事ノ竣成シ又ハ終止シタルトキ第二關書ノ調製及ヒ之ニ依ル登記ノ二箇ノ期間カ未タ經過セサル  
ニ於テハ右ノ債權者ハ此期間ノ滿了後又ハ第二關書ヲ調製シ且之ニ依リテ登記ス可キ催告ヲ受ケタ  
ルモ一个月内ニ之ニ應セサリシ後ニ非サレハ先取特權ヲ失ハス

第百九十三條 先取特權アル譲渡者ハ追及權ヲ保存シ及ヒ之ヲ行フ爲メニ必要ナル公示ヲ爲ササルモ  
第三所持者ノ負擔シタル讓渡代價ニ付キ辨濟ヲ受クル權ヲ失ハス但代價ノ辨濟前又ハ順序配當手續  
ノ閉鎖前ニ自ラ債權者タルコトヲ知ラシメ且其債權ヲ証シタルトキニ限ル

第百九十四條 先取特權ニ關スル追及權、其條件、効力並ニ第三所持者カ所有權徵收ヲ避クル方法及  
ヒ先取特權消滅ノ原因ハ次章ノ第三節乃至第七節ノ規定ニ從フ但先取特權ノ固有ノ規則ニ反スルモ  
ノハ此限ニ在ラス

第五章 抵當

第一節 抵當ノ性質及ヒ目的

第百九十五條 抵當ハ法律又ハ人意ニ因リテ或ル義務ヲ他ノ義務ニ先タチテ辨償スル爲メニ先テタル  
不動産ノ上ノ物權ナリ

第百九十六條 抵當ハ動産質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク効力及ヒ受方ニテ不可分ナリ但反對  
ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

○債權擔保編



第百九十七條 抵當ハ不動産ノ完全所有權ノ上ノミナラス用益權、賃借權、未借權及ヒ地上權ノ上ニモ此等ノ權利ヲ支分シタル所有權ノ上ニモ之ヲ設定スルコトヲ得  
然レトモ完全ノ所有權ヲ有スル者ハ虛有權又ハ用益權ノミナ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス  
之ニ反シテ所有者ハ其不動産ノ限界ニ因リテ定マリタル部分又ハ其不分ノ幾部分ヲ抵當ト爲スコトヲ得

地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス又用方ニ因ル不動産ハ其附著スル不動産ヨリ分離シテ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第百九十八條 左ニ掲クルモノハ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第一 使用權、住居權其他讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サル財産

第二 財産編第十條第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル如キ不動産債權

第三 同條第四號ニ掲ケタル如キ不動産ト爲シタル債權但之ヲ不動産ト爲スコトヲ許可スル法律カ其抵當ヲ許ササルトキニ限ル

船舶ノ抵當ニ付テハ商法ノ規定ニ從フ

第百九十九條 此章ノ規定ハ商法其他特別法ニ於テ異例ヲ設ケサル限りハ此等ノ法律ヲ以テ設定シタル抵當ニ之ヲ適用ス

第二百條 抵當ハ意外及ヒ無償ノ原因ニ由リ或ハ債務者ノ所爲及ヒ費用ニ因リテ不動産ニ生スルコト有ル可キ増加又ハ改良ニ當然及フモノトス但他ノ債權者ニ對シテ詐害ナキコトヲ要シ且前章ニ規定シタル如キ工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權ヲ妨ケス

抵當ハ債務者カ縱令無償ニテ取得シタルモノナルモ其隣接地ニ及ハサルモノトス但新隣陸ノ設立又

ハ舊隣陸ノ廢棄ニ因リテ隣接地ヲ抵當不動産ニ合體シタルトキモ亦同シ

第二百一條 意外若クハ不可抗ノ原因又ハ第三者ノ所爲ニ出テタル抵當財産ノ滅失、減少又ハ毀損ハ債權者ノ損失タリ但先取特權ニ關シ第百三十三條ニ記載シタル如ク債權者ノ賠償ヲ受ク可キ場合ニ於テハ其權利ヲ妨ケス

若シ抵當財産カ債務者ノ所爲ニ因リ又ハ保持ヲ爲ササルニ因リテ減少又ハ毀損ヲ受ケ此カ爲メ債權者ノ擔保力不十分ト爲リタルトキハ債務者ハ抵當ノ補充ヲ與フル責ニ任ス

此補充ヲ與フルコト能ハサル場合ニ於テハ債務者ハ擔保ノ不十分ト爲リタル限度ニ隨シ満期前ト雖モ債務ヲ清済スル責ニ任ス

第二百二條 抵當財産ノ差押ナキ間ハ債務者ハ財産編第百十九條及ヒ第百二十條ニ定メタル期間其不動産ヲ貸貸スルコトヲ得又其果實及ヒ產出物ヲ讓渡シ及ヒ管理ノ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二節 抵當ノ種類

第二百三條 抵當ハ法律上、合意上又ハ遺言上ノモノタリ

第一款 法律上ノ抵當

第二百四條 左ノ抵當ハ總テノ要約ニ關セス當然成立ス

第一 婦カ其夫ニ對シテ有スルコト有ル可キ總債權ノ爲メ婚姻ノ日現ニ夫ニ屬スルト日後之ニ屬ス可キトテ開ハス其夫ノ總不動産ニ付キ婦ノ有スル抵當但夫ノ未成年タルトキモ亦同シ

第二 未成年者及ヒ禁治産者カ其後見人ニ對シテ有スル總債權ノ爲メ現在ニ屬スルト將來ニ得ルトテ開ハス後見人ノ總不動産ニ付キ有スル抵當

○債權擔保編



第三 國、府縣、市町村及ヒ公設所カ行政法ノ定メタル限度限ト條件トニ從ヒ會計吏員ノ管理ノ爲メ其不動産ニ付キ有スル抵當

又第百八十一條及ヒ第百八十四條ニ從ヒテ變性シタル先取特權ヨリ生スル抵當ハ之ヲ法律上ノ抵當ト看做ス

第二款 合意上ノ抵當

第二百五條 合意上ノ抵當ハ公正證書又ハ私署證書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス 代理人ヲ以テ抵當ヲ設定スルトキハ委任ノ要旨ヲ抵當ノ設定證書ニ示スコトヲ要ス

第二百六條 本邦ニ存在スル財産ニ付キ外國ニ於テ爲シタル抵當ノ合意ハ此種類ノ行爲ノ爲メ外國ニ於テ用ユル方式ニ從ヒ之ヲ爲シタルトキハ其效ヲ生ス然レトモ特別法ニ規定シタル條件ニ從フニ非サレハ此合意ニ依リ本邦ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ得ス

第二百七條 抵當ノ設定證書ニハ義務ノ擔保ニ充テタル不動産ヲ其性質及ヒ所在ヲ以テ特ニ指示スルコトヲ要ス

若シ抵當ノ設定カ債務者ノ現在ノ各不動産ヲ特ニ指示セシメテ其全部又ハ一分ヲ包含スルトキハ債務者ノ請求ニ因リ債務ノ擔保ニ必要ナル限度ニ其抵當ヲ減少スルコトヲ得

債務者ノ將來ノ財産ニ付テノ一般又ハ特別ノ抵當ノ設定ハ無効タリ

第二百八條 抵當ノ設定證書ニハ右ノ外義務ノ原因、體様及ヒ其主從ノ目的ヲ明カニ指示スルコトヲ要ス

義務ノ目的カ金錢タラサルトキハ之ヲ評價ス可シ然レトモ其評價ハ登記ノ時ニ於テモ猶ホ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 抵當ハ抵當ニ充テント欲スル物ノ所有權又ハ收益權ヲ有シ且有償又ハ無償ニテ其物ヲ處分スル能カヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス但第三者ノ抵當設定ニ關スル第二百一十一條ノ規定ヲ妨ケス

若シ有期ノ物權ヲ抵當ト爲シタルトキハ其抵當ハ此權利ノ時期外ニ效力ヲ生スルコトヲ得ス然レトモ抵當ト爲リタル權利カ此時期ノ満了前或ル出來事ニ因リ物ノ價額ヲ代表スル償金ニ移リタルトキハ債權者此償金ニ付キ其權利ヲ行フ

第二百十條 未成年者、禁治產者及ヒ失踪者ノ財産ハ法律ニ定メタル原因及ヒ方式ニ依ルニ非サレハ其代人ニ於テ之ヲ抵當ト爲スコトヲ得ス

第二百十一條 合意上ノ抵當ハ第九十八條及ヒ第百十七條ニ於テ動產質及ヒ不動産質ニ付キ記載シタル如ク債務者ノ債務ヲ擔保スル爲メ第三者ヨリ之ヲ設定スルコトヲ得

右ノ抵當ハ之ヲ設定セシムル爲メ債務者カ何等ノ出捐モ爲ササルトキハ債務者ニ對シテハ恩惠ナリトス

又抵當ハ債權カ無償ナルトキ又ハ有償ナルモ附約ナクシテ主タル合意以後ニ之ヲ設定シタルトキハ債權者ニ對シテモ恩惠ナリトス

第三款 遺言上ノ抵當

第二百十二條 抵當ハ遺贈ノ擔保ノ爲メ又ハ第三者ノ債務ノ擔保ノ爲メニノミ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

第三節 抵當ノ公示

第一款 登記ノ條件及ヒ期間

○債權擔保編



第二百三十三條 凡ノ法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ハ下ニ定メタル條件ニ從ヒ其不動産所在地ノ登記所ニ於テ登記ヲ爲シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

數箇ノ登記所ノ管轄ニ跨カル不動産ノ全部ヲ抵當ト爲シタルトキハ其主タル部分ノ所在地ヲ管轄スル登記所ニ於テ登記ヲ爲シ他ノ登記所ニ於テハ其登記及ヒ日附ノ記載ノミヲ爲ス

第二百三十四條 抵當ハ其設定ノ後債務者ノ無資力カ正當ニ宣告セラレ又ハ其財産ノ全部若クハ過半ノ差押ニ因リ顯然ト爲リタルトキハ有效ニ之ヲ登記スルコトヲ得ス但破産ノ場合ニ於ケル登記ノ權利ニ付テノ商法ノ制限ヲ妨ケス

抵當財産ノ讓渡アリタルトキ其讓受人ニ對シテ債權者ノ登記スル權利ノ制限ハ第五節ニ於テ之ヲ規定ス

第二百三十五條 債權者カ財産ノ管理權ヲ有セサルトキハ抵當ノ登記ハ法律上又ハ裁判上ノ代人ニ爲ス

抵當ノ登記ハ總理代理人及ヒ法律上又ハ合意上ノ抵當ノ附著シタル行為ヲ爲ス委任ヲ受ケタル部理代理人ノ權利及ヒ義務ニ屬ス

又登記ハ債權者ノ委任ナクシテ事務管理者ニ爲スコトヲ得

第二百三十六條 婦ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ニ對シ契約其他ノ方法ニテ條件附ナルト否トテ即ハス債務者ト爲リタル時ヨリ夫又ハ裁判所ノ許可ヲ要セス婦ノ請求ニ因リテ之ヲ登記スルコトヲ得又其登記ハ婦ノ適當ト思考スル不動産ノ全部又ハ一分ニ付キ之ヲ爲スコトヲ得但第二百二十六條ニ記載スル如ク夫ノ有スル抵當減消ノ權利ヲ妨ケス

婦カ登記ヲ爲ササルトキハ夫ハ婦ノ擔保ノ爲メ十分ナル不動産ニ付キ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

婦又ハ夫カ登記ヲ爲ササルトキハ親命委任ナキモ婦ノ親族又ハ姻族ニテ之ヲ爲スコトヲ得但婦ノ故隱又ハ拋棄ナキコトヲ要ス

第二百三十七條 未成年者ノ法律上ノ抵當ハ夫カ婦ノ法律上ノ抵當ヲ登記スルト同一ノ場合ニ於テ同一ノ條件ニ從ヒ後見人ニテ登記スルコトヲ要ス

後見人登記ヲ爲ササルトキハ後見監督人又ハ親族會員其登記ヲ爲スコトヲ要ス若シ之ヲ爲ササルトキハ未成年者ニ對シ連帶シテ損害賠償ヲ負擔ス

未成年者モ亦自治産者ト爲リタル後ハ其登記ヲ求ムルコトヲ得

第二百三十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ禁治産者ノ法律上ノ抵當ニ之ヲ適用ス

處刑言渡ニ因レル禁治産ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ特別ノ代理人ニテモ登記ヲ求ムルコトヲ得

第二百三十九條 債權者ノ相續人又ハ讓受人ハ原債權者ノミノ名ヲ以テ或ハ自己ト原債權者トノ連名ヲ以テ登記ヲ求ムルコトヲ得

債權者ノ代理人又ハ事務管理者ヨリ登記ヲ求ムルトキハ其名及ヒ分限ヲ本人ノ名及ヒ分限ト共ニ記載ス可シ

第二百四十條 債務者カ死亡シタルトキハ登記ハ債權者ノ選擇ニ因リテ其債務者ニ對シ又ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ノ設定シタル抵當ニ關シテハ設定者ニ對シテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百四十一條 法律上、合意上又ハ遺言上ノ抵當ノ登記ハ三十個年開其効力ヲ有ス三十個年後ハ債權ノ時効カ中斷又ハ停止ニ係リタルトキト雖モ其登記ノ効力ヲ失フ

右抵當ノ時効ハ無能力者ニ對シテ停止セス但其代人ニ對スル求償ヲ妨ケス

○ 債權擔保編



然レトモ三十个年ノ期間満了前ニ登記ヲ更新シ舊登記ノ日附ヲ精確ニ記載シタルトキハ抵當ノ順位ハ舊登記ト同一ノ日附ニテ存ス

登記ノ效力ヲ失ヒシ後ノ更新ハ新登記ニ同シク其更新ノ日附ニ於テノミ效力ヲ生ス

第二百二十二條 三十个年ノ期間ニ於ケル登記ノ更新ハ舊登記後ニ起リタル債務者ノ破産無資力又ハ死亡ニ拘ハラズ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十三條 登記ニ關スル等ハ抵當財産所在地ノ裁判所ニ之ヲ訴フ可シ

第二款 登記ノ抹消、減少及ヒ正誤

第二百二十四條 登記ノ抹消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 第一 債権カ無効タリ若クハ銷除ス可キモノタルトキ又ハ其全部ノ消滅シタルトキ
- 第二 抵當カ有効ニ設定セラレサルトキ

右ハ第二百三十條ニ記載シタル如ク或ル不動産ニ付テノ登記ヲ抹消スルコトヲ妨ケス

第二百二十五條 登記ノ抹消ハ債務者又ハ其承継人ノ請求ニ因リテ之ヲ宣告スルコトヲ要ス但下ニ規定シタル方式ニ於テ債権者ヨリ抹消ヲ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十六條 婦ノ法律上ノ抵當ヲ或ル不動産ニ制限セサル場合ニ於テ其債権ノ擔保ニ必要ナルヨリ多キ不動産ニ付キ登記アリタルトキ又ハ婚姻契約若クハ配偶者間ノ特別合意ニ因リテ婦ノ債権額ヲ評價セサル場合ニ於テ其債権ノ正當ナル評價ヨリ更ニ多キ金額ノ爲メニ登記アリタルトキハ夫又ハ其承継人ハ不動産又ハ金額ニ關シ裁判上ニテ此登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十七條 右ニ同シク後見人又ハ其承継人ハ未成年者又ハ禁治産者ノ擔保ニ必要ナルモノノ外ニ爲シタル登記ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但親族會議ノ決議ニ因リテ抵當ヲ或ル不動産ニ制限セス

又ハ債権額ヲ評價セサルトキニ限ル

第二百二十八條 合意上ノ抵當ハ債務者ノ現在ノ總財産ニ關シ過度ナルトキニ非サレハ第二百七條ニ記載シタル如ク債務者其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

債務者ハ債権者ノ登記シタル債権ノ評價ノ減少ヲ請求スルコトヲ得但設定證書又ハ別證書ヲ以テ評價ヲ高ササルトキニ限ル

第二百二十九條 遺言上ノ抵當ハ相続ノ不動産ニ付キ遺言者其制限ヲ爲サス又ハ債権ヲ評價セスシテ之ヲ設定シタルトキハ相続人其減少ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條 債務カ半額以上消滅シタルトキハ債権者ハ債務者ノ要求ニ因リ三種ノ抵當ニ付キ金額ノミノ登記ヲ減少ス可シ

債務者ハ一分ノ辨濟ヲ爲シタルトキハ常ニ自費ニテ登記ニ之ヲ附記スルコトヲ得

第二百三十一條 債務者ノ請求ヲ正當トスル判決ニハ抵當ヲ免カレタル不動産又ハ評價ヲ改メタル金額ヲ指示ス

右第一ノ場合ニ於テハ抵當ノ登記ヲ抹消シ第二ノ場合ニ於テハ之ヲ減少ス

第二百三十二條 前數條ニ從ヒ或ル不動産ニ抵當ノ登記ヲ減少シタル場合ニ於テ其不動産カ債権者ノ擔保ニ不十分ト爲リタルトキハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルト雖モ債権者ハ抵當ノ補充ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十三條 登記ノ抹消又ハ減少ハ確定判決ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス又證書ヲ以テスルニ非サレハ債権者之ヲ承諾スルコトヲ得ス

第二百三十四條 任意ノ抹消又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ其抹消又ハ減少ヲ承諾スルニハ債権者ノ同意ヲ要ス

○債權擔保編



者其債務ノ辨濟ヲ受ケ又ハ之ヲ追認スル能力ヲ有スルヲ以テ足レトス  
抹消カ右ノ外第二百二十四條ニ記載シタル原因ノ一ニ基クトキハ債權者和解スルノ能力ヲ有スルコトヲ要ス

又抹消又ハ減少カ抵當ヲ無償ニテ拋棄スル性質ヲ有スルトキハ債權者無償ニテ債權ヲ處分スル能力ヲ有スルコトヲ要ス

第二百三十五條 登記ノ抹消又ハ減少ヲ承諾スル爲メノ委任ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス

然レトモ抹消又ハ減少カ債務ノ消滅ニ基クトキハ債務者ノ免責ヲ承諾スル權限ヲ有シタル代理人ニ於テ其抹消又ハ減少ヲ承諾スルコトヲ得

和解又ハ無償ノ拋棄ニ付テハ委任ハ明示タルコトヲ要ス

第二百三十六條 抹消又ハ減少ヲ爲スニハ其合意又ハ判決ヲ登記ニ附記スルコトヲ要ス

第二百三十七條 抹消若クハ減少ヲ後日ノ判決又ハ債務者トノ合意ニテ銷除若クハ解除シタルトキハ其判決又ハ合意ヲ更ニ登記シ又ハ前登記ニ附記ス此場合ニ於テハ前登記ハ前債權者ノ爲メ其效力ヲ回復ス然レトモ抹消若クハ減少ノ後ニ於テ不動産ニ付キ權利ヲ取得シ抵當ノ復舊ノ公示前ニ其權利ヲ登記シタル第三者ニハ此登記ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二百三十八條 登記、更新、抹消又ハ減少ニ謬誤又ハ脱漏アルモ此カ爲メ銷除ヲ爲スニ足ラサルトキハ當事者ノ協議又ハ判決ヲ以テ正誤ヲ爲ス

第四節 債權者間ノ抵當ノ效力及ヒ順位

第二百三十九條 凡ソ不動産ニ付キ登記シタル抵當債權者ハ無特權債權者ニ先ダチ其不動産ノ代價ノ配當ニ加入スルコトヲ得

法律上、合意上又ハ慣習上ノ抵當ヲ有スル數人ノ債權者間ニ於テハ其配當加入ノ順位ハ數箇ノ登記ヲ同日ニ爲シタルトキト雖モ其登記ノ前後ニ因リテ之ヲ定ム

第二百四十條 登記ハ掛載シタル利息及ヒ定期ノ附從物ニ其經過シタル最後ノ二個年分ニ限リ主タル債權ト同一ノ順位ヲ得セシム但二個年以外ノ利息及ヒ附從物ノ爲メ債權者ノ日後登記ヲ爲スノ權利ヲ妨ケス然レトモ此登記ハ其日附後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第二百四十一條 抵當ノ順位ハ債權カ條件附ナルトキ又ハ信用ヲ開キテ爲ス貸付ノ如ク漸次ノ支拂ヨリ生スルトキト雖モ亦登記ニ因リテ之ヲ定ム

第二百四十二條 債權者カ數箇ノ不動産ニ付キ抵當ヲ有シ其各箇ノ代價カ同時ニ清算アリシトキハ其債權ハ總不動産ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ分配ス可シ

漸次ノ清算ノ場合ニ於テ右ノ債權者カ不動産中ノ一箇ノ代價ニ因リテ全ク辨濟ヲ受ケ此一箇ノ不動産ニ付キ其債權者ノ次ニ抵當ヲ有スル一人又ハ數人ノ債權者カ爲メニ辨濟ヲ受ケルコトヲ得サルトキハ其一人又ハ數人ノ債權者ハ他ノ各不動産ニ付テハ其相互ノ順位ヲ以テ右辨濟ヲ受ケタル債權者ノ抵當ニ當然代位ス

第二百四十三條 前條ノ代位ハ原債權者ニ次テ右各不動産ニ付キ登記ヲ爲シタル債權者ニ對シテ其效ヲ生ス

右ノ代位者カ登記ニ其代位ヲ附記シタルトキハ其代位者ヲ順序配當手續中ニ加ハラシムルコトヲ要シ且其承諾アルニ非サレハ何等ノ抹消又ハ減少ヲ爲スコトヲ得ス

第二百四十四條 凡ソ債權ヲ處分スル能力アル抵當債權者ハ同一債務者ノ他ノ債權者ノ利益ニ於テ自巳ノ抵當又ハ其順位ノミチ拋棄スルコトヲ得但財産編第五百條及ヒ第五百三條ニ於テ更改ニ關シ規

○債權擔保編



定シタルモノヲ妨ケス  
若シ抵當債權ヲ數人ニ對シ讓渡、拋棄又ハ代位ノ目的ト爲セシトキハ優先權ハ承繼人中登記ニ自己ノ權利ノ設定權原ヲ附記シ又ハ登記ノ有ラザリシトキハ之ヲ爲シテ其取得ヲ第一ニ公示シタル者ニ屬ス

第二百四十五條 右ノ外第百八十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二百四十六條 抵當債權者又ハ無特權債權者ハ他ノ抵當ノ登記ナキヲ知リタルコトヲ自任スト雖モ登記ノ欠缺ヲ申立ツル權利ヲ失ハス

第二百四十七條 不動産ノ賣却代價ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受ケサル抵當債權者ハ其殘額ニ付テハ無特權債權者タリ

若シ不動産ノ賣却ニ先タチテ動産有價物ノ配當ヲ爲ストキハ抵當債權者ハ其價額全額ノ爲メ無特權債權者トシテ假ニ其配當ニ加入ス

其後ニ至リ抵當不動産ノ代價ノ配當アルトキハ抵當債權者ハ動産有價物ニ付キ何等ノ辨濟ヲモ受ケザリシカ如ク其配當ニ加入ス然レトモ此配當ニ於テ全ク辨濟ヲ受ク可キ者ハ動産ノ配當ニテ受取リタル金額ヲ控除スルニ非サレハ其抵當ノ配當額ヲ受取ルコトヲ得ス其控除シタル金額ハ動産財團中ニ之ヲ返還ス

不動産ノ代價ノ配當ニ於テ一分ノミノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ付テハ其殘額ニ從ヒ其動産財團ニ對スル權利ヲ定ム但此割合外ニ受取リタルモノハ之ヲ動産財團中ニ返還ス

右ノ返還金額ハ純粹ノ無特權債權者ト有益ニ配當ニ加入スルヲ得サル抵當債權者及ヒ債權ノ一分ノミニ付キ之ニ加入シタル抵當債權者トノ間ニ於テ更ニ之ヲ配當ス

第五節 第三所持者ニ對スル抵當ノ效力

總則

第二百四十八條 抵當不動産カ讓渡サレヌハ用益權其他ノ物權ヲ負擔シタルトキハ其權原登記前ニ登記ヲ爲シタル抵當債權者ハ第三取得者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ請求スル權利ヲ保有シ又此不動産ノ賣却代價ヲ以テ辨濟ヲ受クル爲メ其不動産ノ徵收ヲ斥退スル權利ヲ附隨ニテ保有ス

然レトモ財産編第百十九條及ヒ第二十條ニ規定シタル期間ヲ以テ爲シ又ハ更新シタル貸借債ハ抵當債權者之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二百四十九條 所有權ノ支分權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ債務者其權利ヲ拋棄シタルトキハ其拋棄ノ登記前ニ抵當登記ヲ爲シタル債權者ハ其拋棄ニ拘ハラヌ追及權ヲ保有ス

第二百五十條 公正證書ヲ以テ設定シタル抵當ハ其不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメタル無特權債權者ニハ競落ノ登記前ニ其抵當登記ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得但第二百五十四條ニ掲ケタル場合ニ於テ爲セル登記ノ無効タルコトヲ妨ケズ

第二百五十一條 第三所持者ノ破産又ハ無資力ハ其取得ノ登記アルマテハ抵當登記ノ妨礙ト爲ラス  
第二百五十二條 第三所持者ハ場合ニ從ヒテ左ノ方法ニ依ルコトヲ得

- 第一 抵當債務ヲ辨濟スルコト
- 第二 滌除スルコト
- 第三 財産脫索ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコト
- 第四 不動産ヲ委棄スルコト

○債權擔保編



第五 所有權徵收ヲ受クルコト

乙三四十二

第一款 抵當債務ノ辨濟

第二百五十三條 第三所持者ハ抵當債務ノ満期ト爲ルニ從ヒ之ヲ辨濟スルニ於テハ所有權徵收又ハ妨  
碍ヲ受クルコト無シ

第二百五十四條 第三所持者ハ債務ノ全部又ハ一分ヲ辨濟シタルトキハ財產編第四百八十二條第一號  
第四百八十三條第四號及ヒ第五號ニ從ヒ其辨濟ヲ得タル債務者ニ属スル他ノ抵當、擔保及ヒ利益ニ  
代位ス

又第三所持者ハ其辨濟ヲ得サリシ債權者ヨリ所有權徵收ノ取追ヲ受クルコト有ル可キ場合ノ爲メ其  
所持セル不動産ノ負擔スル抵當ニ付キ辨濟ヲ得タル債權者ニ未定ニテ代位ス

第二款 滯除

第二百五十五條 第三所持者ハ登記シタル總テノ抵當債務ヲ辨濟セサルモ債權者ニ其登記ノ順序ニ從  
ヒ不動産ノ取得代價、其評價若クハ之ニ起ユル金額ヲ拂渡シ又ハ債權者ノ爲メニ之ヲ供託シテ不動  
產ノ負擔ヲ免カレンシムルコトヲ得但下ニ規定セル如キ提供及ヒ滯除ノ手續ヲ爲シタル後債權者ノ明  
示又ハ默示ノ受諾アリタルコトヲ要ス

第二百五十六條 停止條件附ニテ不動産ヲ取得シタル者ハ條件ノ成就ニ因リテ其權利ノ定マラサル間  
ハ滯除スルコトヲ得ス

解除條件附ニテ取得シタル者ハ條件ノ到來セサルニ因リテ其權利ノ定マル前ト雖モ滯除スルコトヲ  
得

此場合ニ於テ第三所持者ノ提供カ受諾セラレタルモ其金額ハ抵當債務ヲ全ク辨濟スルニ足ラスシテ

其抵當ヲ抹消シタル後第三所持者ノ取得カ條件ノ到來ニ因リテ解除スルニ於テハ抹消ヲ受ケタル抵  
當債權者ノ登記ハ第二百三十七條ニ從ヒテ之ヲ回復ス

又右ノ場合ニ於テ提供カ受諾セラレヌシテ下ニ規定セル如ク不動産ヲ競賣ニ付シタルトキハ競賣ハ  
第三所持者ノ爲メ宣告アリタルト其他ノ者ノ爲メ宣告アリタルト間ハ以後解除條件ヲ免カレン  
シ

第二百五十七條 抵當ヲ滯除スル權利ハ主タル債務者ト爲リ又ハ保證人ト爲リテ自身ニテ抵當債務ノ  
責ニ任スル第三所持者ニ属セス

又右ノ權利ハ他人ノ債務ノ爲メ自己ノ財產ヲ抵當ト爲シタル者ニ属セス

第二百五十八條 抵當債權者ヲ参加セシメタル總テノ競賣ニ付テハ滯除ヲ爲スノ限ニ在ラス  
公用徵收ニ付テモ亦同シ

右ハ抵當債權者ノ其順位ヲ以テ競落代價又ハ徵收價金ノ配當ニ加入スル權利ヲ妨ケス

第二百五十九條 賃借權、使用權、住居權及ヒ地役權ハ滯除ヲ爲ス限ニ在ラス

此等ノ權利ヲ抵當前ニ設定シタルトキハ其附著ノ儘ニ非サレハ不動産ヲ賣却スルコトヲ得ス  
抵當後ニ此等ノ權利ヲ設定シタルトキハ之ヲ斟酌セシテ不動産ノ賣却ヲ取追スルコトヲ得

然レトモ此末ノ場合ニ於テ第三所持者ハ第二百四十八條第二項ニ記載シタル制限ニ從ヒ賃借權ヲ違  
守スルコトヲ要ス

第二百六十條 第三所持者ハ債權者ヨリ取追ヲ受ケサル間ハ何時ニテモ滯除スルコトヲ得又辨濟ヲ爲  
スカ又ハ不動産ヲ委乘スルカノ催告ヲ受ケタル後一个月内ニ滯除スルコトヲ得但此ニ違フトキハ其  
權ヲ失フ

○債權擔保編

乙三四十三



然レトモ右ノ失權ハ當然生セス之ヲ請求スルコトヲ要ス但裁判所ハ第三所持者カ正當ノ障礙アリシ  
コトヲ證シ且債權者カ其遲延ノ爲メニ現實ノ損害ヲ受ケサル可キニ於テハ失權ヲ宣告セサルコトヲ  
得

又債權者ヨリ第二百六十五條第二號ニ規定シタル一个月ノ期間ニ失權ヲ請求セサルニ於テハ失權ヲ  
宣告スルコトヲ得ス

第二百六十一條 第三所持者ハ濫除ノ準備トシテ第三者ニ對スル自己ノ權利ヲ固定スル爲メ其取得ヲ  
登記スルコトヲ要ス

右ノ後第三所持者ハ其不動産ノ負擔セル先取特權又ハ抵當ノ目錄ヲ登記官吏ニ要求ス

第二百六十二條 上記記載シタル一个月ノ期間ニ第三所持者ハ登記シタル各債權者ト第百十九條、第  
百七十八條及ヒ第百七十九條ニ從ヒ登記カ抵當ノ登記ニ同シキ効力ヲ有スル債權者トニ左ノ條件ヲ  
告知スルコトヲ要ス

第一 取得證書ノ旨趣、其日附及ヒ登記ノ日附、讓渡人及ヒ取得者ノ氏名、職業、住所、讓受ケタ  
ル不動産ノ性質、其所在地、讓渡ノ代價及ヒ其負擔ヲ指示スル要領書但交換、贈與若クハ遺贈ニ  
因リテ權利ヲ取得シタルトキハ其評價ヲ指示ス可シ

第二 各抵當登記ノ日附、其帳簿ノ葉數、其債權者ノ氏名、住所及ヒ主タル債權トシテ登記シタル  
金額ヲ明示スル登記表

第三 第三所持者ハ右ノ債權者カ法律ニ從ヒ且一个月ノ期間ニ増價競賣ヲ求メサルニ於テハ滿  
期、未滿期又ハ條件附ノ債權ヲ區別セスシテ各債權者ノ抵當登記ノ順序ニ從ヒ之ニ不動産ノ代  
價、其評價若クハ之ニ超エル金額ノ轉讓又ハ其債權者ノ爲ニ金額ノ供託ヲ爲サントスルノ陳述

第二百六十三條

抵當ヲ登記シタル債權者ノ中ニ先取特權ヲ有スル讓渡人又ハ分割者アルトキハ前條  
第三號ニ定メタル陳述ニハ此債權者ヲシテ右一个月ノ期間ニ其解除特權ヲ行ハント欲スル旨ヲ述  
シムル爲メノ報告ヲ添フルコトヲ要ス但第百八十一條及ヒ第百八十二條ノ明文ニ因リ法律上ノ抵當  
ニ變性シタル先取特權ヲ有スル者ニ付キテモ亦同シ

第二百六十四條 讓渡證書中ニ抵當ト爲シ及ヒ爲ササル財産アルトキハ取得者ハ抵當財産ノ爲メニ  
ニ提供ヲ爲スコトヲ得又増價競賣ハ此提供ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十五條 凡ソ抵當ヲ登記シタル債權者ニシテ上記ニ定メタル提供ヲ受諾セル者ハ左ノ方式期間  
及ヒ條件ヲ以テ抵當財産ノ競賣ヲ要求スルコトヲ要ス

第一 其要求ニハ提供金額ノ上少ナクトモ十分一ノ増價ニテ買受クルコトト其増額シタル代價ノ  
全部及ヒ費用ノ爲メ十分ナル保證又ハ擔保ヲ供スル旨ノ陳述トヲ添フルコトヲ要ス若シ此ニ  
違フトキハ其要求ハ無効タリ但此場合ニ於テハ總テノ正本ニ要求者又ハ其特別代理人ノ署名ア  
ルコトヲ要ス

第二 右ノ要求ハ提供告知ヨリ一个月内ニ第三所持者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス若シ此ニ違フト  
キハ其要求ハ亦無効タリ

第三 右ノ期間ニ於テ債務者タルト否トテ問ハス前所有者ニ右ニ同シキ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第四 主タル債務者ニ非サル者カ抵當ヲ設定シタルトキモ亦同一ノ期間ニ於テ其債務者ニ送達ヲ  
爲スコトヲ要ス

第二百六十六條 讓渡人又ハ分割者ニシテ其解除特權ノ行使ヲ留保セスシテ前條ニ規定シタル如ク增  
價競賣ヲ要求シタル者ハ其抵當ヲ拋棄シタルモノト看做ス

○債權擔保編



若シ譲渡人又ハ分割者カ右ノ所権ヲ保存セント欲スルトキハ増價競賣ノ爲メ許與セラレタル期間ト同一ノ期間ニ第三所持者ニ其旨ヲ告知スルコトヲ要ス若シ此ニ違フトキハ無効タリ但主タル債務者ナル前所有者ニ對シテ此ニ同シキ告知ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條 定マリタル方式及ヒ期間ヲ以テ増價競賣ノ告知ヲ爲シタルトキハ其競賣ノ要求者ハ抵當ノ登記ヲ爲シタル他ノ債權者ノ承諾ナクシテ競賣ヲ言消スコトヲ得ス其債權者ハ此増價競賣ノ實行ヲ要求スルコトヲ得

若シ競賣ノ實行アリタルトキハ第二百七十八條以下ヲ適用ス

第二百六十八條 孰レノ債權者ヨリモ有效ニ競賣ヲ求メザリシトキハ不動産ノ滲除ハ債權者間ノ競賣上若クハ裁判上ノ順序配當ニ依ル滲濟ヲ以テ又ハ債權者ノ名ニ於テスル供託ヲ以テ不動産ヲ滲除ス但此供託ニ付テハ豫メ實物提供ヲ爲スコトヲ要セス

此場合ニ於テノ總テノ抵當ハ之ヲ抹消ス其元資ノ不足シタルモノト雖モ亦同シ

第二百六十九條 右ノ如ク滲除ヲ實行シタル後第三所持者ハ左ノ區別ニ從ヒ其讓渡人ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第一 賣買ノ場合ニ於テハ其賣買代價外ニ提供シ及ヒ滲濟シタルモノノ爲メ

第二 交換其他ノ有償契約ノ場合ニ於テハ讓渡人ニ對スル自己ノ義務外ニ滲濟シタルモノノ爲メ但自己ノ供給シタル對價物ノ返還ヲ受ケサルトキニ限ル

第三 贈與又ハ遺贈ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ遺言者ノ免責ニ付キ滲濟シタルモノノ爲メ

第四 總テノ場合ニ於テ自己ノ負擔シタル滲除手續ノ費用ノ爲メ

第三款 財産檢索ノ抗辯

第二百七十條 主トシテ抵當債務ノ責ニ任セサル第三所持者ハ既追債權者ニ對シ同一債務ノ爲メニ抵當ト爲リタル他ノ不動産ヲ豫メ檢索シテ之ヲ賣却セシメント求ムルコトヲ得

但此カ爲メニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 其不動産カ義務ヲ履行ス可キ場所ノ控訴院ノ管轄内ニ在ルコト

第二 其不動産カ獨ホ主タル債務者ニ屬スルコト

第三 其不動産カ争ニ係ラサルコト

第四 其不動産カ債權者ノ登記ノ順位ト其價額トヲ斟酌シテ之ニ全部ノ滲濟ヲ得セシムルニ不十分ナルコトノ明白ナラサルコト

右ノ抗辯ハ既追ノ起初ニ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百七十一條 第三所持者ハ第二十條乃至第二十三條ニ從ヒ保證人ノ分限ヲ以テ已レニ屬スル檢索ノ利益ヲ拋棄シタルトキト雖モ抵當財産檢索ノ抗辯ノ利益ヲ失ハス

第二百七十二條 他人ノ債務ノ爲メ自己ノ不動産ヲ抵當ト爲シタル者ハ檢索ノ抗辯ヲ以テ對抗スルコトヲ得

連合債務者ノ中ニテ既追前ニ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ滲濟シタル者ニ付テモ亦同シ

第四款 委乘

第二百七十三條 第三所持者ハ所有權徵收ノ手續中何時ニテモ既追ノ目的タル不動産ヲ委乘スルコトヲ得其委乘ニ因リ第三所持者ハ既追債權者ニ所持ノミチ委付シ不動産ノ所有權ト其法定ノ占有トヲ保存シテ其危険ヲ擔任ス

第二百七十四條 主タル債務者又ハ保證人トシテ自身ニ債務ヲ負擔シタルモノニ非サル第三所持者ノ

○債權擔保編



ミ委乘ヲ爲スコトヲ得

連合債務者ノ中ニテ債務ニ於ケル自己ノ部分ヲ清償シタル者及ヒ供物保護人ハ既追中ト雖モ委乘ヲ爲スコトヲ得

第二百七十五條 有效ニ委乘ヲ爲スニハ自身ナルト代人ノ資格ナルトヲ問ハス所有權徵收ノ既追ニ被告トシテ出頭スル能力ヲ有スルヲ以テ足レトス

第二百七十六條 委乘ハ委乘者又ハ其部理代理人抵當財産所在地ノ裁判所ノ書記課ニ於テ之ヲ陳述シ其陳述書ニ署名シテ既追債權者ニ告知スルコトヲ要ス

裁判所ハ既追債權者又ハ第三所持者其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リテ委乘ニ付テノ管財人ヲ選任ス但所有權徵收ノ既追ハ此管財人ニ對シテ繼續ス

第二百七十七條 第三所持者又ハ其代人ハ競落アルマテハ何時ニテモ委乘ヲ爲シタルト同一ノ方式ヲ以テ其委乘ヲ言消スコトヲ得此場合ニ於テハ既追債權者ニ對スル總債務ト其時マテノ費用トチ一個月内ニ清償シ又ハ供託スルコトヲ要ス但他ノ債權者ノ既追ノ權利ヲ妨ケス又既除ノ期間カ經過セサルニ於テハ其債權者ニ對スル既除ノ權利ヲモ妨ケス

第五款 競賣及ヒ所有權徵收

第二百七十八條 第三所持者カ清償ヲ爲サス委乘ヲ爲サス又既除ヲ提出セサルトキハ抵當債權者ハ民事訴訟法ニ規定シタル方式ト公示トヲ以テ不動產ヲ競賣ニ付ス

既除ノ目的ニテ爲シタル提供ノ受諾ヲ得サル場合ニ於テ增價競賣ノ請求アリタルトキモ亦同シ

第二百七十九條 讓渡人又ハ分割者カ第六十六條ノ明文ニ從ヒ其先取特權又ハ法律上ノ抵當權ヲ關キテ其解除既權ヲ行ハント欲スル旨ヲ陳述シタルトキハ競賣前ニ其既ヲ爲スコトヲ要ス但第三所持者ノ請求ニ因リテ裁判所カ此ノ事ニ付キ定メタル期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百八十條 總テノ場合ニ於テ解除ノ請求ナク又ハ其認許ナキトキハ第三所持者ハ競賣ノ際競買人ト爲ルコトヲ得

第三所持者ノ利益ニ於テ競落ヲ宣告シタルキハ其判決ハ原證書確認ノ證據トシテ其原證書ニ依ル證ニ之ヲ附記スルノミ

第二百八十一條 第三所持者ニ非サル者ノ利益ニ於テ競落ヲ宣告シタルトキハ其判決ハ所有權移轉ノ證據トシテ特ニ之ヲ登記シ且前登記ニ之ヲ附記ス

第二百八十二條 前條ノ場合ニ於テハ競落ノ不動產ト第三所持者ニ屬スル他ノ不動產トノ間ニ存在セシ地役權ハ一旦混同シタルモ働方及ヒ受方ニ再生シ其混同ハ解除セラル

第三所持者ニ其取得前ヨリ屬セシ利益權、賃借權其他ノ所有權ノ支分ニ付テモ亦同シ

第二百八十三條 競落ノ孰レノ場合ニ於テモ第三所持者カ競落ノ不動產ニ付キ登記シタル抵當ヲ有セシトキハ其位ニテ配當ニ順加入ス

第二百八十四條 各債權者ニ其登記ノ順序ニ從ヒテ競落代價ヲ清償シ尙ホ剩餘アルトキハ其剩餘ハ競落人タルト否トヲ問ハス第三所持者ニ屬ス

若シ競落前ニ第三所持者ノ債權者カ右ノ不動產ニ付キ抵當ノ登記ヲ爲シタルトキハ其債權者ハ前所有者ニ對シテ登記シタル債權者ニ次キ配當ニ加入ス

第二百八十五條 第三所持者カ抵當不動產ノ占有中其所爲ニ因リテ之ヲ毀損シ又ハ之ニ必要若クハ有益ノ出費ヲ爲シタルトキハ第三所持者ト抵當債權者トノ間ニ於テ其計算ヲ爲ス

第二百八十六條 第三所持者ハ委乘スルカ又ハ清償スルカノ催告ヲ受ケタル後ニ非サレバ債權者ニ對シテ債權擔保編



シテ果實ノ計算ヲ爲スコトヲ要セス

第二百八十七條 如何ナル場合ニ於テモ競落代價ノ辨濟又ハ其供託ノ後ハ登記シタル總抵當ハ之ヲ抹消シ不動産ハ滅除セラル其元資ノ不足シタル抵當モ亦同シ

第二百八十八條 競落ノ後第三所持者ハ左ノ如ク競渡人ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第三所持者カ競落人ト爲リタルトキハ第二百六十九條ニ記載シタル如ク賠償ヲ受ケ

外人ノ利益ニ於テ競落ノ宣告アリタルトキハ第三所持者ハ普通法ニ依リテ追尋擔保ニ付テノ權利ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第一 賣買其他ノ有償取得ノ場合ニ於テ競落代價カ取得ノ原代價又ハ對價ヲ超過シタルトキハ此差額ハ第三所持者カ權利ヲ有スル損害賠償中ニ増價トシテ之ヲ加フ

第二 贈與又ハ遺贈ノ場合ニ於テハ第三所持者ハ競落カ贈與者若クハ遺言者ノ相續人ナシテ抵當債務ヲ免カレシメタル限度ニ非サレハ贈與者又ハ遺言者ノ相續人ヨリ賠償ヲ受ケス  
手續ノ費用ハ競落人ヨリ之ヲ第三所持者ニ負擔ス

第六節 登記官吏ノ責任

第二百八十九條 登記官吏ノ民事上ノ責任ニ關スル財產編第三百五十五條ハ抵當登記ノ脱漏又ハ記載ニ之ヲ適用ス

第二百九十條 登記官吏カ第三所持者ノ爲メ登記ヲ爲シタル後之ニ交付シタル認許書中一箇又ハ數箇ノ抵當登記ヲ脱漏シ此脱漏ノ爲メ登記債權者カ滅除ノ提供又ハ競落ノ手續ニ加ハラリシトキト雖モ猶ホ不動産ノ抵當ハ滅除セラル

第二百九十一條 滅除ノ提供ニ對スル增價競賣ノ爲メ第二百六十五條ニ定メタル期間ノ満了セサル間

ハ脱漏セラレタル債權者ハ其脱漏ヲ第三所持者ニ告知シ之ニ提供ノ通示ヲ求メ增價競賣ヲ要求シ又所有權徵收ノ手續カ終了セサルトキハ之ニ加ハルコトヲ得然レトモ此カ爲メ其手續ヲ遲延スルコトヲ得ス

如何ナル場合ニ於テモ右ノ債權者ハ協議上又ハ裁判上ニテ發開シタル順序配當手續ノ閉鎖セサル間ハ之ニ加ハルコトヲ得

右ハ前記ノ債權者カ脱漏ニ因リテ損害ヲ受ケタルコトヲ説明スルニ於テハ登記官吏ニ對スル求償權ヲ妨ケス

登記官吏ハ主タル債務者又ハ其保證人ノ免責ノ爲メ右ノ求償ニ因リテ辨濟シタルモノニ付キ之ニ對シテ求償權ヲ有ス

第七節 抵當ノ消滅

第二百九十二條 抵當ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一 主タル義務全部ノ確定ノ消滅但更改ノ場合ニ付キ財產編第五百三條ニ記載シタルモノヲ妨ケス

第二 債權者ノ抵當ノ拋棄

第三 時效

第四 滅除但債權者提供ヲ受諾シ且第二百六十八條ニ從ヒテ提供金額ノ辨濟又ハ供託アリタルトキ

第五 競落但第二百五十八條及ヒ第二百八十七條ニ從ヒテ競落代價ノ辨濟又ハ供託アリタルトキ

第六 抵當不動産ノ全部ノ滅失但第二百一條ニ從ヒテ債權者ノ權利カ其滅失ヨリ生ス可キ賠償ニ

○債權擔保編



移轉スルコトヲ妨ケス

第七 公用徵收但抵當債權者ニ其償金ヲ籌濟スルコトヲ妨ケス

第二百九十三條 義務ノ消滅ヲ裁判上ニテ認メラレタル原因ニ由リテ取消サレタルトキハ登記ヲ抹消

シタリト雖モ抵當ハ其原順位ニ復ス

然レトモ其抵當ハ抹消ノ後新登記ヲ爲ス前又ハ登記ヲ復シタル判決ヲ原登記ニ附記スル前ニ登記ヲ

爲シタル債權者ヲ害スルコトヲ得ス

第二百九十四條 抵當ノ拋棄ハ場合ニ從ヒ有償又ハ無償ニテ債權ヲ處分スル能力ヲ有スル債權者ニ非

サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

債權者其抵當順位ノミノ拋棄ヲ爲ストキモ亦同シ

抵當又ハ順位ノ拋棄ハ默示タルコトヲ得

債權者カ讓渡人ト共ニ抵當不動産ノ讓渡ニ参加シタルトキハ追及權ノミニ關シテ其抵當ヲ拋棄シタ

リト看做ス但法律上特別ニ其参加ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第二百九十五條 抵當ノ時効ハ不動産カ債務者ノ資産中ニ存スル場合ニ於テハ債權ノ時効ト同時ニ非

サレハ成就セス

右ノ場合ニ於テ債權ニ關シ時効ノ進行ヲ中斷スル行爲及ヒ之ヲ停止スル原因ハ抵當ニ關シテ同一ノ

効力ヲ生ス

第二百九十六條 抵當不動産ノ所有者タル債務者カ其不動産ヲ讓渡シテ取得者又ハ其保證人カ之ヲ占

有スルトキハ登記シタル抵當ハ抵當上ノ訴訟ヨリ生スル妨礙ナキニ於テハ取得者カ其取得ヲ登記シ

タルヨリ起算シ三十年ノ時効ニ因リテノミ消滅ス但債權カ免責時効ニ因リテ其前ニ消滅ス可キ

場合ヲ妨ケス

第二百九十七條 眞ノ所有者ニ非サル者カ不動産ヲ讓渡シタルトキハ占有者ハ其善意ナルト惡意ナル

トニ從ヒ所有者ニ對シテ時効ヲ得ル爲メニ必要ナル時間ノ經過ニ因リ抵當債權者ニ對シテ時効ヲ取

得ス

無權原ニテ不動産ヲ占有スル者ニ付テモ亦同シ

第二百九十八條 第三所持者ノ爲メノ抵當消滅ノ時効ハ登記ノ更新ニ因リテ中斷セラレヌ然レトモ其

時効ハ占有者ノ任意ニテ爲シタル抵當ノ追認及ヒ第二百六十條ニ規定シタル如ク其占有者ニ爲シタ

ル催告ニ因リ其他證據編第九條以下ニ規定シタル如ク總テ抵當權ニ効力ヲ與フル行爲ニ因リテノ

ミ中斷セラル

右ノ時効ハ債權ニ附著スル期限又ハ條件ニ因リテ停止セラレヌ但債權者ハ證據編第二百二十八條ニ規

定シタル如ク其權利ヲ保存スルコトヲ得

此他證據編第三百一十一條乃至第三百三十六條ニ規定シタル停止ノ原因ハ抵當ニ之ヲ適用ス

○増價競賣法 (明治廿三年十月三日)

(法律第九十二號)

朕増價競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

増價競賣法

第一條 民法債權擔保編第二百六十五條ニ從ヒテ抵當財産ノ増價競賣ヲ要求スル債權者ハ第三所持者

及ヒ前所有者ニ競賣ノ要求書ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當財産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立

ヲ爲シ且保證人又ハ擔保ノ認許ヲ求ム可シ

○債權擔保編



前項ノ手續ヲ爲サルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス

第二條 競賣ノ申立ニハ民事訴訟法第六百四十二條第一號及ヒ第二號ニ掲クル諸件ノ外第三所持者及ヒ前所有者ノ表示、擔保ノ表示、第三所持者ノ提供シタル金額及ヒ要求者ノ定メタル増額ヲ具備シ且民事訴訟法第六百四十三條第三號乃至第五號ノ證書ヲ添付スルコトヲ要ス

第三條 裁判所ハ期日ヲ定メテ要求者、第三所持者及ヒ前所有者ヲ呼出シ擔保ノ許否ニ付テノ決定ヲ爲ス可シ  
否認ノ決定アリタルトキハ競賣ノ要求ハ當然無効ナリトス但競賣ノ要求ヲ爲ス權利アル他ノ債權者カ要求ニ参加スルノ申立ヲ爲シヌハ期間ニ自ラ要求ヲ爲シタルトキハ右決定ヲ知リタルヨリ三日内ニ更ニ第一條ノ手續ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四條 左ニ掲クル者ヲ増價競賣手續ニ於テノ利害關係人トス

第一 競賣要求者

第二 債務者

第三 第三所持者

第四 抵當債權者

第五 抵當財産ノ前所有者カ債務者ニ非サルトキハ其前所有者

第五條 裁判所ハ要求者ノ供シタル擔保ヲ十分ナリトスルトキハ競賣手續ノ開始決定ヲ爲シ同時ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ公告ス可シ

第六條 競賣期日ノ公告ニハ民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號乃至第十號ニ掲クル諸件ノ外増價競賣ノ要求ニ因リ競賣ヲ爲ス旨及ヒ最低競賣價額トシテ提供價額ニ附シタ

ル増額ヲ具備スルコトヲ要ス

此他競賣及ヒ競落ノ手續ニ付テハ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十一條、第六百六十三條乃至第六百六十九條、第六百七十一條、第六百七十二條第二號及ヒ第四號乃至第八號、第六百七十三條、第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十七條ノ規定ヲ準用ス

第七條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ裁判所ハ要求者ヲ競落人ナリト宣渡ス可シ

第八條 競落人ナリト宣渡サレタル者カ要求者ナルト否トナ間ハス競落代價ノ全額支拂ニ至ルマテハ要求者ノ供シタル擔保ハ負擔ヲ免カルルコトヲ禁シ

第九條 裁判所ハ要求者ノ申立アルトキハ競賣ニ換ヘテ入札拂テ命ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第七百二條但書及ヒ第七百三條乃至第七百五條ノ規定ヲ適用ス  
第十條 増價競賣ニ依ル競落ニ對シテハ更ニ増價競賣ノ要求ヲ爲スコトヲ許サス

○證據編目錄

第一部 證據

總則

第一章 判事ノ考覈

三百五十七丁

全 丁

三百五十八丁

全 丁

三百五十九丁

全 丁

○證據編

乙三百五十五



第二章 直接證據

乙三百五十六

第一節 私書

全丁

第一款 私署證書

三百六十丁

第二款 署名、捺印セザル證書

全丁

第二節 口頭自白

三百六十三丁

第一款 裁判上ノ自白

全丁

第二款 裁判外ノ自白

三百六十五丁

第三節 公正證書

全丁

第四節 反對證書

三百六十六丁

第五節 追認證書

全丁

第六節 證書ノ謄本

三百六十八丁

第七節 證人ノ陳述

三百七十丁

第八節 世評

三百七十二丁

第三章 間接證據

三百七十三丁

第一節 法律上ノ推定

全丁

第一款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定

全丁

第二款 私益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定

三百七十五丁

第三款 輕易ナル法律上ノ推定

全丁

第二節 事實ノ推定

三百七十六丁

第一部 時効

全丁

第一章 時効ノ性質及ヒ適用

全丁

第二章 時効ノ拋棄

三百七十八丁

第三章 時効ノ中斷

全丁

第四章 時効ノ停止

全丁

第五章 不動産ノ取得時効

三百八十二丁

第六章 動産ノ取得時効

三百八十四丁

第七章 免責時効

三百八十五丁

第八章 特別ノ時効

三百八十六丁

附則

三百八十七丁

三百八十九丁

○證據編

第一部 證據

總則

第一條 有的又ハ無的ノ事實ヨリ利益ヲ得ンカ爲メ裁判上ニテ之ヲ主張スル者ハ其事實ヲ証スル責アリ

相手方ハ亦自己ニ對シテ證セラントタル事實ノ反對ヲ證シ或ハ其事實ノ效力ヲ滅却セシムル事實トシテ主張スルモノヲ證スル責アリ

第二條 自己ノ主張ノ全部又ハ一分ヲ法律ニ從ヒテ證セス又ハ判事カ證據ヲ査定スル權ノ自由ナル事

○證據編

乙三百五十七



合ニ於テ判事ニ此主張ノ心證ヲ起サシメサシ原告若クハ被告ハ其證セサリシ點ニ付テ請求又ハ抗辯ニ於テ敗訴ス

第三條 當事者ノ一方ハ或ル事實ノ證據カ將來已レノ爲メニ利益アル時ハ其利益ト證據喪失ノ危險トナテ疏明シテ訴訟ノ起ラサル前ト雖モ其事實ノ證據ヲ學クルコトヲ裁判上主トシテ請求スルコトヲ得

第四條 下ニ定メタル規則ハ物權ノ人權及ヒ人ノ身分ニ關スル證據ニ共通ノモノトス但特別ノ規定ヲ妨ケス

第五條 證據ハ左ノ諸件ヨリ成ル

第一 判事ノ考覈

第二 直接證據

第三 間接證據

第一章 判事ノ考覈

第六條 判事ハ左ノ諸件ニ依リ主張セラレタル事實ノ確實ヲ得タルトキハ自己ノ考覈ニ依リテ爭ヲ決スルコトヲ得

第一 當事者又ハ其代人ノ申述ノ聽取ノ係爭物並ニ證據外ノ書類ノ調査及ヒ法律ノ解釋

第二 臨檢

第三 鑑定

第一節

第七條 當事者ノ自白アル場合ノ外當事者又ハ其代人ノ申述及ヒ說明ヨリ請求若クハ抗辯ノ證セラレサルコト又ハ尙ホ早キコトノ顯ハルルニ於テハ判事ハ其請求若クハ抗辯ヲ棄却シ又ハ他日本案ノ判

決ヲ爲ス可キ旨ヲ言渡ス

右判事ノ心證カ係物爭及ヒ證據外ノ書類ノ調査ヨリ生スルトキモ亦同シ

第八條 受ケタル損害若クハ失ヒタル利益其他原因ニ爭ナク供給ス可キ價額ニ付キ爲ス可キ評價ノミ

ニ爭ノ存スル場合ニ於テ判事ハ當事者又ハ其代人ノ陳述ヲ聽キ此評價ニ必要ナル元素ヲ得タルトキハ自ラ其評價ヲ爲スコトヲ得

第九條 事實ニ爭ナク法律ノ點ノミニ爭ノ存スルトキハ判事ハ當事者又ハ其代人ノ陳述ヲ聽キ法律ノ規定ヲ其精神ト明文トニ依リテ解釋シ且條理ト公道トノ普通原則ニ依リテ之ヲ補充シ自己ノ心證ヲ取ル

第二節 臨檢

第十條 境界、地役、占有、財産ノ損害及ヒ不動産工項ノ執行ニ關スル爭其他ニ此類似ノ爭ニ付テハ勿論裁判所ニ移送スルコトヲ得サル動産ノ形狀ヲ證スルニ關スルトキト雖モ判事ハ主張セラレタル事實ヲ直接ニ知ルコトヲ以テ訴訟事件ヲ明カナラシムルニ有益ナリト思考スルトキハ或ハ臨檢ヲ以テ

或ハ當事者ノ申立ニ因リテ係爭物又ハ爭ヲ決定ス可キ元素ノ存在スル場所ニ臨檢スルコトヲ得

第三節 鑑定

第十一條 法律ニ於テ鑑定ニ依ル可キ旨ヲ定メタル場合ノ外判事ハ爭ノ判決ニ付キ特別ノ知識ヲ要スルトキハ何時ニテモ或ハ職權ヲ以テ或ハ當事者ノ申立ニ因リテ自己ノ考覈ヲ助ケシムル爲メ鑑定人ノ報告ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

判事ハ鑑定人總員一致ノ說ト雖モ之ニ從フ義務ナシ

第二章 直接證據

◎證據編



第十二條 左ノ諸件ニ於テハ人ノ證言ヨリ生スル直接ノ證據アリトス

第一 私書

第二 口頭自白

第三 公正證書

第四 證人ノ陳述

第一節 私書

第十三條 私書ノ證據カハ其私書ノ對抗ヲ受ケル當事者ノ之ニ署名シ又ハ捺印シタルト否トニ從ヒテ輕重アリ

第一款 私署證書

第十四條 私署證書ハ之ヲ以テ對抗セラルル者ニ不利ナル事實ノ陳述又ハ追認ヲ記載シ且其署名及ヒ印章又ハ其一アルトキハ署名者、捺印者ノ裁判外ノ自白即チ證言ヲ成スモノトス

右同一ノ條件ヲ有スル書狀ハ私署證書ト同一ノ證據力ヲ有ス

第十五條 自己ノ利益ニ於テ私署證書ヲ有スル者カ或ル者チ其署名者ナリト主張シ又ハ思考スル場合ニ於テハ爭ノ生スル前ト雖モ其者ニ對シ手跡、署名及ヒ印章ノ追認ヲ請求スルコトヲ得

署名者ナリト主張セラレタル者ハ其手跡、署名及ヒ印章ノ真正ナルコト又ハ其一ノ真正ナルコトヲ明確ニ追認シ又ハ否認スルコトヲ得ルノミ

裁判所ヨリ本條ノ規定ノ口諭ヲ受ケタル者否認ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其否認セサルモノニ付テハ之ヲ追認シタリト認定スルコトヲ得

第十六條 印章ニ關シテハ其印章ヲ揭示セラレタル者ハ其印章ノ自己ノ印章ニ相違ナキコトヲ得追認

スルモ押捺ハ自身又ハ自己ノ許諾ニテ之ヲ爲シタルヲ否認スルコトヲ得但總テノ方法ヲ以テ其證據ヲ供スルコトヲ要ス

此追認證書ヲ與フル前ニ右ノ異議ヲ留メサシメシキハ其後ニ至リ右ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ス

又其署名又ハ印章ヲ追認シタルトキハ其署名又ハ印章ノ獲得手段タル強暴、錯誤又ハ詐欺ヲ最早主張スルコトヲ得ス但強暴カ既ニ止ミ又ハ錯誤若クハ詐欺チ既ニ發見シ且此事ニ付キ何等ノ異議ヲ留メスシテ追認ヲ爲シタルトキニ限ル

異議ヲ留メタルトキハ追認證書ニ之ヲ配ス可シ

第十七條 署名者ナリト主張セラレタル者ノ相續人、承繼人又ハ代人ニ對シテ追認ノ請求アリタルトキハ被告ハ或ハ自己ノ代表スル者ノ署名若クハ印章ヲ知ラサル旨或ハ其使用ノ不確實ナル旨ヲ陳述スルニ止マルコトヲ得

右ノ相續人、承繼人又ハ代人ハ印章ノ不正當ナル押捺又ハ承諾ノ瑕疵ヨリ生スル無効ノ方法ヲ申立ツル權利ヲ失ハス但此事ニ關シ異議ヲ留ムルコトヲ忘リタルトキト雖モ亦同シ

第十八條 被告ハ異議ヲ留メスシテ署名又ハ印章ヲ追認シタリト雖モ後ニ捺印白紙ノ濫用又ハ署名若クハ印章ノ偽造アリタルコトヲ知リ其證書ニ依リ善意ニテ約定シタル第三者ニ證書無効ノ方法トシテ捺印白紙ノ濫用ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 一人又ハ數人ノ證人カ私署證書ニ加署シ又ハ加印シタルトキハ其證人チ手跡驗眞ニ召喚ス

第二十條 手跡、印章又ハ署名ノ驗眞ノ請求ニ關スル方式並ニ期間及ヒ被告又ハ其代人ノ出席セサル

ニ因リ此等ノ者ニ於テ印章又ハ署名チ追認シタリト爲スコトヲ得ヘキ場合ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ

○證據編



定ム

署名者ナリト主張セラレタル者ノ明確ニ否認シ又ハ其相續人若クハ承認人ノ追認ヲ爲ササル場合ニ於ケル手跡驗眞手續ノ規則ニ付テモ亦同シ

第二十一條 雙務契約ヲ證スル私署證書ハ反對ノ利益ヲ有スル當事者間ニ正本ニ通テ作り且之ニ署名又ハ捺印スルコトヲ要ス

又各正本ニハ二通ヲ作りタル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

然レトモ當事者ハ一通ノ證書ヲ作ルコトヲ得但其證書中指定シタル第三者ニ之ヲ寄託スルコトヲ合意シタルトキニ限ル

右ノ場合ニ於テ第三者ハ各當事者ノ求ニ應シテ其證書ヲ示ササル可カラズ但當事者雙方ノ承諾ヲクシテ之ヲ交付スルコトヲ得ス

第二十二條 證書ノ翻製及ヒ其數ノ附記又ハ證書ノ寄託ハ當事者カ合意ノ組成ヲ要ラシメタル條件ト看做ス

然レトモ前條ニ從ヒテ證書ノ翻製アラザリシ契約ノ全部又ハ一分ヲ履行シタル當事者ハ最早條件ノ不履行ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十三條 片務契約ヲ證スル私署證書ニ金錢其他ノ定量物ヲ供與シ善濟シ又ハ返還スル請約ヲ包含スル場合ニ於テ債務者カ證書ノ本文ヲ自書セサルトキハ債務者ハ其署名若クハ捺印ノ外尙ホ金額若クハ數量ノ文字ニ捺印スルコトヲ要ス但數人ノ債務者アルトキハ其中ノ一人此捺印ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第二十四條 三通ノ正本及ヒ前條ノ方式ハ商事ニ付テハ之ヲ要セス

第二十五條 前數條ノ方式ニ從ヒ翻製シタル私署證書ニシテ其對抗ヲ受クル者カ追認シ又ハ裁判上ニテ其者カ追認シタリト爲シタルモノハ其正文及ヒ之ト直接ノ關係ヲ有シ且之ヲ補充スル文言ニ付テハ其者ニ對シテ完全ナル證據トス

此他ノ文言ハ書面ニ因ル證據端緒ノミニ之ヲ用ユルコトヲ得

第三十八條ニ記載シタル自白不可分ナル原則ハ證書ノ各部分ニ之ヲ適用ス

第二十六條 證書カ第十八條ニ規定シタル如ク捺印白紙ノ濫用又ハ偽造ノ攻撃ヲ受ケタルトキハ其證據力ハ刑事裁判所ニ被告ノ送致アルニ因リテ停止セラレ其裁判所ノ判決ノ確定ト爲ルマテ民事ノ判決ヲ中止ス

嫌疑アル人ノ死亡其他ノ原因ニ由リテ刑事審問ノ開カレザリントキハ民事裁判所ハ刑事不受理ノ理由ニ付キ裁判アルマテ本案ノ判決ヲ中止ス

又刑事審問中ナルトキハ民事裁判所ハ當事者ノ要求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其判決ヲ中止スルコトヲ得

第二款 署名、捺印セサル證書

第二十七條 商人ノ帳簿ハ總テノ人ノ爲メ其商人ニ對シテ證據ヲ爲ス然レトモ其帳簿ヲ採用スル者ハ此ヨリ自白ヲ分ツコトヲ得ス

此他右帳簿ノ證據力ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

第二十八條 非商人ノ帳簿及ヒ借書ハ其者ノ爲メ證據ヲ爲サズ  
右ノ帳簿及ヒ借書ハ其者ニ對シテ下ノ區別ニ從ヒテ證據ヲ爲ス

第二十九條 債權者ノ書面ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ爲メ其債權者ニ對シテ證據ヲ爲ス

○證據編



第一 債務者ノ清償其他、免責ヲ明カニ掲クルトキ但債權者ニ於テ債務者ニ交付スル爲メ準備セル受取證書タルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第二 債務者ノ證書又ハ從來ノ受取證書ニ免責ヲ書込、且其書類、債務者ノ手ニ存スルトキ

第三十條 債務者ノ書面ニ其義務ヲ掲ケ且之ヲ以テ債權者ノ證書ノ用ニ供スルモノタルコトヲ記載スルトキハ其書面ハ債務者ニ對シテ證據ヲ爲ス

第三十一條 前二條ノ場合ニ於テ抹殺シタル書面ハ之ヲ斟酌セス但抹殺カ詐害又ハ錯誤ニ出テタルコトヲ證アルトキハ此限ニ在ラス

第三十二條 非商人ハ裁判上ニテ帳簿及ヒ覺書ヲ差出タス義務ナシ然レトモ任意ニテ之ヲ差出タシタルトキハ爭ニ關スルモノヲ抄録シタル後ニ非サレハ之ヲ取戻スコトヲ得ス但抄録ヲ爲スニハ其者ノ出席ノ上又ハ之ヲ合式ニ召喚シタルトキニ限ル

第二節 口頭自白

第三十三條 口頭自白ハ一方ノ當事者カ已レニ不利ナル權利上ノ結果ヲ生スルコト有ル可キ事實ニ付キ爲スモノナリ其自白ハ裁判上ノモノ有リ裁判外ノモノ有リ

第一款 裁判上ノ自白

第三十四條 裁判上ノ自白ハ自發ノモノ有リ又ハ民事訴訟法ニ規定シタル本人質問ニ因リテ爲スモノ有リ

第三十五條 自白ハ其自白ニ關ル權利ヲ處分スル能力ヲ有スル者ニ非サレハ有效ニ之ヲ爲スコトヲ得ス但法律上自白ノ證據ヲ禁シタル事實ニ非サルトキニ限ル

代理人ノ爲シタル自白ハ其管理行爲ニ關スル外特別ノ委任ニ依リタルトキニ非サレハ有效ナラス但

裁判上ノ代人ノ自白ト其陳述取消ノ方式及ヒ條件トニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ妨ケス

第三十六條 前條ニ從ヒ爲シタル自白ヲ相手方ノ受諾シ又ハ之ヲ裁判所ニ於テ認メタルトキハ其自白ハ之ヲ爲シタル者ニ對シテ完全ノ證據ヲ爲ス

然レトモ其自白ハ事實ノ錯誤ノ爲メニ之ヲ取消スコトヲ得

第三十七條 自白ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ取消スコトヲ得ス

然レトモ相手方ノ權利ヲ直接又ハ間接ニ追認シタル者ハ其權利ノ原因及ヒ存続ヲ爭フ機能ヲ失ハス

第三十八條 複雑ナル自白ヲ接用セント欲スル者ハ陳述セラレタル數箇ノ事實ニ關シ其自白ヲ分ツコトヲ得ス但此等ノ事實カ相連連シタルトキニ限ル

然レトモ主タル事實ヲ變更スル事實ノ主張ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第三十九條 裁判上ノ自白ノ效力ハ裁判所ノ管轄遠カ公ノ秩序ニ關セサルモノタルトキハ其管轄遠ニ因リテ無効ト爲ラス

反對ノ場合ニ於テハ自白ハ裁判外ノモノトシテノミ有效ナリ

第四十條 一方ノ當事者カ訴訟事件ノ或ル事實ノ存在ニ付キ陳述ス可キノ求テ受ケテ其事實ヲ爭ハサルニ因リ之ヲ追認シタリト看做ス場合ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十一條 一方ノ當事者カ癡疾其他ノ原因ニ由リテ語ルコトヲ得スト雖モ書面又ハ容態ヲ以テ裁判所ニ答フルコトヲ得ルニ於テハ裁判上ノ自白ノ規則ヲ之ニ適用ス

第二款 裁判外ノ自白

第四十二條 裁判外ノ自白ハ相手方又ハ其代人ノ面前ニ於テ口頭ニテ又ハ此等ノ者ニ送付シタル信書若クハ書類ニテ之ヲ爲シタルニ非サレハ其效力有セス



此末ノ場合ノ外口頭ノ自白ヲ受ケ及ヒ証スル資格ヲ有スル官廳ニ於テ更ニ其自白ヲ爲サリシトキハ人証ヲ許ス場合ニ非サレハ證人ヲ以テ之ヲ証スルコトヲ得ス

第四十三條 裁判上ノ自白ノ有效ナル爲メ要スル能力其證據力、其言消及ヒ其不可分ニ關スル前數條ノ規定ハ裁判外ノ自白ニ之ヲ適用ス

然レトモ判事ハ確實ニシテ明白ナル自白ニ非サレハ之ヲ採用スルコトヲ得ス

第四十四條 上ノ規定ハ義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ法律上ニテ默示ノ自白ト看做ス可キ場合ヲ妨ケス

第四十五條 裁判外ノ自白ハ有效ニ之ヲ言消シタリト雖モ相手方ノ利益ニ於テ時效ノ中斷ヲ生ス然レトモ自白ノ日以後ニ經過ス可キ時效ハ言消ノ日ヨリ再ヒ進行ス

第三節 公正證書

第四十六條 公正證書ハ公吏カ當事者ヨリ証スルコトヲ託セラレタル事實ニ付テノ証言ナリ又官廳ノ代人トシテ事ヲ行フ官吏ノ調製シタル證書ハ公正ナリ

證書ハ公吏カ場所、證書ノ性質及ヒ其證書ニ關係スル人ニ付キ管轄ヲ有シ且法律ニ定メタル方式ニ從ヒテ之ヲ作りタルニ非サレハ公正ナラス

公證人其他當事者ノ囑託ニ應ス可キ公吏ノ管轄及ヒ其證書ノ方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 前條ニ從ヒテ作りタル證書ハ偽造ノ申立アルマテハ公吏自身ニテ又ハ其面前ニテ爲シタル行爲及ヒ申述ニ付キ其吏員ノ陳述ノ證據ヲ爲ス

此證書ハ之ニ記載シタル日附ニ付キ右同一ノ證據ヲ爲ス

公吏ノ名ニテ作り且其署名及ヒ印章ヲ具ヘタル證書ハ偽造ノ申立アルマテハ其吏員ヨリ出テタルモノト推定ス

ノト推定ス

偽造申立手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八條 公正證書ノ證據力ハ偽造ノ申立ニ因リテ之ヲ停止ス其執行力ニ付テモ亦同シ

主文ト直接又ハ間接ノ關係アル文書ニ關シテハ第二十五條ノ規定ヲ適用ス

第四十九條 證書ニ公正證書トシテ有效ナル爲メ上ニ定メタル條件ノ一ヲ缺クコト有ルモ出指ヲ爲ス給テノ當事者カ現實ニ之ヲ署名シ又ハ捺印シタルトキハ其證書ハ第二十一條及ヒ第二十三條ニ定メタル條件ヲ履行セスト雖モ私署證書トシテ有效ナリ

第四節 反對證書

第五十條 當事者ハ秘密ニ存シ置ク可キ反對證書ヲ以テ公正證書又ハ私署證書ノ效力ノ全部又ハ一分ヲ變更シ又ハ滅却スルコトヲ得然レトモ其反對證書ハ公正證書タルトキト雖モ署名者及ヒ其相續人ニ對スルニ非サレハ效力ヲ有セス

然レトモ當事者ノ債權者及ヒ特定承繼人カ當事者ト約定スルニ當リ反對證書アルチ知リタルコトヲ証スルニ於テハ之ヲ以テ其債權者及ヒ承繼人ニ對抗スルコトヲ得

第五十一條 不動産權利ニ關スル反對證書力或ハ登記ニ因リ或ハ其附記ニ因リテ公ニ爲サレタルトキハ其反對證書ハ通常證書ノ效力ヲ取得ス但總テ總及ノ效力ヲ有セス

第五十二條 孰レノ場合ニ於テモ一方ノ當事者ノ總テノ承繼人ハ他ノ當事者及ヒ其相續人ニ反對證書ヲ以テ對抗スルコトヲ得

第五節 追認證書

第五十三條 追認證書ハ當事者ノ一方カ已レニ不利ナル公正又ハ私署ノ原證書ノ成立ヲ追認スル證書

○證據編



ナリ

右ノ證書ハ下ノ三箇ノ場合ヲ除キ原告ナシテ原證書ヲ差出タス義務ヲ免コレシメス又其證書中ニ原證書ヨリ更ニ多ク又ハ更ニ少キ事項ヲ記シ又ハ之ト異ナリタル事項ヲ記スルモノハ其效ナシ但追認證書中ニ之ヲ原證書ニ代用ス可キ旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十四條 左ノ二箇ノ場合ニ於テハ追認證書ハ原證書滅失ノ證アルトキ之ニ代ハルモノトス

第一 追認證書ニ原證書ノ事項ヲ再掲シタル旨ヲ記載スルトキ

第二 追認證書ノ日附ヨリ二十个年ヲ經過シ且之ヲ採用スル者カ其證書ノミナ既ニ權利ノ行使ニ用井タルトキ

第五十五條 前條ノ場合ノ外原告カ原證書ヲ差出タスコトヲ得サルトキハ追認證書ハ其利益ニ於テハ書面ニ因ル證據端緒トシテ有效ナリ

總テノ場合ニ於テ追認證書ハ時效ヲ中斷ス

第六節 證書ノ勝本

第五十六條 裁判所又ハ當事者ヨリ正本ノ差出ヲ求ムルニ於テハ證書ノ勝本ハ之ヲ採用スル者ナシテ其正本ヲ差出タス義務ヲ免カレシメス但其者カ正本ノ滅失ヲ證シタルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ公吏ノ正本又ハ裁判上追認アリタル私署ノ正本カ原本トシテ公吏ノ許ニ送メラレタル場合ニ於テ裁判所ニ其正本ヲ差出タスコトハ裁判所ノ命令ニ依リ民事訴訟法及ヒ公吏ノ規則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第五十七條 正本ノ滅失シタルトキ其勝本ハ左ノ四箇ノ場合ニ於テハ正本ト同一ノ證據力ヲ有ス

第一 公吏ノ作りシ公正證書ノ正式勝本タルトキ

第二 公正證書ノ勝本又ハ裁判上追認アリ且原本トシテ公吏ノ許ニ送メタル私署證書ノ勝本ヲ當事者ノ要求ニ因リ其相手方ノ面前ニテ其公吏ノ作りタルトキ

第三 當事者出席ノ上又ハ合式ニ之ヲ召喚シタル上ニテ公吏カ裁判所ノ命ニ依リテ其勝本ヲ作りタルトキ

第四 右三箇ノ場合ノ外適法ニ正本ヲ預リタル公吏ノ作りシ勝本カ異議ヲ受ケスシテ其日附ヨリ二十个年ヲ經過シ且當事者間ニ於テ主張セラレタル權利ニ關シ裁判上又ハ裁判外ニテ既ニ採用セラレタルトキ

勝本ニハ左ノ諸件ヲ附記スルコトヲ要ス

右第一ノ場合ニ於テハ其勝本ハ正式勝本タルコト

第二ノ場合ニ於テハ當事者ノ面前ニテ作りタルコト

第三ノ場合ニ於テハ裁判所ノ命ニ依リテ作りタルコト  
總テノ場合ニ於テ其勝本ヲ正本ト校合シタル旨又ハ其勝本ノ正本ニ符合スル旨ヲ之ニ附記スルコトヲ要ス

第五十八條 前條ニ記載シタル四箇ノ場合ノ外ハ公吏ノ作りタル證書ノ勝本ハ書面ニ因ル證據端緒ノ用ヲ爲スノミ

第五十九條 公吏ノ作りタル勝本ノ復寫ハ人證ヲ許ス可キ場合ニ限り單純ナル參考書ノ用ヲ爲スノミ然レトモ公正證書ノ勝本ヲ登記ノ公簿ニ添寫シタルトキハ其勝寫ハ書面ニ因ル證據端緒ナリ裁判上追認アリタル私署證書ノ正本ノ右ニ同シキ勝寫ハ亦書面ニ因ル證據端緒ノ效力ヲ有ス勝寫カ其日附ヨリ二十个年ヲ經過シ且異議ヲ受クルコト無ク既ニ行使セラレタルトキハ其勝寫ハ第



五十七條第四號ニ從ヒテ完全ノ證據トス

乙三百七十

第七節 證人ノ陳述

第六十條 物權又ハ人權ヲ創設シ、移轉シ、變更シ又ハ消滅セシムル性質アル總テノ所爲ニ付テハ其所爲ヨリ各當事者又ハ其一方ノ爲メニ生スル利益カ當時五十圓ノ價額ヲ超過スルトキハ公正證書又ハ私署證書ヲ作ルコトヲ要ス

人證ハ右ノ價額ヲ超過スルニ於テハ法律上明示若クハ默示ニテ例外ト爲シタルトキニ非サンハ證據所之ヲ受理セズ

第六十一條 雙務契約ニ於ケル證據ノ必要ハ權利ノ最高ナル價額ニ依ル

第六十二條 請求又ハ抗辯ノ目的カ金錢ニ非サル場合ニ於テ相手方カ争ノ價額五十圓ヲ超過スル旨ヲ陳述シテ人證ニ異議ヲ申立ツルトキハ裁判所ハ訴訟ノ元素ニ從ヒ又ハ鑑定ニ從ヒテ豫メ假ノ評價ヲ爲ス

第六十三條 書面ヲ作りタル場合ニ於テハ書面ニ反スル事項若クハ書面外ノ事項ヲ證スル爲メ又ハ書面ノ意義ヲ變更ス可キ様其創製ノ際若クハ其前後ニ申述シタルモノヲ證スル爲メニハ總令五拾圓ヨリ少ナキ利益ニ關スルモ人證ヲ許サス

此禁止ハ雜濟、免除、更改其他ノ義務消滅ノ原因ヲ證スル爲メ又ハ書面ヲ以テ証シタル物權ノ消滅又ハ變更ヲ證スル爲メ上ニ定メタル制限内ニ於ケル人證ヲ妨ケズ

總テノ場合ニ於テ主張セラレタル事實ノ日附及ヒ場所又ハ履行ノ爲メ口頭ニテ定メタル時期及ヒ場所ノ脱漏ハ人證ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ得但此事ヨリ生スル利益ヲ主タル利益ニ加ヘテ價額五拾圓ヲ超過セサルトキニ限ル

第六十四條 争ノ利益カ五拾圓ヲ超過スル場合ニ於テハ原告又ハ被告ハ總令其以下ノ數額ニ請求又ハ抗辯ヲ減スルモ人證ヲ許サス

五拾圓ヲ超過セサル請求又ハ抗辯カ此數額ヲ超過シタル價額ノ殘餘ナルトキ亦同シ

第六十五條 前條ニ規定シタル二箇ノ場合ニ於テ証人詢問ニ因リ五拾圓ヲ超過シタル利益ナルコトヲ發見シタルトキハ人證ヲ許シタル裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ要ス

此他証人詢問ニ因リ法律上之ヲ許ササル事情ヲ發見シタル場合ニ於テモ亦同シ

第六十六條 上ノ規定ハ填補利息、過怠約款又ハ契約ニ從ヒテ返還ヲ受ク可キ果實ノ計算ヲ加フルカ爲メニ五拾圓ノ額ヲ超過スル場合ニ於テ原告又ハ被告カ証人ヲ以テ其主タル債權ヲ證スル爲メ此從タル債權ヲ拋棄シ得ル妨ト爲ラス

右ノ超過カ遲延利息又ハ要約セサル損害賠償又ハ請求後ニ返還ヲ受ク可キ果實ノミヨリ生スルトキハ全部ニ付キ人證ヲ許ス

第六十七條 書面ニ依リ全ク証セラレシテ各別ニ人證ヲ許サル可キ數箇ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ハ其原因ノ如何ニ拘ハラズ一箇ノ既狀ニ其數箇ノ請求ヲ併合スルコトヲ要ス但其請求カ總テ滿期ノモノニシテ同一裁判所ノ管轄ニ屬スルモノタルトキニ限ル

右ノ手續ヲ爲ササルニ於テハ最早其脱漏シタル請求ニ付キ人證ヲ許サス

第六十八條 前條ニ記載シタル如ク併合シタル數箇ノ請求又ハ抗辯カ五拾圓ノ價額ヲ超過スルトキハ

人證ヲ許サス但此請求又ハ抗辯カ相異ナル原因ヨリ生スルトキハ此限ニ在ラス

第六十九條 左ノ場合ニ於テハ争ノ價額ノ如何ニ拘ハラズ人證ヲ許ス

○證據編

乙三百七十一



第一 書面ニ因ル証據端緒ノ存スルトキ

証據端緒トハ之ヲ以テ對抗セラルル人又ハ其人ヲ代表シタル者ヨリ出テタル總テノ書面ニシテ主張シタル事柄ニ付キ事實タルノ感ヲ起サシムルモノヲ謂フ

主張シタル事柄ノ書面ニ因ル証據端緒アルトキハ書面外ノ事項又ハ書面ニ反スル事項ニ付キ人証ヲ許ス

第二 原告又ハ被告ガ不可抗力ニ因リ又ハ自己ノ過失若クハ懈怠ニ歸ス可カラサル意外ノ事ニ因リテ其証書ヲ失ヒタルコトヲ証スルトキ

第三 主張シタル事柄ノ有リタル當時利害關係人ガ証書ヲ得ル能ハサリシトキ

第七十條 前條第三號ハ殊ニ左ノ場合ニ之ヲ適用ス

第一 財産取得編第二百二十條及ヒ第二百二十一條第一項ニ規定シタル急迫等証

第二 事變、不期ノ危険又ハ急迫ナル必要ノ場合ニ於テ負擔シタル義務

第三 合意外ノ原因ヲ有スル義務但此場合ニ於テ不當ノ利得、不正ノ損害又ハ法律ノ規定ヨリ生

シタルト主張スル義務カ書面ヲ以テ証ス可キ性質ノモノタル權利行為ヲ推量セシムルトキハ豫メ其証據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十一條 法律カ人証ヲ詐ス場合ノ外人証ヲ拒ムニ利益ヲ有スル當事者カ人証ニ依リテ証據ヲ得ク

ルコトヲ承諾スルトキハ裁判所ハ人証ヲ拒絶シ又ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第八節 世評

第七十二條 判事ハ證人ノ證據ニ因リテ拘束セラレヌ其心證ニ從ヒテ判決ス

實ニ適用ス可キコトヲ定メタル各條ノ場合ニ於テハ此證ヲ用ニルコトヲ得

世評ニ因ル證據ニ於テハ證人ハ事實ニ付キ直接ニ自ラ知ラサルモ傳聞ニ因リ又ハ公然顯著ナルニ因リテ知りタル所ノモノヲ陳述スルコトヲ得

第三章 間接證據

第七十四條 間接證據ナル推定ハ法律カ直接證據ナキ場合ニ於テ知レタル事實ヨリ知レサル事實ニ自ラ推及シ又ハ裁判官ノ明識ト思慮トニ委ヌル結果ナリ

右第一ノ推定ヲ法律上ノ推定ト謂ヒ第二ノ推定ヲ事實ノ推定ト謂フ

第一節 法律上ノ推定

第七十五條 法律上ノ推定ニハ其證據カト其原因トニ從ヒテ左ノ區別アリ

第一 完全ニシテ公益ニ關スルモノ

第二 完全ニシテ私益ニ關スルモノ

第三 輕易ナルモノ

第一款 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定

第七十六條 公益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定ハ法律ノ明示シテ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サス此推定ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 既判力

第二 取得又ハ免責ノ時效

第七十七條 既判力ハ判決主文ニ包含スルモノニ存ス

第七十八條 既判力ハ真正ト推定セラル

○證據編



然レトモ確定ト爲ラサル判決ハ民事訴訟法ニ定メタル方式及ハ期間ニ於テ之ヲ攻取ルコトヲ得  
第七十九條 判決ノ確定ト爲リタルトキ同一ノ争ヲ再ヒ陳ノルニ於テハ其争ハ下ノ區別ニ從ヒ既判力  
ニ依リテ之ヲ斥ク

第八十條 判決力全部又ハ一分ニ付キ公ノ秩序ニ關スルトキハ既判力ニ因ル不受理ノ理由ハ裁判所ノ  
職權ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス  
此他ノ場合ニ於テハ利害關係人ヨリ不受理ノ理由ヲ以テ對抗スルコトヲ要ス

第八十一條 既判力ニ因ル不受理ノ理由ヲ以テ新請求又ハ新答辯ニ對抗スルコトヲ得ルニハ其請求又  
ハ答辯カ舊請求又ハ舊答辯ニ比較シテ左ノ諸件アルコトヲ要ス

第一 權利又ハ事實ニ關シテ争ノ目的ノ同一ナルコト

第二 主張ノ原因ノ同一ナルコト

第三 原告、被告ノ權利上ノ資格ノ同一ナルコト

第八十二條 新請求又ハ新答辯ノ目的カ數量ニ付テノミ舊請求又ハ舊答辯ノ目的ト異ナリタルトキハ  
新請求又ハ新答辯ノ目的ハ舊請求又ハ舊答辯ニ包含シタルモノト看做ス但舊請求又ハ舊答辯ヲ裁判  
セシ裁判所カ新請求又ハ新答辯ノ數量ヲ正當トスルニ於テハ之ヲ許與スル權力ヲ有セシトキニ限ル

第八十三條 舊争カ合意又ハ遺言ノ銷除、廢罷又ハ解除シ目的トシタルトキハ其争ノ際存在シタルモ  
當事者ノ知りテ申立テサリシ他ノ同性質ノ原因ハ當事者之ヲ拋棄シタリト推定セラレ更ニ之ヲ新争  
ノ原因トシテ用ユルコトヲ得ス  
方式ノ瑕疵アル証書ヲ其瑕疵ノ爲メ無効トスル舊争中ニ申立テサリシ他ノ方式ノ瑕疵ニ付テモ亦同  
シ

本條ノ適用ニ於テ銷除ノ訴ノ爲メニハ承諾ノ各種ノ瑕疵及ヒ各種ノ無能力ヲ同性質ノ原因ト看做シ  
又解除ノ訴ノ爲メニハ合意不履行ノ各種ノ場合ヲ同性質ノ原因ト看做ス

第八十四條 當事者カ或ハ自身ニテ同一ノ資格ヲ以テ既ニ舊訴訟ニ出テタルトキ或ハ舊訴訟ニ於テ其  
前主若クハ代理人ニ因リテ代表セラレタルトキ或ハ利害關係人ノ結合カ略ニ相互代理タルトキハ當  
事者ノ權利上ノ資格ハ同一ナリトス

第八十五條 刑罰裁判所カ犯罪ノ所爲ノ爲メニ要求セシ民事上ノ賠償ニ付キ判決シタル場合ノ外尙キ  
重罪、輕罪又ハ違警罪ノ判決ハ犯罪ニ附著スル民事上ノ利益ニ付キ既判力ヲ有ス但犯罪所爲ノ眞實、  
其犯罪ノ性質及被告人ノ罪責ニ付テノ裁判ニ關スルモノニ限ル

第二款 私益ニ關スル完全ナル法律上ノ推定

第八十六條 法律上ノ推定ハ左ノ場合ニ於テハ私益ニ關スル完全ノモノナリ

第一 法律カ人ノ身分ニ關スル或ル資格ヲ付與シ又ハ拒絕スルトキ

第二 法律カ或ル所爲ヲ其規定ニ背キタルモノト推定シテ取消ストキ

第三 法律カ制規ノ公示ナキニ因リ第三者ニ知レサルモノト推定シテ或ル權利ノ行使ヲ拒絕スル  
トキ

此法律上ノ推定ハ法律ノ明示シテ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許サス  
然レトモ和解ヲ許ス場合ニ於テハ此推定ハ口頭自白ヲ以テ何時ニテモ之ヲ覆ヘスコトヲ得

第三款 輕易ナル法律上ノ推定

第八十七條 上ノ法律上ノ推定ニ非サルモノハ輕易ナル法律上ノ推定ナリ此推定ニ付テハ法律カ反對  
ノ證據ヲ明許セサルトキト雖モ總テ之ヲ許ス



右反對ノ證據ハ前二章ニ規定シタル條件ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ棄クルコトヲ得ス  
又輕易ナル法律上ノ推定ハ次條ノ場合ニ於テハ事實ノ推定ヲ以テ之ヲ駁撃スルコトヲ得

第二節 事實ノ推定

第八十八條 法律カ裁判所ニ其裁判ノ元素ヲ訴訟ノ事情ニ付キ採取スルコトヲ許ス特別ナル場合ノ外  
尙ホ裁判所ハ人証ヲ許ス可キ場合ニ於テハ何等ノ直接ノ證據ヲモ擧ケサルトキト雖モ事情ヨリ生ス  
ル心証ニ從ヒテ爭ヲ決スルコトヲ得

第二部 時效

第一章 時效ノ性質及ヒ適用

第八十九條 時效ハ時ノ效カト法律ニ定メタル其他ノ條件トナ以テスル取得又ハ免責ノ法律上ノ推定  
ナリ但動産ノ瞬間時效ニ關スル第四百四十四條以下ノ規定ヲ妨ケス

第九十條 正當ナル取得又ハ免責ノ推定ハ完全ニシテ公ノ秩序ニ關スルモノトス此推定ハ第九十六條  
及ヒ第六百六十一條ニ規定シタル如ク法律ノ定メタル場合及ヒ方法ニ從フニ非サレハ反對ノ證據ヲ許  
サス

第九十一條 取得時效ノ效カハ占有ノ有益ニ始マリタル日ニ遡ル  
免責時效ノ效カハ債權者カ其權利ヲ第五百二十五條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒテ行フコトヲ得ヘカ  
リシ日ニ遡ル

第九十二條 或ル既權ノ行使ノ爲メ法律ニ定メタル期間ハ其既權ノ性質ニ因リテ取得時效又ハ免責時  
效ノ一般ノ規則ニ從フ但法律カ明示又ハ默示ニテ例外ヲ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第九十三條 時效ハ總テノ人ヨリ之ヲ援用スルコトヲ得

又時效ハ總テノ人ニ對シテ進行ス但法律ニ依リ時效停止ノ利益ヲ受クル人ニ對シテハ此限ニ在ラス  
第九十四條 總テ融通物ハ時效ニ罹ルコトヲ得但法律上之ニ異ナル規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラ  
ス

不融通物及ヒ讓渡スコトヲ得サル物ハ時效ニ罹ルコトヲ得ス  
公有ノ財産ハ動産ト雖モ亦同シ

第九十五條 自己ノ財産ニ付キ又ハ他人ニ對シテ行フコトヲ得ル法律上ノ權能ハ熟計ノ時期間之ヲ行  
ハサルモ爲メニ喪失セス但法律、合意又ハ遺言ニ於テ之ニ異ナル定テ設ケタル場合ハ此限ニ在ラス  
第九十六條 判事ハ職權ヲ以テ時效ヨリ生スル請求又ハ抗辯ノ方法ヲ補足スルコトヲ得ス

時效ハ其餘件ノ成就シタルカ爲メ利益ヲ受クル者ヨリ之ヲ援用スルコトヲ要ス

時效ヲ援用スル當時併セテ正當ノ取得又ハ免責ナキコトヲ追認スル者ハ時效ヲ拋棄シタリト看做ス  
第九十七條 時效ヲ援用スルニ利益ヲ有スル當事者ノ總テノ承繼人ハ或ハ原告ト爲リ或ハ被告ト爲リ  
其當事者ノ權ニ基キテ時效ヲ援用スルコトヲ得

債權者ハ財産編第三百三十九條ニ從ヒテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

第九十八條 時效ハ訴訟中何時ニテモ之ヲ援用スルコトヲ得又控訴ニ於テモ始メテ之ヲ援用スルコト  
ヲ得然レトモ上告ニ於テハ始メテ之ヲ援用スルコトヲ得ス

第九十九條 年又ハ月ニ依リテ成就ス可キ時效ハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

日ニ依リテ成就ス可キ時效ハ午前零時ヨリ午後十二時マテチ一日ト爲シテ之ヲ算ス

時效ノ進行ノ始マリタル日又ハ其中斷若クハ停止ノ後再ヒ進行ノ始マリタル日ハ之ヲ算セス  
最後ノ日ハ全ク經過スルコトヲ要ス

◎證據編



第二章 時效ノ拋棄

乙三百七十八

第百條 時效ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ス但第百二十條第二項ニ記スル如ク占有者リ將來ニ向ヒテ其占有ノ容假ヲ認ムル權利ニ妨ナシ  
成就シタル時効ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得又其進行中ト雖モ既ニ經過シタル時期ノ利益ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第百十八條以下ニ記載セル相手方ノ權利ヲ追認シタル場合ニ於ケルト同シク時効ハ中斷ス

第百一條 拋棄ハ默示タルコトヲ得ルト雖モ明カニ事情ヨリ顯ハルルコトヲ要ス

第百二條 成就シタル時効ヲ有效ニ拋棄スルニハ取得シタリト推定セララルル權利ヲ無償ニテ讓渡シ又ハ消滅シタリト推定セララルル義務ヲ無償ニテ負擔スル能力アルコトヲ要ス

第百三條 債權者ハ其權利ヲ詐害シテ債務者ノ爲シタル時効ノ拋棄ニ對シテハ財産編第三百四十條以下ニ定メタル條件及ヒ方法ニ從ヒ自己ノ名ヲ以テ之ヲ攻撃スルコトヲ得

第三章 時効ノ中斷

第百四條 經過シタル時期ノ利益力下ニ記シタル原因ノ一ニ由リテ消滅スルトキハ時効ハ中斷ス  
中斷シタル時効ハ中斷ノ原因ノ止ミシ時ヨリ更ニ進行ス

第百五條 時効ノ中斷ハ自然ノモノ有リ法定ノモノ有リ

自然ノ中斷ハ取得時効ニ關シテノミ生ス

法定ノ中斷ハ取得及ヒ免責ノ時効ニ共通ナリ

第百六條 動産不動産又ハ包括動産ノ占有者カ異ノ所有者又ハ第三者ノ所爲ニ因リテ一年以上其占有ヲ奪ハレタルトキハ自然ノ中斷ナリ  
占有ヲ取戻シタルトキハ時効ハ更ニ進行ス

若シ不可抗力ニ因リテ占有ヲ奪ハレタルトキハ自然ノ中斷ナシ

第百七條 自然ノ中斷ハ各利害關係人ノ爲メニ其効ヲ生ス

第百八條 占有者カ或ル時間任意ニテ其占有ヲ止メシトキハ其占有不繼續ノ効力ハ第百三十九條ニ於テ之ヲ規定ス

第百九條 法定ノ中斷ハ左ノ諸件ヨリ生ス

第一 裁判上ノ請求

第二 勸解上ノ召喚又ハ任意出席

第三 執行文提示又ハ催告

第四 差押

第五 任意ノ追認

右ノ手續又ハ追認ノ行為カ時効ノ爲メ害ヲ受クル者ノ權利ニ明カニ關係スルコトヲ要ス

第百十條 法定ノ中斷ハ中斷ノ所爲ヲ行ヒタル者及ヒ其承繼人ノ爲メニ非サレハ其効ヲ生セス

第百十一條 本條ト附帶訴ト反訴トヲ問ハス裁判上ノ請求ハ時効ヲ中斷ス但其請求カ方式ニ於テ無効タルトキ又ハ管轄違ノ裁判所ニ之ヲ爲シタルトキモ亦同シ

然レトモ右但書ノ場合ニ於テ中斷ハ初ノ請求ヲ棄却セシ判決アリタル時ヨリ二个月内ニ更ニ合式ノ訴ヲ提起セサルニ於テハ之ヲ不成立ト看做ス

第百十二條 中斷ハ左ノ場合ニ於テモ亦之ヲ不成立ト看做ス

○譯編編

乙三百七十九



第一 請求カ其基本ニ於テ棄却セラレタルトキ

第二 原告カ取下ヲ爲シタルトキ

第三 訴訟手續カ民事訴訟法ニ定メタル時間休止シテ無効ト爲リタルトキ

第百十三條 裁判上ノ請求ヨリ生スル中斷ハ訴訟ノ提起ヨリ其判決ノ確定ト爲ルマテ繼續ス

第百十四條 勸解上ノ召喚又ハ任意出席ニ因ル時効ノ中斷ハ主タル請求ハ勿論其反對ノ請求ヨリモ生ス

召喚ノ無効ハ方式ノ瑕疵ニ因ルモ管轄違ニ因ルモ中斷ヲ妨ケス但初ノ召喚ノ無効ト爲リタル一个月内ニ更ニ合式ノ召喚ヲ爲スコトヲ要ス

合式ノ召喚ノ上勸解不調ノ場合及ヒ被告ノ闕席ノ場合ニ於テ中斷ハ一个月内ニ裁判上ノ請求ヲ爲ササルトキハ之ヲ不成立ト看做ス

第百十五條 執行文提示ヨリ生スル中斷ハ一个年内ニ差押ヲ爲ササルトキハ之ヲ不成立ト看做ス

右ノ中斷ハ方式ノ瑕疵ニ因リテ其提示ノ無効ナルトキト雖モ尙ホ成立ス但催告ヨリ生スル中斷ノ爲メ下ニ定メタル條件ヲ履行スルコトヲ要ス

第百十六條 義務履行ノ催告ハ義務ノ目的、原因及ヒ債務者ヲ明カニ指示シ且六个月内ニ裁判上又ハ勸解上ノ請求ヲ爲シタルトキニ非サレハ時効ヲ中斷セス

第百十七條 差押ヨリ生スル中斷ハ其差押ノ手續カ合式ニ終結マテ繼續シタルニ非サレハ其效力ヲ存續セス

假差押ハ裁判所ノ定メタル期間ニ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ非サレハ時効ヲ中斷セス  
時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ差押ヲ爲ササルトキハ其差押ハ此者ニ告知シタル後ニ非サレハ之ニ

對シテ中斷ノ效力ヲ有セス

第百十八條 任意ノ追認ヨリ生スル時効ノ中斷ハ裁判上ヨリ又ハ口頭タルト書面タル外ノ行爲ヨリ生スルコトヲ得

裁判上ノ追認ハ自發ナルコト有リ又ハ判事ノ訊問ヨリ生スルコト有リ  
第百十九條 追認ハ明示又ハ默示ナルコトヲ得

占有者カ占有物ニ關スル果實又ハ賠償ノ要求ニ承服スルトキ又ハ之ニ反シテ占有者カ物ニ付キ爲シタル必要若クハ有益ノ費用ノ爲メ賠償ヲ要求スルトキハ殊ニ取得時効ニ對スル默示ノ追認アリトス  
債務者カ利息又ハ債務ノ轉讓ノ請求ニ承服スルトキ又ハ之ニ反シテ債務者カ提供ヲ爲シ若クハ恩惠期限ノ請求ヲ爲ストキハ殊ニ免責時効ニ對スル默示ノ追認アリトス

第百二十條 眞ノ所有者ノ權利ヲ追認シタル占有者ハ其所有者及ヒ其承繼人ニ對シテ新時効ヲ再ヒ始ムル權利ヲ失ハス然レトモ占有者ハ最早其以前ノ善意ノ利益ヲ援用スルコトヲ得ス

若シ其占有者ガ容假ノ占有者ト爲リタルトキハ將來ニ向ヒ何人ニ對シテモ時効ノ利益ヲ失フ但財産編第百八十五條第二項及ヒ第三項ノ場合ノ適用ヲ妨ケス

第百二十一條 追認ニ因リテ中斷シタル免責時効ハ即時更ニ進行ス然レトモ其時効ハ最初短期ノモノタリシトキト雖モ將來ニ向ヒテ長期時効ノ期間ニ從フ

第百二十二條 時効ヲ中斷スル追認ハ自己ノ財産ヲ管理スル能力又ハ時効ニ罹ルコト有ル可キ財産ヲ他人ノ爲メニ管理スル能力ヲ有スル者ニ於テ之ヲ爲シタルトキハ有效ナリ

然レトモ婦、無能力者又ハ委任者ノ利益ニ於ケル不動産ノ取得時効ヲ中斷スル爲メ夫、後見人又ハ代理人ノ爲シタル追認ハ不動産ノ請求ニ承服スル一般又ハ特別ノ能力アルニ非サレハ有效ナラス



第二百二十三條

乙三百八十二

時效ヲ中斷スル追認ノ所爲ニ付キ争アルトキハ通常ノ証拠方法ヲ以テ之ヲ証スルコトヲ得

第二百二十四條

保証、連帯及ヒ不可分ノ場合ニ於テ各利害關係人ニ對スル追認其他ノ方法ニ因ル時效中斷ノ效力ハ債權擔保編第二十七條、第六十一條、第八十一條、及ヒ第八十九條ニ於テ之ヲ規定ス

第四章 時效ノ停止

第二百二十五條

權利ノ行使カ權利上又ハ恩惠上ノ確定若クハ不確定ノ期限ニ服シ又ハ其發生カ停止條件ニ繫ルトキハ其期限ノ滿了又ハ條件ノ成就ノ時ニ非サレハ時效ハ進行ヲ始メス

第二百二十六條

時效ハ物權又ハ人權ニシテ其成立、廣狹又ハ行使カ相續ニ繫ルモノニ對シテハ其相續後ニ非サレハ進行ヲ始メス

第二百二十七條

遺言又ハ前主ノ合意ニ對シ相續人ニ属スル銷除既權又ハ抗辯ノ時効ハ其遺言又ハ合意ヲ相續人ニ對シテ採用シ又ハ其相續人ヲ害スル權利行使ノ基礎トシテ用ヰタル後ニ非サレハ進行ヲ始メス

第二百二十八條

上ノ場合ニ於テ時效ハ第三所持者ニ對シテ停止セス但所有權ノ取得時效又ハ抵當ノ消滅時效ヲ中斷セント欲スル利害關係人ニ於テ自己ノ未定ノ權利ノ追認證書ヲ得ント請求スルコト又ハ裁判上其權利ヲ單ニ追認セシムルコトヲ妨ケス

第二百二十九條

時效カ其進行中ニ停止セラルルトキハ既ニ經過シタル時間ハ其時效ノ更ニ進行ヲ始ムル時ニ之ヲ通算ス

第二百三十條

時效ハ法律ニ定メタル人ノ利益ニ於ケルニ非サレハ停止セス

第二百三十一條

期間五個年以下ノ時效ハ成年者ニ對スル如ク未成年者及ヒ禁治產者ニ對シテ進行ス但

後見人カ此等ノ者ノ權利ヲ行フコトヲ忘リ又ハ正當ノ原因ナクシテ此權利ニ覺ルセサル場合ニ於テハ此等ノ者ヨリ其後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

五個年ヲ超ユル時效ニ關シテハ其期間ハ成年ニ達シタル未成年者又ハ精神ノ回復シタル禁治產者ヲシテ常ニ其權利ヲ行フ猶豫ヲ得セシムル爲メ最後ノ一個年停止ス

第二百三十二條

時效ハ婦ニ對シ第三者ノ利益ニ於テ進行ス但夫カ婦ノ爲メニ管理スル財産ニ關シ其夫ノ方ニ懈怠アル場合ニ於テハ婦ヨリ夫ニ對スル求償權ヲ妨ケス

然レトモ法律ニ規定シタル場合ニ於テハ時效ハ婦ノ爲メ最後ノ一個年停止ス

第二百三十三條

前二條ノ規定ハ無能力者自身ニテ爲シタル行為ノ銷除既權ノ時效停止ニ關シ財產編第五百四十五條及ヒ第三百四十六條ニ定メタルモノヲ妨ケス

第二百三十四條

配偶者ノ一人ヨリ他ノ一人ニ對シテ行フ可キ權利ニ關シテハ婚姻中ト雖モ時效ハ進行ス

然レトモ其時效ハ最後ノ一個年停止ス又一個年以下ノ時效ニ關シテハ其最後ノ半期間停止ス

第二百三十四條

於テハ動産回復ノ期間ハ三個月トス

第二百三十五條

時效ハ財産ノ管理人ト其管理ヲ受クル者トノ間ニ於テ其保存スルコトヲ任セラレタル權利ニ付テハ管理人ノ爲メニ停止ス

時效ハ管理カ止ミシ以後ニ非サレハ更ニ進行セス又第四百四十四條ノ場合ニ於ケル動産ノ時效ニ關シテハ三個月ヲ以テスルニ非サレハ成就セス

第二百三十六條

上ニ定メサル場合ニ於テ時效ノ期間ノ滿了スル時ニ當リ有權者カ交通ノ要カリタルニ因リ又ハ地方ノ裁判事務ノ停止セラレタルニ因リテ其權利ノ效用ヲ致サシメ又ハ時效ヲ中斷スル爲

○證據編

乙三百八十三



メ手續ヲ爲スコト能ハサリシ時ハ有權者其妨礙ノ止ム後直チニ請求ヲ爲スニ於テハ其失權ヲ免カルルコトヲ得

右ノ規定ハ陸海軍人カ戰亂ノ時ニ於テ服役ノ爲メ其權利ヲ行フコトヲ妨ケラレタル場合ニ於テハ其利益ノ爲メ之ヲ適用ス

第三百三十七條 物權又ハ入權ノ不可分ヨリ生スル時効ノ停止ハ財産編第二百九十一條、第四百四十六條及ヒ債權擔保編第八十九條第二項ニ於テ之ヲ規定ス

第五章 不動産ノ取得時効

第三百三十八條 不動産ノ取得時効ニ付テハ所有者ノ名義ニテ占有シ其占有ハ繼續シテ中斷ナク且平穩、公然ニシテ下ニ定メタル繼續期間アルコトヲ要ス

財産編第八十三條及ヒ第八十五條ニ定メタル如キ強暴、隱密又ハ容假ノ占有ハ時効ヲ生セス  
第三百三十九條 占有者カ時効ニ因リテ取得セントスル物ニ付キ或ル長キ時間所有者ノ行爲ヲ爲スコトヲ任意ニテ止メシトキハ其占有ハ不繼續ニシテ時効ヲ生セス

占有者カ再ヒ所有者ノ行爲ヲ爲ストキハ其以前ノ占有ノ時間ハ占有者ノ爲メニ之ヲ算セス

第四百十條 占カカ上ニ定メタル條件ノ外財産編第八十一條ニ記載シタル如キ正權原ニ基因シ且財産編第八十二條ニ從ヒテ善意ナルトキハ占有者ハ不動産ノ所在地時効ノ爲メ害ヲ受クル者ノ住所又ハ居所トノ間ノ距離ヲ區別セス十五年ヲ以テ時効ヲ取得ス

占有者カ正權原ヲ証スルコトヲ得ヌ又ハ之ヲ證スルモ財産編第八十七條ニ規定シタル如ク其善意カ證セラルルトキハ取得時効ノ期間ハ三十年トス

第四百十一條 性質上登記ヲ爲スコキ正權原ニ基因シタル時効ハ其証書ニ依リ登記ヲ爲シタル後ニ非

サレハ之ヲ算セス

第四百十二條 方式上無効タリ又ハ裁判上取消サレタル權原ハ時効ノ爲メニ有益ナラス  
第四百十三條 前主ノ占有ヲ其相續人及ヒ包括若クハ特定ノ承繼人ノ占有ニ併合シ又ハ繼續スルコト

ハ財産編第九十二條ニ於テ之ヲ規定ス

第六章 動産ノ取得時効

第四百十四條 正權原且善意ニテ有體動産物ノ占有ヲ取得スル者ハ即時ニ時効ノ利益ヲ得但第四百三十四條及ヒ第三百三十五條ニ記載シタルモノヲ妨ケス

此場合ニ於テ反對カ証セラレサルトキハ占有者ハ正權原且善意ニテ占有スルモノトノ推定ヲ受ク

第四百十五條 動産物ノ占有者カ正權原ヲ有シ且善意ナル場合ニ於テモ其物カ所有者ノ盜取セラレタルモノ又ハ遺失シタルモノナルトキハ其所有者ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二箇年間ハ占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得但占有者カ其物ヲ有償ニテ受ケタルトキハ其讓渡人ニ對スル求償ヲ妨ケス

背信ニ因リテ隱匿シ又ハ詐欺ヲ以テ得タル物ニハ本條ヲ適用セスシテ前條ノ規定ニ從フ

第四百十六條 盜取セラレ又ハ遺失シタル物ヲ競賣又ハ公ノ市場ニ於テ又ハ此類ノ物ノ商人若クハ古物商人ヨリ善意ニテ買受ケタル者アルトキハ所有者ハ其買受代價ヲ辨償スルニ非サレハ回復ヲ爲スコトヲ得ス

此場合ニ於テハ右ノ代價ニ付キ所有者ハ賣主ニ對シ又賣主ハ讓渡人ニ對シテ求償權ヲ有シ終ニ盜取者又ハ拾得者ニ遡ル

第四百十七條 無記名債權證券ヲ盜取セラレ又ハ遺失シタル場合ニ於テ其證券回復ノ期間及ヒ條件ハ

○證券編



特別ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四百四十八條 上ノ場合ニ於テ回復者カ占有ノ無權原タリ又ハ惡意タルコトヲ證スルトキハ時効ハ三十个年ヲ經過スルニ非サレハ成就セス

第四百四十九條 上ノ規定ハ用方ニ因リテ不動産ト爲リタル動産カ其附著シタル不動産ヨリ分離セラレタル場合ニ於テハ其動産ニ之ヲ適用ス

上ノ規定ハ財産編第二十條ニ從ヒ用方ニ因ル動産ニ之ヲ適用セス但其物カ土地ヨリ分離シタルトキハ此限ニ在ラス

又上ノ規定ハ記名債權ニモ包括動産ニモ之ヲ適用セス但此等ノ物ニ關スル時効ノ期間ハ第三百三十八條以下ニ記載シタル區別ニ從ヒ不動産ニ關スルモノト同一ナリ

第七章 免責時効

第五百十條 義務ノ免責時効ハ債權者カ其權利ヲ行フコトヲ得ヘキ時ヨリ三十个年間之ヲ行ハサルニ因リテ成就ス但法律上別段短キ期間ヲ定メ又ハ債權者時効ニ罹ラサルモノト定メタルトキハ此限ニ在ラス

第五百一十條 然債務ノ元本カ年賦ニテ辨済ス可キモノタルトキハ利息ヲ包含スルト否トナ問ハス時効ハ各年賦ノ要求期ニ達シタル時ヨリ各別ニ之ヲ算ス

第五百一十二條 債權カ無期又ハ終身ノ年金權ナルトキト雖モ其時効ハ證書ノ日附ヨリ三十个年ヲ以テ成就ス

然レトモ右ノ日附ヨリ二十八个年ノ後ニ至リ債權者ハ債務者ニ對シ時効ヲ中斷スル爲メ雙方ノ費用ヲ以テ其權利ノ追認證書ヲ得ント要求スルコトヲ得

若シ債務者右ノ要求ヲ拒絕シ債權者裁判上自己ノ權利ヲ追認セシムル必要アルトキハ其費用ハ全ク債務者ノ負擔タリ

第五百一十三條 動産質又ハ不動産質ノ返還ヲ得ル爲メノ對人際權ハ適法ナル方法ニ因リテ債務ノ消滅シタル後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

第八章 特別ノ時効

第五百一十四條 人ノ身分ニ關スル際權ハ法律カ其行使ヲ特別ノ期間ニ限ラシムル場合ニ非サレハ時効ニ罹ラス

第五百一十五條 相続人又ハ包括權原ノ受遺者若クハ受贈者ノ分限ヲシテ效用ヲ致サシムル爲メノ遺言請求ノ際權ハ相続人又ハ包括權原ノ受贈者若クハ受遺者ノ權原ニテ占有スル者ニ對シテハ相続ノ時ヨリ三十个年ヲ經過スルニ非サレハ時効ニ罹ラス

第五百一十六條 免責時効ハ左ニ掲クル條件ノ辨済ヲ際權ニ對シテハ五個年トス

第一 明確ナル金額ノ填補又ハ遲延ノ利息

第二 無期又ハ終身ノ年金權ノ年金

第三 養料又ハ恩給ノ一期ノ支拂金

第四 借家賃又ハ借地賃

第五 果實又ハ日用品ノ毎期ノ給與額

第六 教師、番頭、手代、使用人、乳母其他ノ雇人ノ謝金又ハ給料ニシテ一个年毎ニ定メラレタルモノ

此他一般ニ一个年毎ニ又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メタル金額又ハ有價物ニ係ル債務ニ付テモ亦

○證據編



同シ但其辨濟ノ方法如何ニ拘ハラズ且下ニ規定シタル場合ハ此限ニ在ラス  
第百五十七條 時效ハ左ノ所載ニ對シテハ一年トス

第一 醫師、產婆、藥劑者ノ治術、世話及ヒ調劑ニ關スル其既權

第二 前條第六號ニ指定シタル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一年ヨリ短ク一ヶ月ヨリ長キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其既權

第三 技師、工匠、測量師、製圖師ノ經費、意見及ヒ工事ニ關スル既權

第百五十八條 公証人、辯護士、執達吏其他ノ公吏カ職務ニ關シテ受ク可キモノニ付テハ其既權ニ對スル時效ハ二年トス  
此場合ニ於テ時效ハ右各人ノ債權ヲ生セシメタル行爲又ハ訴訟ノ終了後ニ非サレハ進行ヲ始メス然レトモ終了セサル事件ニ關シテハ右各人ハ五年餘ニ廻ル行爲ノ爲メニ謝金ヲ要求スルコトヲ得ス

此規定ハ右各人カ其職務ノ爲メニ爲シタル立替金及ヒ支出金ニ之ヲ適用ス

第百五十九條 時效ハ左ノ所載ニ對シテハ一年トス

第一 非商人ニ爲シタル供給ニ關スル日用品、衣服其他動産物ノ卸賣商人又ハ小賣商人ノ既權但

商人又ハ工業人ニ爲シタル供給ト雖モ其者ノ商業又ハ工業ニ關セサル場合ニ於テハ亦同シ

第二 右ノ區別ヲ以テ注文者ノ材料又ハ動産物ニ付キ仕事ヲ爲ス居職ノ職工又ハ製造人ノ既權

第三 生徒又ハ習業者ノ教育、衣食及ヒ止宿ノ代料ニ關スル校長、塾主、師匠又ハ現方ノ既權

第百六十條 時效ハ左ノ所載ニ對シテハ六個月トス

第一 第百五十六條第六號及ヒ第百五十七條第二號ニ指定シタル教師、使用人其他ノ者ノ謝金又ハ給料カ一ヶ月又ハ更ニ短キ時期ヲ以テ定メラレタル場合ニ於テハ其既權

第二 旅店又ハ料理店ノ主人ヨリ供給シタル宿泊料、飲食料及ヒ消費物ニ關スル其既權

第三 日雇、月雇ノ職工又ハ勞力者ノ給料及ヒ其仕事ニ際シ此等ノ者ノ爲シタル些少ノ供給ニ關スル其既權

第百六十一條 前五條ニ規定シタル時效ノ現實ニ辨濟セサリシコトヲ自白シタル債務者之ヲ接用スルコトヲ得ス

第百六十二條 裁判所書記、辯護士ハ裁判ノ時ヨリ公証人ハ証書開製ノ時ヨリ執達吏ハ其職務執行ノ時ヨリ三年ノ後ハ其職務ノ事件ニ關シテ交付セラレタル書類ニ付キ責任ヲ免カレ其書類返還ノ任ヲ提示スル義務ヲ免除セラル

第百六十三條 本章ニ規定シタル時效ハ當事者ノ間ニ明確ナル計算書、數額ヲ記載シタル債務ノ追認書又ハ債務者ニ對スル判決書アルキハ之ヲ適用スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ時效ハ十三年トス  
附則

第百六十四條 本法實施ノ當時ニ於テ進行中ナル時效ハ上ニ定メタル條件、禁止、中斷及ヒ停止ニ從フ其期間ニ關シテハ舊時効カ新時効ヨリ一層長キ期間ヲ要スル場合ニ於テハ占有者又ハ債務者ハ本法實施ノ時ヨリ算シテ舊時効ノ經過ス可キ殘期カ新時効ノ期間ヨリ短キキハ舊時効ヲ利スルコトヲ得ル新時効ヨリ一層短キ期間ノ舊時効ニ關シテハ其期間ハ本法ニ定メタルモノニ等シキ期間ニ違スル様之ヲ延長ス可シ



○商法 (明治三十三年三月二十七日)

朕商法ヲ可裁シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

○商法目錄

總則	七	丁
第一編 商ノ通則		
第一章 商事及ヒ商人	七	丁
第二章 商標登記簿	七	丁
第三章 商號	十	丁
第四章 商業帳簿	十	丁
第五章 代務人及ヒ商業使用人	十	丁
第六章 商車會社及ヒ共算商業組合	十	丁
商車會社總則		
第一節 合名會社		
第一款 會社ノ設立	十	丁
第二款 會社契約ノ變更	十一	丁
第三款 社員間ノ權利義務	十一	丁
第四款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務	十一	丁
第五款 社員ノ退社	十一	丁
○商法	十一	丁

丙一



第六款	會社ノ解散	二	六	丁
第二節	合資會社	二	十	丁
第二節	株式會社	三	十	丁
第一款	總則	三	十	丁
第二款	會社ノ發起及ト設立	三	十	丁
第三款	會社ノ商號及ト株主名簿	三	十	丁
第四款	株式	三	十	丁
第五款	取締役及ト監査役	三	十	丁
第六款	株主總會	三	十	丁
第七款	定款ノ變更	三	十	丁
第八款	株金ノ拂込	三	十	丁
第九款	會社ノ義務	三	十	丁
第十款	會社ノ檢査	三	十	丁
第十一款	取締役及ト監査役ニ對スル訴訟	三	十	丁
第十二款	會社ノ解散	三	十	丁
第十三款	會社ノ清算	三	十	丁
第四節	罰則	四	十	丁
第五節	共済商組合	四	十	丁
第七章	商事契約	四	十	丁
第一節	契約ノ種類	四	十	丁

第二節	契約ノ取結	五	十	丁
第三節	契約ノ履行	五	十	丁
第四節	價格賠償損害賠償及ト割引	五	十	丁
第五節	還約金	五	十	丁
第六節	代理	五	十	丁
第七節	時効	五	十	丁
第八節	交互計算	五	十	丁
第九節	質權	五	十	丁
第十節	留置權	五	十	丁
第十一節	指圖證券及ト無記名證券	五	十	丁
第八章	代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ト運送人	六	十	丁
第一節	總則	六	十	丁
第二節	代辦人	六	十	丁
第三節	仲立人	六	十	丁
第四節	取引所仲買人	六	十	丁
第五節	仲立人	六	十	丁
第六節	運送取扱人	六	十	丁
第七節	運送人	六	十	丁
第八節	旅客運送	六	十	丁
第九章	賣買	七	十	丁
第一節	賣買契約	七	十	丁
第二節	供給契約	七	十	丁
◎商法		八	十	丁



第三節	請覓	八十七
第四節	取戻權	八十八
第十章	信用	九十八
第一節	消費貸借	九十九
第二節	信用約束	九十九
第三節	寄託	九十九
第十一章	保險	九十九
第一節	總則	一百
第二節	火災及七露災ノ保險	一百
第三節	土地ノ產物ノ保險	一百
第四節	運送保險	一百
第五節	生命保險、病傷保險及七年金保險	一百
第六節	保險營業ノ公行	一百
第十二章	手形及七小切手	一百
總則		一百
第一節	爲替手形	一百
第一款	振出	一百
第二款	裏書	一百
第三款	引受	一百
第四款	榮譽引受	一百
第五款	保證	一百
第六款	支拂	一百

丙四

第七款	榮譽仕拂	百十八
第八款	償還請求	百十九
第九款	拒證書作成	百二十
第十款	戻爲替手形	百二十一
第十一款	資金	百二十二
第十二款	約束手形	百二十三
第十三款	小切手	百二十四
第二編	海商	百二十五
第一章	船舶	百二十六
第二章	船舶所有者	百二十七
第一節	船舶所有權ノ取得及七移轉	百二十八
第二節	船舶所有者ノ權利及七義務	百二十九
第三章	船舶債權者	百三十
第四章	船長及七海員	百三十一
第一節	船長	百三十二
第二節	海員	百三十三
第五章	運送契約	百三十四
第一節	船舶貸借契約	百三十五
第二節	船舶證書	百三十六
第三節	運送貨	百三十七
第四節	旅客運送	百三十八
第六章	海損	百三十九
○商法		百四十

丙五



第七章	冒險貸借	百四十九丁
第八章	保險	百五十一丁
第一節	保險契約ノ取結	全
第二節	保險者及ヒ被保險者ノ權利義務	百五十二丁
第三節	委棄	百五十三丁
第九章	時効	百五十五丁
第三編	破産	全
第一章	破産宣告	全
第二章	破産ノ効力	百五十七丁
第三章	別除權	百五十九丁
第四章	保全處分	百六十丁
第五章	財團ノ管理及ヒ換價	百六十一丁
第六章	債權者	百六十四丁
第一節	債權ノ届出及ヒ確定	全
第二節	特種ノ債權者	百六十六丁
第三節	債權者集會	百六十七丁
第七章	協諾契約	百六十八丁
第八章	配當	百六十九丁
第九章	有罪破産	百七十丁
第十章	破産ヨリ生スル身上ノ結果	百七十一丁
第十一章	支拂猶豫	百七十三丁

### 商法

#### 總則

第一條	商事ニ於テ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習及ヒ民法ノ成規ヲ適用ス	百六十六丁
第二條	特種ノ商事又ハ商人ノ爲メニ發布シタル法律、命令及ヒ規則ノ効力ハ本法ニ因リ妨ケララルコト無シ	百六十七丁
第一編	商ノ通則	全
第一章	商事及ヒ商人	全
第三條	商事トハ商人又ハ其他ノ人ノ爲シタルニ拘ハラズ總テノ商取引及ヒ其他本法ニ規定シタル事項ヲ謂フ	百六十八丁
第四條	商取引トハ買買、貸貸又ハ其他ノ取捌ノ方法ニ因リ產物、商品又ハ有價証券ノ轉換ヲ以テ利益ヲ得又ハ生計ノ爲メニスル旨趣ニテ直接又ハ間接ニ行フ所ノ總テノ權利行爲ヲ謂フ殊ニ左ニ掲クルモノハ商取引ニ屬ス	百六十九丁
第一	產物ノ交換、販賣ヲ目的トスル取引	百七十丁
第二	製造、工業及ヒ手職業ニ係ル作業及ヒ取引	百七十一丁
第三	人及ヒ物ノ運送ニ係ル作業及ヒ取引	百七十二丁
第四	航運ニ係ル作業及ヒ取引	百七十三丁
第五	建築ニ係ル作業及ヒ取引	百七十四丁
第六	銀行營業ニ係ル作業及ヒ取引	百七十五丁
第七	流通シ得ヘキ信用証券ノ發行及ヒ流通ニ係ル作業及ヒ取引	百七十六丁
○商法		百七十七丁



第八 商ノ爲メニ爲シ又ハ受クル倉庫寄託及ヒ其他ノ寄託ニ係ル作業及ヒ取引

第九 船舶ノ賣買、質入、抵當、構造、修繕、修裝及ヒ乗組ニ係ル作業及ヒ取引

第十 取引所ノ取引

第十一 保險ニ係ル作業及ヒ取引

第五條 其他左ニ掲クルモノハ之ヲ商取引ト看做ス

第一 公ニ開キタル店舗、帳場若クハ其他ノ營業所ニ於テ又ハ公告ヲ爲シテ營業ム商若及ヒ利息若クハ其他ノ報酬ヲ受クル金錢貸付

第二 新聞紙及ヒ其他ノ定期印刷物ノ發行

第三 商事ニ於ケル各般ノ代理及ヒ委任

第四 公ナル周旋所及ヒ代辦ノ營業

第五 公ナル共飲場及ヒ遊樂場ノ營業

第六 受負作業ノ引受

第六條 商人其營業上ニ於テ取結ヒ又ハ他ノ商人若クハ作業人ト取結ヒタル取引ハ反對ノ証ナキトキハ之ヲ商取引ト看做ス

第七條 左ニ掲ルモノハ之ヲ商取引ト看做サス

第一 所有地又ハ借地ヨリ收穫シタル產物ヲ賣ルコト但營業ノ目的ヲ以セサルモノニ限ル

第二 戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ賣リ又ハ勞役ヲ供スルコト但常設ノ營業所ヨリ出ツルモノハ此限ニ在ラス

第三 専ラ勞力ノ賃ノミヲ得ル目的ニテ物品ヲ製作シ又ハ勞役ヲ爲スコト

第四 他人ノ爲メニ働作又ハ勞役ヲ賃約スルコト但本法中此等ノ契約ニ關スル規定ヲ掲ケサルトキニ限ル

第八條 不動産ニ關スル權利ヲ目的トスル契約ハ商取引トセス但射利ヲ旨趣トスル買得及ヒ轉賣ハ此限ニ在ラス

第九條 商人トハ總テ商業ヲ營ム者ヲ謂ヒ商業ヲ營ムトハ常業トシテ商取引ヲ爲スコトヲ謂フ

農作 收畜 養蠶、狩獵、捕漁及ヒ採掘ノ業ヲ營ムト商業ヲ營ムト看做サス

第十條 契約ニ因リ獨立シテ義務ヲ負フコトヲ得ル各人ハ一時ノ商取引ナルト常時ノ商業ナルト之間ハス總テ商ヲ爲スコトヲ得

獨立シテ義務ヲ負フコトヲ得サル者ト雖モ其後見人ニ因リ亦商ヲ爲スコトヲ得但後見人ハ商業登記簿ニ其登記ヲ受ケ可シ

第十一條 男女之間ハス未成年者ニシテ年齢十八歳ニ滿チ且父、母又ハ後見人ノ承諾ヲ得テ獨立ノ生計ヲ立ツル者ハ商ヲ爲スコトヲ得

右ノ未成年者自己ノ爲メ商ヲ爲サント欲スルトキハ前項ノ要件ヲ明記シ且自己及ヒ父、母又ハ後見人ノ署名捺印シタル陳述書ヲ管轄裁判所ニ差出シ登記ヲ受ケ可シ然ルトキハ其登記ノ日ヨリ商事ニ於テ總テ、權利及ヒ義務ニ關シ成年者ト全ク同一ナルモノトス

第十二條 婦ハ其夫ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲スコトヲ得此承諾ハ其婦カ夫ニ遺棄セラレ又ハ夫ヨリ必要 給養ヲ受ケサルトキハ之ヲ得ルコトヲ要セス  
婦カ其夫ノ商業ヲ助クルノミニテハ之ヲ商人ト看做サス

第十三條 商ヲ爲スコトヲ得ル婦ハ商事ニ於テハ獨立人ノ總テノ權利ヲ得義務ヲ負フ

○商法



婦ハ商ノ債務ニ付テハ婦ノ財産ニ對シテ夫ニ屬スル管理權又ハ其他ノ權利ノルニ拘ハラズ自己ノ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ但夫ノ承諾ヲ得テ商ヲ爲ス場合ニ於テ夫婦間ニ財產共通ノ存スルトキハ共通財産モ亦其責任ヲ負フ

第十四條 夫婦ノ一方カ商ヲ爲シ夫婦間ニ財產共通ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ解キタルトキハ商業登記簿ニ登記ヲ受クル爲メ其事實ヲ管轄裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス

第十五條 法律上禁セラレタル總テノ商取引又ハ法律上特ニ規定セラレタル別段ノ資格ヲ有セサル者ノ爲シタル總テノ商取引ハ無効ナリ

公務ヲ帶フル者商業ヲ営ムコトヲ禁セシメラル場合ト雖モ其者ノ爲シタル取引ハ此理由ノ爲メ無効トナルコトナシ

第十六條 一方ノ者ノミニ對シテ商取引タル取引ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス但本法中商人ノ身分ニ關スル規定及ヒ反對ノ意ヲ表シタル規定ハ此限ニ在ラス

第十七條 會社及ヒ其他ノ法人カ商業ヲ営ムトキハ亦商業ニ付キ設ケタル規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第二章 商業登記簿

第十八條 商號、後見人、未成年者、婚姻契約、代務及ヒ會社ニ關スル商業登記簿ハ當事者ノ營業所又ハ住所ノ裁判所ニ之ヲ備ヘ登記及ヒ之ニ關スル事務ハ其裁判所之ヲ行フ

前項ノ營業所又ハ住所ヲ他ノ地ニ移シタルトキハ既ニ登記シタル事項カ尙ホ存スル場合ニ限り移轉地ニ於テモ亦更ニ其登記ヲ受ク可シ

第十九條 登記ハ其度毎ニ裁判所ヨリ其地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ速ニ之ヲ公告ニ可シ其新聞紙

ハ豫メ一曆年ノ間之ヲ定メ置クコトヲ要ス若シ其他ニ發行ノ新聞紙ナキトキハ其公告ノ方法ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依ル又各人ニ商業登記簿ノ綴覽ヲ許シ且手数料ヲ納ムル者ニハ認證シタル原本ヲ請フコトヲ許ス

登記及ヒ公告ヲ受クル毎ニ手数料ヲ納メシム其額ハ勅令ヲ以テ一定平等ニ之ヲ定ム

第二十條 登記ヲ受ケントスルトキハ當事者ノ署名捺印シタル陳述書ヲ以テ自己又ハ委任狀ヲ受ケタル代理人ヨリ届出ツルコトヲ要ス其登記ハ即日又ハ翌日中ニ之ヲ爲ス

第二十一條 若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタルトキハ當事者ヨリ其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

登記ノ變更又ハ取消ニ付テモ亦前項ニ同シ

第二十二條 登記シタル事項ハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトス何人ト雖モ毫モ已レノ過失ニ非サルコトヲ証シ得ルニ非サレハ之ヲ知ラサルヲ以テ已レノ保護スルコトヲ得ス然レトモ其事項ハ他ノ方法ニ因リ之ヲ知得タル者ニ對シテハ登記ノ前後ヲ問ハス其効用ヲ致サシム但權利關係カ登記ニ因リ始メテ生ス可キ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ム

第三章 商號

第二十三條 各商人ハ商號ヲ有シ總テ商業上ニ於テ自己ヲ表示スル爲メ之ヲ用ユ若シ一人ニシテ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲ爲ストキハ其各營業ニ付キ各別ノ商號ヲ有スルコトヲ要ス

第二十四條 商號ハ從來屋號ト稱スルモノヲ以テスルヲ通例トスト雖モ營業者ノ氏又ハ氏名ヲ以テスルモ妨ケナシ

第二十五條 商號ノ登記ヲ請ハントスル者ハ商業登記簿ニ登記ヲ受クルコトヲ得支店アルトキハ其支

○商法



店ニ付テモ亦同

丙十二

登記ヲ受タル商號ノ變更又ハ廢止ハ速ニ其登記ヲ受ク可シ

第二十六條 商號ハ登記ニ因リ同一營業ニ付キ一地域内ニ於テ其專有ノ權利ヲ取得シ他人之ヲ用ユルコトヲ得ス但本法施行以前ヨリ有スル商號ハ從前ノ營業ヲ變セサルモノニ限リ一地域内ニ於テ同一ナルモ妨ケナシ

第二十七條 相續ニ因リテ商業ヲ引受クル者又ハ契約ニ因リテ商業ト共ニ商號ヲ引受クル者ハ第七十五條ニ規定シタル場合ヲ除ク外從前ノ商號ヲ續用スルコトヲ得

第二十八條 商號ハ其營業ト共ニスルニ非サレハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

營業ト商號トナ併セテ讓渡ストキハ其商號ヲ續用スルト之ヲ變更スルトト問ハス取引ノ仕殘、債務得意先及ヒ商業帳簿モ共ニ讓渡スモノト看做ス但特約アルトキハ此限ニ在ラス

商號引受ノ通知又ハ公告ノ中ニ特約ヲ明揭セルトキハ其特約ハ第三者ニ對シテ無効ナリ

第二十九條 營業ト商號トナ併セテ讓渡ス者更ニ其營業ヲ爲ササル義務ヲ負擔シタルトキハ其義務ノ履行ハ爾後十ヶ年間其一地域内ニ限ル

第三十條 既ニ登記シタル他人ノ商號ヲ濫用シタル者又ハ第二十八條第二項及ヒ第二十九條ニ記載シタル義務ニ背ク者アルトキハ被害者ハ其加害所爲ノ停止及ヒ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得

#### 第四章 商業帳簿

第三十一條 各商人ハ其營業部類ノ慣例ニ從ヒ完全ナル商業帳簿ヲ備フル責アリ殊ニ帳簿ニ日其取扱ヒタル取引、他人トノ間ニ成立シタル自己ノ權利義務、受取り又ハ引渡シタル商品、支拂ヒ又ハ受取りタル金額ヲ整齊且明瞭ニ記入シ又月其家事費用及ヒ商業費用ノ總額ヲ記入ス

小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トト問ハス逐一之ヲ記入スルコトヲ要セス日ノ賣上總額ノミヲ記入ス

第三十二條 各商人ハ開業ノ時及ヒ爾後毎年初ノ三ヶ月内ニ又合資會社及ヒ株式會社ハ開業ノ時及ヒ毎年事業年度ノ終ニ於テ動産、不動産ノ總目錄及ヒ貸借方ノ對照表ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ記入シテ署名スル責アリ

財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルニハ總テノ商品、債權及ヒ其他總テノ財産ニ當時ノ相場又ハ市場價直ヲ附ス辨償ヲ得ルコトノ確ナラサル債權ニ付テハ其推知シ得ヘキ損失額ヲ扣除シテ之ヲ記載シ又到底損失ニ歸ス可キ債權ハ全ク之ヲ記載セス

第三十三條 毎半年又ハ毎半年内ニ利息又ハ配當金ヲ社員ニ分配スル會社ハ毎半年ニ前條記載ノ責ヲ盡ス可シ

第三十四條 各商人ハ十ヶ年間商業帳簿ヲ貯藏シ火災又ハ其他ノ意外ノ事變ニ因リテ喪失又ハ毀損セサルコトニ注意スル責アリ

第三十五條 商人ノ商業帳簿ハ其一身ノ所有物ニシテ破産又ハ會社清算ノ場合ヲ除ク外官權ヲ以テ之ヲ交付セシムルコトヲ得

第三十六條 然レドモ相續ニ關スル事件、共通ニ關スル事件、分割ニ關スル事件及ヒ業務取扱ニ關スル争訟ニ付キ當事者ノ申立ニ因リ裁判所ノ命令アルトキハ總テノ商業帳簿ヲ差出ササルコトヲ得ス

第三十七條 争訟中原告又ハ被告ノ申立アルトキハ受取裁判所ハ相手方ノ商業帳簿ノ開示ヲ命シ其所  
有者ノ面前ニ於テ右争訟事件ニ關スル記入ノ檢閲又ハ時宜ニ因リテ其原寫ヲ爲サシム若シ其帳簿カ  
他ノ地ニ在ルトキハ右裁判所ハ其地ニ就キ又ハ其地ノ裁判所ニ囑託シテ檢閲又ハ原寫ヲ爲サシム

第三十八條 何人ニテモ商業帳簿又ハ其中ノ一ヲ開示ス可キ裁判所ノ命令ニ從ハサル者ハ之ヲ以テ證

○商法

丙十三



ス可キ争訟事件ニ付キ自己ノ不利ト爲ル推定ヲ受ク但其開示セザリシハ自己ノ過失ニ非サルコトヲ証シ又ハ疏明シ得ルトキハ此限ニ在ラス

第三十九條 商業帳簿ノ記入ノ證據力ハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ判決ス然レトモ其記入ノミヲ以テ記入者ノ利益ト爲ル可キ十分ノ証ト爲スコトヲ得ス但相手方ニ於テモ亦其記入ヲ採用シタルトキ又ハ相手方カ商人ニシテ自己ノ帳簿ニ於ケル反對ノ記入ヲ以テ之ニ對抗シ能ハサルトキ又ハ相手方ニ於テ其不正ナルコトヲ少シニテモ信認セシメ得サルトキハ此限ニ在ラス

相手方其記入ヲ採用シタル場合ニ於テ之ト連絡セル記入アルトキモ亦同シ

第四十條 原告被告雙方ノ商業帳簿ノ記入相帳屬シテ解明シ能ハサルトキニ於テモ亦裁判所ハ事情ヲ斟酌シテ其證據物ヲ全ク採棄スルト否ト又ハ一方ノ帳簿ニ一層ノ信用ヲ置クト否トヲ判決ス

第四十一條 商業帳簿カ十分ノ証ト爲ラサル總テノ場合ニ於テハ裁判所カ事情ヲ斟酌シテ定ム可キ他ノ證據ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第五章 代務人及ヒ商業使用人

第四十二條 何人ニテモ商業ヲ營ム者ハ本店又ハ支店ニ明示ノ委任ヲ以テ一人又ハ數人ノ代務人ヲ置クコトヲ得但其委任ハ別ニ定式ヲ要セス

代務ノ委任及ヒ其解任ハ商業登記簿ニ其登記ヲ受ク可シ

第四十三條 代務ハ何時ニテモ之ヲ解任シ又ハ代務人ヨリ之ヲ辭スルコトヲ得又其委任時期ノ満了ニ因リ又ハ代務人ト取結ヒタル雇傭契約ノ絶止ニ因リ又ハ其委任ヲ爲シタル營業ノ廢止若クハ廢止ニ因リテ自ラ消滅ス然レトモ商業主人ノ死亡ニ因リテハ消滅セス

代務人其委任ノ終リタル後ニ爲シタル取引ハ代務人其終リタルコトヲ知ラサルトキニ限り有効ナリ

第四十四條 數人共同ニ委任ヲ受ケタル代務ハ總員共同ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス此代務ハ其一人ニ付テ消滅シタルトキハ他ノ各人ニ付テモ亦消滅ス

第四十五條 代務ノ委任ニハ業ヲ主人ノ商號ヲ用非且之ニ代リ裁判上ト裁判外トヲ問ハス其商業ニ關スル總テノ取引及ヒ權利行爲ヲ爲シ得ル權力ノ授與ヲ包含ス

代務權ニ制限ヲ立ツルモ其制限ハ第三者ニ對シテ無効ナリ但第三者其制限アルコトヲ知りタルトキハ此限ニ在ラス

第四十六條 代務ハ無期ニテモ又或ル時期ニ達シ若クハ或ル事件ノ生スルヲ限トシテモ又或期ニテモ之ヲ委任スルコトヲ得但解任及ヒ辭任ノ權利ハ此カ爲メニ妨ケララルコト無シ

第四十七條 代務人ハ代務權ノ全部若クハ一分ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得ス但商業使用人ヲ置ク權アリ

第四十八條 商業主人ハ代務人カ其主人ノ營業上ニ於テ爲シタル取引及ヒ行爲ニ因リテ特リ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ但主人ノ之ヲ承諾シタルト否ト又ハ主人ノ名ヲ以テ爲シタルト否トヲ問フコト無シ又代務人カ其主人ノ營業上ニ於テ爲シタル不法ノ行爲又ハ代務人カ自己ノ名ヲ以テ取結ヒタル取引ト雖モ其時ノ情況及ヒ相手方ノ意思ニ因リ主人ノ計算ヲ以テ爲シタルトス可キモノニ付テハ亦同シ

第四十九條 何人ニテモ代務委任ヲ僞稱シ又ハ代務委任ヲ超越シテ取引ヲ取結ヒタル者ハ相手方ニ對シテ其擇ニ從ヒ取引履行又ハ損害ノ賠償ノ責任ヲ自己ニ負フ其代務委任超越ノ場合ニ於テ第四十五條第二項ニ從ヒテ商業主人其義務ヲ負フ可キトキハ主人モ亦之カ責ニ任セサルコトヲ得然レトモ此場合ニ於テハ主人又ハ代務人ノ中一方ノミニ對シテ其取引ノ効用ヲ致サシムルコトヲ得

〇商法



相手方ニ於テ代務委任ノ欠缺ヲ知テ爲シタル取引ハ雙方ニ在テ無効ナリ

第五十條 代務人ハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ商ヲ爲スコトヲ得ス若シ此成規ニ背キタルトキハ第六十三條ニ定メタル結果ノ外商業主人ノ求ニ從ヒ其商取引ヲ主人ノ計算ニ移シ且損害アラハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第五十一條 何人ニテモ商業上商業主人ノ業務ヲ辦センカ爲メニ商業使用人トシテ置カレタル者ハ特別ノ委任ヲ受ケスト雖モ通常其擔當職分ノ範圍内ニ属ス可キ總テノ取引及ヒ行爲ヲ主人ノ爲メニ十分ノ効力ヲ以テ爲スコトヲ得使用人カ營業ノ全部若クハ一分ノ爲メニ置カレタルト否ト又ハ或種ノ取引若クハ一箇ノ取引ノ爲メニ置カレタルト否トヲ問ハス其取引及ヒ行爲ニ因リテ主人獨リ權利ヲ得義務ヲ負フ

使用人カ主人ノ爲メニ訴訟ヲ爲シ又ハ裁判所ニ出テ或ル行爲ヲ爲スハ特別ノ委任ヲ受ケタルトキニ限ル

使用人署名スルトキハ主人ノ代理タル旨ヲ書添フルコトヲ要ス

第五十二條 商業使用人カ商業主人ノ爲メニ店舗、倉庫及ヒ其他ノ營業場ニ於テ爲ル業務ヲ辦スルトキ又ハ他所ニ送達セラルルトキ又ハ帳場ニ於テ第三者ト取引ヲ爲スニ際シ主人ヨリ制止セラレヌ若クハ第三者ノ問ヲ受ケテ已レ之ヲ爲ス權アリト答ヘタルトキハ殊ニ其職分ノ範圍ニ付キ置カレタルモノト看做サル

第五十三條 商業使用人ヲ商業主人ノ代人トシテ之ト取引ヲ爲シタル第三者カ善意ナルニ於テハ使用人其受ケタル委任ニ依ラサルモ又指定セラレタル方法ニ依ラサルモ其取引ハ第三者ニ對シテ有効ナリ

第五十四條 商業主人カ商業使用人ヲシテ商慣習ニ定マレル職分ノ範圍ヲ擴メテ其代理ヲ爲サシメントスルトキハ此カ爲メ特別ノ委任ヲ爲シ且相當ノ方法ヲ以テ之ヲ第三者ニ告知スルコトヲ要ス殊ニ商業通信書又ハ手形及ヒ其他ノ債務證書ニ於ケル使用人ノ署名カ主人ヲ約束ス可キトキハ右ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五十五條 營業場ニ於テ第三者カ善意ヲ以テ商業使用人ニ對シテ金錢ノ受渡ヲ爲シタルトキハ何レノ場合ヲ問ハス商業主人之ヲ承認スル義務アリ商品、證券及ヒ其他ノ有價物ニ付テモ亦同シ  
受取ノ證アル勘定書及ヒ其他ノ受取證書ヲ持參スル者ハ拂金及ヒ其他書中記載ノ物ヲ受取ル權アルモノト看做サル但情況ニ因リテ右ニ異ナレル推定ヲ爲ス可キトキハ此限ニ在ラス

第五十六條 商業使用人ハ其職分上ノ權ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得又商業主人ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ他人ヲ代理トシテ其權ノ全部若クハ一分ヲ行ハシムルコトヲ得ス但商慣習ニ於テ代理ヲ許スモノハ此限ニ在ラス

第五十七條 第四十五條第二項、第四十八條、第四十九條及ヒ第五十條ノ規定ハ商業使用人ニモ亦之ヲ適用ス

第五十八條 商業主人ト商業使用人トノ間ノ權利關係ニシテ其雇傭ニ關スルモノハ本法ニ規定シタルモノヲ除ク外雇傭契約ノ原則ニ從ヒ之ヲ定ム

第五十九條 期限ヲ定メスシテ取結ヒタル雇傭契約ハ雙方何時ニテモ之ヲ解ク預告ヲ爲スコトヲ得但其預告ハ一个月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

商業主人若クハ商業使用人ノ終身ヲ期シ又ハ之ト同視ス可キ長キ期限ヲ定メテ取結ヒタル雇傭契約ハ期限ヲ定メサルモノト看做ス

○商法



第六十條

期限ヲ定メテ取結ヒタル雇傭契約ハ雙方ノ承諾アルニ非サレハ其期間満了ノ前ニ之ヲ解クコトヲ得ス但法律ニ依リ其期間前ニ辭任又ハ解任ヲ爲シ得ヘキ場合ハ此限ニ在ラス  
雇傭期限中ハ商業主人ニ於テ商業使用人ヲ全ク使役セス又ハ僅カニ使役スト雖モ使用人ハ契約上ノ給料又ハ各地慣習ノ給料ヲ受クル權利アリ

丙十八

第六十一條 商業使用人カ雇傭期限中疾病ニ罹リ又ハ其他ノ事故ニ因リテ二个月以上業務ニ就クニ耐ヘサルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第六十二條 商業使用人カ就業中疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ被フルモ商業主人ノ過失ニ因ラサルトキハ主人ヨリ治療費ヲ給シ又ハ償金ヲ與フル義務ナン

第六十三條 商業使用人ヲ何時ニテモ解任シ得ヘキ場合左ノ如シ

第一 不實ノ行爲ヲ爲シ又ハ已レニ受ケタル信任ニ背キタルトキ

第二 自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ取引ヲ爲シタルトキ但些少ノ取引ハ此限ニ在ラス

第三 正當ノ理由ナクシテ其命セラレタル仕事ヲ爲スコト及ヒ總テ已レノ負擔シタル義務ヲ履行スルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リタルトキ

第四 不當ノ舉動又ハ不品行ノ爲メニ指付ヲ受ケタルトキ

第六十四條 商業主人カ商業使用人ニ相當ノ給料ヲ與ヘス又ハ之ニ違法若クハ不平等ノ業務ヲ命シ又ハ其身體ノ安全、健康若クハ名譽ヲ害シ若クハ害セントスル取扱ヲ爲ストキハ使用人ハ何時ニテモ辭任スルコトヲ得

若シ使用人獨立シテ營業ヲ始メントスルトキハ期限前ト雖モ第五十九條ニ掲ケタル豫告期間ニ從フニ於テハ亦辭任スルコトヲ得

第六十五條

雇傭契約商ハ業主人ノ死亡ニ因リテ終ラズ然レトモ商業使用人ノ雇入レラレタル其營業ノ廢止ニ因リテ終ル但其實業ヲ他人ニ移サントスルトキハ第五十九條ニ從ヒ雙方豫告ノ權利ヲ有ス

第六章

商會社及ヒ共算商業組合

商會社總則

第六十六條 商會社ハ共同シテ商業ヲ營ム爲メニ之ヲ設立スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ背キ又ハ禁止セラレタル事業ヲ目的トスル會社ハ初ヨリ無効ナリ

若シ會社ノ營業カ公安又ハ風俗ヲ害ス可キトキハ裁判所ハ檢察官ノ申立ニ因リ又ハ警察官ニ依リ其命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 法律、命令ニ依リ官廳ノ許可ヲ受ク可キ營業ヲ爲サントスル會社ハ其許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

株式會社ニ關シテハ第三節ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第六十九條 會社ノ設立ハ適當ナル登記及ヒ公告ヲ受クルニ非サレハ第三者ニ對シテ會社タル効ナシ

第七十條 會社ハ商號ヲ設ケ社印ヲ製シ定マリタル營業所ヲ設ケルコトヲ要ス

第七十一條 社印ニハ商號ヲ刻シ其印鑑ヲ商業登記簿ニ添ヘテ保存スル爲メ之ヲ第十八條ニ掲ケタル

裁判所ニ差出スコトヲ要ス社印ヲ變更シ又ハ改刻スルトキモ亦此手續ヲ爲ス

第七十二條 商號及ヒ社印ハ官廳ニ宛テタル文書又ハ報告書、株券、手形及ヒ會社ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負フ可キ一切ノ書類ニ之ヲ用ユ

第七十三條 會社ハ特立ノ財産ヲ所有シ又獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負フ殊ニ其名ヲ以テ債權ヲ得債務ヲ負ヒ動産、不動産ヲ取得シ又訴訟ニ付キ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

○商法



第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第七十四條 二人以上七人以下共通ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム爲メ金錢又ハ有價物又ハ勞力ヲ出資ト爲シテ共有資本ヲ組成シ責任其出資ニ止マラサルモノヲ合名會社ト爲ス

第七十五條 商號ニハ總社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用非之ニ會社ナル文字ヲ附ス可シ  
會社若シ現存セル他人ノ營業ヲ引受クルトキハ其舊商號ヲ續用スルコトヲ得ス

第七十六條 社員ノ退社シタル後ト雖モ從前ノ商號ヲ續用スルコトヲ得但退社員ノ氏ヲ商號中ニ續用セントスルトキハ本人ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第七十七條 會社ハ書面契約ニ因リテノミ之ヲ設立スルコトヲ得其契約書ハ總社員之ニ連署シ各自一通ヲ所持ス  
右ノ規定ハ會社契約ノ變更ニ於テモ亦之ヲ遵守ス

第七十八條 會社ハ設立後十四日內ニ本店及ヒ支店ノ地ニ於テ其登記ヲ受ク可シ

第七十九條 登記及ヒ公告ス可キ事項左ノ如シ

- 第一 合名會社ナルコト
- 第二 會社ノ目的
- 第三 會社ノ商號及ヒ營業所
- 第四 各社員ノ氏名、住所
- 第五 設立ノ年月日
- 第六 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第七 業務擔當社員ヲ特ニ定メタルトキハ其氏名

第八十條 前條ニ掲ケタル一箇又ハ數箇ノ事項ニ變更ヲ生シ又ハ合意ヲ以テ變更ヲ爲シタルトキハ七日內ニ其登記ヲ受ク可シ

第八十一條 會社ハ登記前ニ開業スルコトヲ得ス之ニ違フトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ其營業ヲ禁止ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 會社其登記ノ日ヨリ六個月內ニ開業セサルトキハ其登記及ヒ公告ハ無効ナリ

第二款 會社契約ノ變更

第八十三條 會社契約ハ總社員ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス其承諾ナキトキハ契約ノ從前ノ規定ニ從フ

第八十四條 會社契約ノ規定ニシテ會社ノ施行セザルモノハ社員又ハ第三者ニ對シテ其効用ヲ致サシムルコトヲ得ス

第三款 社員間ノ權利義務

第八十五條 社員間ノ權利義務ハ本法及ヒ會社契約ニ因リテ定マルモノトス

第八十六條 會社ノ目的ニ反セサルモ之ニ異ナル業務及ヒ事項ニ付テハ業務擔當ノ任アル總社員ノ承諾ヲ要ス

第八十七條 會社契約ノ規定ノ施行ニ關スル事項ハ業務擔當ノ任アル社員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 會社ノ業務ヲ行ヒ及ヒ其利益ヲ保護スルニ付テハ各社員同等ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ但會社契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第八十九條 社員ノ議決權ハ其出資ノ額ニ應シテ等差ヲ立ツルコトヲ得ス

○商法



第九十條 業務擔當ノ任ナモ社員ハ何時ニテモ業務ノ實況ヲ監視シ會社ノ帳簿及ヒ書類ヲ検査シ且此  
事ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ得

第九十一條 業務擔當ノ任アル各社員ハ代務ノ委任又ハ解任ヲ爲ス權利アリ

第九十二條 各社員ハ會社ニ對シ整正ナル商人ノ自己ノ事務ニ於テ爲スト同シキ勤勉注意ヲ爲ス義務  
アリ其責務ニ背キ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第九十三條 社員ノ差入レタル金錢又ハ有價物ノ出資ハ契約ニ定メタル評價額ヲ附シテ會社ノ財産目  
録ニ記入シ會社ノ所有ニ歸ス

第九十四條 社員其負擔シタル出資ヲ差入ルルコト能ハサルトキハ除名セラレタルモノト看做ス但總  
社員ノ承諾ヲ得テ他ノ出資ヲ差入ルルトキハ此限ニ在ラス

第九十五條 社員其負擔シタル出資ヲ差入レサルトキハ會社ハ之ヲ除名スルト年百分ノ七ノ利息ヲ拂  
ハシムルトキハ其數額ノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第九十六條 社員ハ契約上ノ額外ニ出資ヲ増シ又ハ損失ニ因リテ減シタル出資ヲ補充スル義務ナシ

第九十七條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其出資又ハ會社財産中ノ持分ヲ減スルコトヲ得ス

第九十八條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ第三者ヲ入社セシメ又ハ第三者ヲシテ已レノ地位  
ニ代ハラシムルコトヲ得ス

社員ノ相續人又ハ承繼人ハ契約ニ於テ反對ヲ明示セサルトキハ其社員ノ地位ニ代ハルコトヲ得但總  
社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ業務ヲ擔當スル權利ナシ

第九十九條 社員ヨリ他人ニ爲シタル持分ノ讓渡ハ會社及ヒ第三者ニ對シテ其效ナシ

第一百條 社員其持分ニ他人ヲ加入セシムルトキハ其關係ハ共算商業組合ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第一百一條 社員カ會社ニ消費貸ヲ爲シ又ハ會社ノ爲ニ立替金ヲ爲シタルトキハ年百分ノ七ノ利息ヲ  
求ムルコトヲ得又社員カ業務施行ノ爲メ直接ニ受ケタル損失ニ付テハ其補償ヲ求ムルコトヲ得

第一百二條 會社契約ニ於テ明示ノ合意ナキトキハ社員ハ業務施行ノ勸勞ニ付キ其報酬ヲ求ムルコトヲ  
得ス然レトモ勞力ヲ出資ト爲シタル社員其負擔シタル出資外ニ爲シタル勞力ニ付テハ相當ノ報酬ヲ  
求ムルコトヲ得

第一百三條 社員カ會社ノ爲メニ受取リタル金錢ヲ相當ノ時日內ニ會社ニ引渡サス又ハ會社ノ金錢ヲ自  
己ノ用ニ供シタルトキハ會社ニ對シテ年百分ノ七ノ利息ヲ拂ヒ且如何ナル損害ヲモ賠償スル義務アリ

第一百四條 社員ハ總社員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ自己ノ計算ニテモ又第三者ノ計算ニテモ會社ノ商部  
類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得ス之ニ背キタルトキハ會社ハ其澤ニ從ヒ其社員ノ除  
名シ又ハ其取引ヲ會社ニ引受ケ尙ホ其數額ノ場合ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第一百五條 各社員ノ會社ノ損益ヲ共分スル割合ハ契約ニ於テ他ノ標準ヲ定メタルトキハ其出資ノ價額  
ニ準ス

出資ト爲シタル勞力ノ價額ヲ契約ニ於テ定メサルトキハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第一百六條 社員カ業務擔當ノ任ナクシテ業務擔當ノ所爲ヲ爲シ又ハ會社ニ對シテ詐欺ヲ行ヒ又ハ其他  
會社ニ對シテ主要ノ責務ヲ甚シク缺キタルトキハ會社ハ之ヲ除名シ且損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第一百七條 社員カ會社契約ニ依リ又ハ本法ノ規定ニ依リテ會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲及ヒ取引  
ハ各社員互ニ之ヲ承認スル義務アリ

第四款 第三者ニ對スル社員ノ權利義務

○商法

丙二十三



第百八條 會社ハ業務擔當ノ任アル社員ノ明示シテ會社ノ爲メニ爲シ又ハ事實會社ノ爲メニ爲シタル總テノ行爲ニ因リテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フ

第百九條 會社ノ權利ハ業務擔當ノ任アル社員裁判上ト裁判外トヲ問ハス之ヲ主張シ又ハ有効ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第百十條 第三者ニ對スル會社ノ義務ハ第三者ヨリ業務擔當ノ任アル各社員ニ對シテ其履行ヲ求ムルコトヲ得

第百十一條 業務擔當ノ任アル社員ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテ其効ナシ

第百十二條 會社ノ義務ニ付テハ先ツ會社財產之ヲ負擔シ次ニ各社員其全財產ヲ以テ不分ニテ之ヲ負擔ス

第百十三條 社員ニ非スシテ商號ニ其氏ヲ表スルコトヲ承諾シ若クハ之ヲ表スルニ任セ又ハ會社ノ業務ノ施行ニ與カリ又ハ事實社員タルノ權利義務ヲ有スル者ハ社員ト同シク連帶無限ノ責任ヲ負フ

第百十四條 商業使用人又ハ代務人ハ其給料ノ全部又ハ一分ヲ一定又ハ不定ノ利益配當ニ因リテ受クルモノト雖モ前條ノ者ト同視セス

第百十五條 新ニ入社スル社員ハ契約上他ノ定ナキハ其入社前ニ生シタル會社ノ義務ニ付テモ責任ヲ負フ

第百十六條 會社財產ニ屬スル物ハ社員ノ債權者其債權ノ爲メ之ヲ請求スルコトヲ得ス但差入前ニ於テ其物ニ付キ第三者ノ爲メ權利ノ設定セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第百十七條 社員ノ債權者ハ社員自ラ要求シ得ヘキ利息又ハ配當金ノミナ會社ニ對シテ要求スルコトヲ得

然レトモ社員ノ持分ハ社員ノ退社又ハ會社解散ノ場合ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第百十八條 會社ニ對スル債務ト社員ニ對スル債權ト又會社ニ對スル債權ト社員ニ對スル債務トノ相殺ハ會社財產ノ分割前ニ在テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百十九條 社員ノ持分ヲ減シタル爲メ會社ノ債權者カ其會社財產ヨリ得ヘキ賠償ヲ減損セラレ又ハ支障セラレタルトキハ減少ノ時ヨリ二年内ニ在テハ其減少ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得

第五款 社員ノ退社

第百二十條 社員ハ會社契約カ有期ナルトキハ給社員ノ承諾ヲ要シ無期又ハ終身ナルトキハ其承諾ヲ要セスシテ任意ニ退社スルコトヲ得

其退社ハ六个月前ニ豫告ヲ爲シタル上事業年度ノ末ニ限ル但急遽ニ退社ス可キ重要ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス

第百二十一條 右ノ外社員ハ左ノ諸件ニ因リテ退社ス

第一 除名

第二 死亡但亡社員ノ地位ニ代ハル可キ相續人又ハ承繼人ナキ時ニ限ル

第三 破産

第四 能力ノ喪失但特約ナキトキニ限ル

第百二十二條 社員退社スル毎ニ會社ハ七日内ニ其理由ヲ附シタル登記ヲ受ク可シ

第百二十三條 會社ハ退社員ノ爲メ特ニ作りタル貸借對照表ニ依リ退社ノ時ノ割合ヲ以テ其持分ヲ退社員又ハ其相續人若クハ承繼人ニ拂渡スコトヲ要ス

退社前ノ取引ニシテ未タ結了セサルモノハ其結了ノ後之ヲ計算スルコトヲ得

○商法



第二百二十四條 退社員ノ持分ノ價直ハ特約アルニ非サレハ其出資ノ何種類タルヲ問ハス金錢ノミニテ之ヲ拂渡ス

勞力ノ出資又ハ其他退社ト共ニ終止スル出資ニ付テハ特約アルニ非サレハ之ニ對スル報償ヲ爲ス義務ナシ

第二百五條 退社員ハ退社前ニ係ル會社ノ義務ニ付テハ退社後二個年間仍ホ全財産ヲ以テ其責任ヲ負フ

第九十八條ノ場合ニ於テ第三者ヲシテ已レノ地位ニ代ハラシメタル者ニ付テモ亦前項ヲ適用ス

第六款 會社ノ解散

第二百二十六條 會社ハ左ノ條件ニ因リテ解散ス

第一 會社存立時期ヲ滿了

第二 會社契約ニ定メタル解散事由ノ起發

第三 總社員ノ承諾

第四 會社ノ破産

第五 裁判所ノ命令

第二百二十七條 第六十七條ニ掲ケタル場合ノ外會社其目的ヲ達スルコト能ハス又ハ會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサルノ理由ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ヨリ會社ノ解散ヲ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得

會社ノ地位ヲ維持スルコト能ハサル場合ニ於テ會社ノ解散ニ換ヘテ或ル社員ヲ除名ス可キコトヲ他ノ總社員ヨリ相當ノ理由ヲ以テ申立ツルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ除名スルコトヲ得

前二項ニ掲ケタル裁判所ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十八條 第二百二十六條ノ第一號第二號ニ記載シタル場合ニ於テハ總社員又ハ社員ノ一分ニテ會社ヲ保納スルコトヲ得但社員ノ一分ニテ保納シタルトキハ其離脱シタル社員退社シタルモノト看做ス

第二百二十九條 會社解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外總社員ノ多數決ヲ以テ清算人一人又ハ數人ヲ任シ七日内ニ解散ノ理由、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ク可シ

第二百三十條 清算人ハ會社ノ現務ヲ結了シ會社ノ義務ヲ履行シ未收ノ債權ヲ行用シ現存ノ財産ヲ賣却ス又清算人ハ清算ノ目的ヲ超エテ營業ヲ保納シ又ハ新ニ取引ヲ爲スコトヲ得ス又清算人ハ裁判上會社ヲ代理シ且會社ノ爲メ和解契約及ヒ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條 清算人ノ權ハ社員之ヲ制限スルコトヲ得ス且重要ナル事由ニ基ク社員ノ申立ニ因リテ裁判所ノ命令ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ解任スルコトヲ得ス但其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百三十二條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後社員ニ計算ヲ報告シ第百五條及ヒ第百二十四條ノ規定ニ準シ會社財産ヲ社員ニ分配ス又清算中ト雖モ自由ト爲リタル財産ハ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ得

第二百三十三條 社員ニ分配ス可キ物ハ會社ノ總テノ義務ヲ了スルニ要セサル會社財産ニ限ル

第二百三十四條 解散シタル會社ノ商業帳簿及ヒ其他ノ書類ハ社員第百三十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分ス

第二百三十五條 會社ノ義務ニ對スル社員ノ無限責任ハ其義務ニ付キ五個年未滿ノ時以テ定ナキトキニ限り解散後五個年ヲ滿了ニ因リテ時效ニ罹ル但債權者カ未タ分配セラレサル會社財産ニ對シテ請求ヲ爲ストキハ此限ニ在ラス

○商法



第二節 合資會社

第三百三十六條 社員ノ一人又ハ數人ニ對シテ契約上別段ノ定ナキトキハ社員ノ責任カ金錢又ハ有價物ヲ以テスル出資ノミニ限ルモノヲ合資會社ト爲ス  
合資會社ノ社員ノ數ハ之ヲ制限セス

第三百三十七條 合資會社ハ本節ニ定メタル規定ノ外總テ合名會社ノ規定ニ從フ

第三百三十八條 合資會社ノ登記及ヒ公告ニハ第七十九條ノ第二號乃至第六號ニ列記シタルモノノ外尙ホ左ノ事項ヲ掲グルコトヲ要ス

第一 合資會社ナルコト

第二 會社資本ノ總額

第三 各社員ノ出資額

第四 無限責任社員アルトキハ其氏名

第五 業務擔當社員又ハ取締役アルトキハ其氏名及ヒ其責任ノ有限又ハ無限ナルコト

第三百三十九條 商號ニハ社員ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス但無限責任社員ノ氏ハ此限ニ在ラス又商號ニハ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ附ス可シ

若シ商號ニ社員ノ氏ヲ用井タルトキハ其社員ハ此カ爲メ當然會社ノ義務ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ  
第四百十條 無限責任ノ社員、取締役ヲ除ク外社員ハ自己ノ計算又ハ第三者ノ計算ニテ會社ノ商部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ之ニ與カルコトヲ得

第四百十一條 各社員ハ契約上他ノ定ナキトキハ同等ニ會社ヲ代理スル權利義務ヲ有ス

第四百十二條 社員七人ヲ超ユル會社ニ在テハ其契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ取締役ヲ任シ

又設立後七人ヲ超ユルトキハ會社ノ決議ヲ以テ之ヲ任ス但其決議ノ効力ハ亦總社員四分三以上ノ多數決ニ依リテ生ス

取締役ハ何時ニテモ會社ノ決議ニ依リテ解任セラルルコト有ル可シ其決議ノ効力ハ亦總社員四分三以上ノ多數決ニ依リテ生ス

第四百十三條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ裁判上ト裁判外トト間ハス總テ會社ノ事務ニ付キ會社ヲ代理スル專權ヲ有ス然レトモ會社契約又ハ會社ノ決議ニ依リテ羈束セラル

數人ノ業務擔當社員又ハ取締役アル場合ニ於テ各別ニ業務ヲ取扱フコトヲ得ルモノタリヤ又ハ其總員若クハ數人共同ニ非サレハ之ヲ取扱フコトヲ得サルモノタリヤハ會社契約又ハ會社ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第四百十四條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ意欲ヲ以テ之ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其効ナシ

第四百十五條 有限責任社員ハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ認可ヲ得テ其持分ヲ他人ニ讓渡ス  
コトヲ得此場合ニ於テハ取得者ハ讓渡人ノ權利義務ヲ繼承ス

第四百十六條 會社契約ニ於テ又ハ第四百十二條ニ定メタル會社ノ決議ニ依リテ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ總員、數人若クハ一人カ其業務施行中ニ生シタル會社ノ義務ニ付キ無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ムルコトヲ得

第四百十七條 前條ニ掲ケタル無限ノ責任ハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ退任後一ヶ年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四百十八條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ每年少ナクトモ一回通常總會ヲ招集シ其他業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ召集ヲ命ジ得ルコトヲ得

〇商法



當ノ任アル社員又ハ取締役ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ總社員四分一以上ノ申立アルトキハ臨時總會ヲ招集ス可シ

第四百四十九條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ少ナクトモ七日前ニ各社員ニ會議ノ目的ヲ通知シ及ヒ提出ス可キ書類ヲ送付スルコトヲ要ス

第五百十條 事業年度ノ終リタル後直チニ通常總會ヲ開キ其年度ノ貸借對照表及ヒ事業並ニ其成果ノ報告書ヲ總員ニ提出シテ検査及ヒ認定ヲ受ク其認定ハ出席社員ノ多數決ニ依ル

第五百一十一條 臨時總會ニ於テ議ス可キ事項ハ總社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス  
然レトモ合名會社ニ在テ總社員ノ承諾ヲ要ス可キ事項ハ總員四分三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス此場合ニ於テハ不同意ノ社員ハ直チニ退社スル權利アリ

第五百五十二條 前條ニ掲ケタル決議ニ要スル多數ノ社員出席セサルトキハ其總會ニ於テ假ニ決議ヲ為スコトヲ得此場合ニ於テハ其決議ヲ總社員ニ通知シテ再ヒ總會ヲ招集ス其通知ニハ若シ第二ノ總會ニ於テ出席總員ノ多數ヲ以テ第一ノ總會ノ決議ヲ認可シタルトキハ之ヲ有効ト為スコキ旨ヲ明告スルコトヲ要ス

第五百五十三條 利息又ハ配當金ハ會社資本額カ損失ニ因リテ減シタル間ハ之ヲ社員ニ拂渡スコトヲ得ス

第三節 株式會社

第一款 總則

第五百五十四條 會社ノ資本ヲ株式ニ分チ其義務ニ對シテ會社財產ノミ責任ヲ負フモノヲ株式會社ト為ス

第五百五十五條 株式會社ハ其目的カ商業ヲ營ムニ在ラサルモノモ亦之ヲ商業會社ト看做ス  
第五百五十六條 株式會社ハ七人以上ヲ以テシ且政府ノ免許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第二款 會社ノ發起及ヒ設立

第五百五十七條 株式會社ハ四人以上ニ非サレハ之ヲ發起スルコトヲ得ス  
發起人ハ目録見書及ヒ假定款ヲ作り各自之ニ署名捺印ス  
定款ハ本法ノ規定ニ抵觸スルコトヲ得ス

第五百五十八條 目録見書ニ記載ス可キ事項左ノ如シ

- 第一 株式會社ナルコト
- 第二 會社ノ目的
- 第三 會社ノ商號及ヒ營業所
- 第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額
- 第五 資本使用ノ概算
- 第六 發起人ノ氏名、住所及ヒ發起人各自ノ引受クル株數
- 第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第五百五十九條 發起人ハ會社ヲ設立ス可キ地ノ地方長官ヲ經由シテ目録見書及ヒ假定款ヲ主務省ニ提出シ發起ノ認可ヲ請フコトヲ要ス  
第六十條 發起人ハ前條ノ認可ヲ得タルトキハ目録見書ヲ公告シテ株主ヲ募集スルコトヲ得其公告中ニハ法律ニ規定シタル發起ノ認可ヲ得タル旨及ヒ其認可ノ年月日ト各株式申込人ニ假定款ヲ展閱セシムル旨トヲ附記ス

○商法



第六十一條 株式ノ申込ヲ爲スニハ申込人其引受クル株數ヲ株式申込簿ニ記入シテ之ニ署名捺印ス  
又其申込ハ署名捺印シタル陳述書ノ送付ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

代人ヲ以テ申込ムトキハ委任者ノ氏名ニ代人其氏名ヲ附記シテ之ニ捺印ス

第六十二條 株式ノ申込ニ因リテ申込人ハ會社設立スルニ至レハ定款ニ從ヒ各株式ニ付テノ拂込ヲ爲ス可キ義務ヲ負フ

第六十三條 總株式ノ申込アリタル後ハ發起人ハ創業總會ヲ開ク可シ其總會ニ於テハ少ナクトモ總  
申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人ノ承認ヲ經テ定款ヲ確定ス

第六十四條 創業總會ニ於テハ創業ノ爲メ發起人ノ爲シタル契約及ヒ出費ノ認否ヲ確定シ又價物  
ノ出資ヲ差入レテ株式ヲ受ク可キ者アルトキハ其價格ヲ議定ス

前項ノ議定ハ少ナクトモ總申込人ノ半數ニシテ總株金ノ半額以上ニ當ル申込人出席シ其議決權ノ過  
半數ニ依リテ之ヲ爲ス

第六十五條 其他創業總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選定ス

第六十六條 創業總會ノ終リシ後發起人ハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ會社設立ノ免許ヲ請フ其中  
請書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

第一 目論見書及ヒ定款

第二 株式申込簿

第三 發起ノ認可証

第六十七條 會社設立ノ免許ヲ得タルトキハ發起人其事務ヲ取締役ニ引渡スコシ

取締役ハ速ニ株主ヲシテ各株式ニ付キ少ナクトモ四分一ノ金額ヲ會社ニ拂込マシム

第六十八條 會社ハ前條ニ掲ケタル金額拂込ノ後十日内ニ目論見書、定款、株式申込簿及ヒ設立免  
許書ヲ添ヘテ登記ヲ受ク可シ

登記及ヒ公告ス可キ事項ハ左ノ如シ

第一 株式會社ナルコト

第二 會社ノ目的

第三 會社ノ商號及ヒ營業所

第四 資本ノ總額、株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

第五 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第六 取締役ノ氏名、住所

第七 存立時期ヲ定メタルトキハ其時期

第八 設立免許ノ年月日

第九 開業ノ年月日

裁判所ハ會社ヨリ差出シタル書類ヲ登記簿ニ添ヘテ保存ス

第六十九條 會社支店ヲ設ケタルトキハ其所在地ニ於テ亦登記ヲ受ク可シ

第七十條 設立ノ免許ヲ得タル後過クトモ一箇年内ニ登記ヲ受ケサルトキハ其免許ハ効力ヲ失フ第  
八十一條及ヒ第八十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

第七十一條 登記前ニ在テハ創業總會ノ承認ヲ經タル義務及ヒ出費ニ付キ發起人、取締役及ヒ株主  
ニ於テ連帶無限ノ責任ヲ負フ

第七十二條 創業總會ノ承認ヲ經サル義務及ヒ出費ニ付テハ發起人ニ於テ仍ホ連帶無限ノ責任ヲ負

○商法



第三款 會社ノ商號及ヒ株主名簿

第七十三條 商號ニハ株主ノ氏ヲ用ユルコトヲ得ス又商號ニハ株式會社ナル文字ヲ附ス可シ  
第七十四條 會社ハ株主名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載ス

第一 各株主ノ氏名、住所

第二 各株主所有ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號

第三 各株式ニ付キ拂込ミタル金額

第四 各株式ノ取得及ヒ讓渡ノ年月日

第四款 株式

第七十五條 各株式ノ金額ハ會社資本ヲ一定平等ニ分チタルモノニシテ二十四ヲ下ルコトヲ得ス又  
其資本十萬圓以上ナルトキハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七十六條 株式ハ一株毎ニ株券一通ヲ作り之ニ其金額、發行ノ年月日、番號、商號、社印取締役ノ  
氏名、印及ヒ株主ノ氏名ヲ載ス

第七十七條 株式ハ分割又ハ併合スルコトヲ得ス

第七十八條 株金全額拂込以前ニ於テハ會社ハ假株券ヲ發行シ全額完納ノ後ニ至リ始メテ本株券ヲ  
發行スルコトヲ得

第七十九條 假株券及ヒ本株券ハ登記前ニ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第八十條 株金額少ナクトモ四分一ノ拂込前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ無効ナリ

第八十一條 株式ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ株券及ヒ株主名簿ニ記載スルニ非サンハ會社ニ對シテ其

効ナシ

第八十二條 株金半額拂込前ノ株式ノ讓渡人ハ會社ニ對シテ其株金未納額ノ擔保義務ヲ負フ

第八十三條 會社ハ株主名簿及ヒ計算ノ閉鎖ノ爲メ公告ヲ爲シテ事業年度毎ニ一个月ヲ除メサル期  
間株券ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得

第八十四條 拂込ミタル株金額及ヒ會社財産中ノ持分ハ會社解散前ニ於テハ之ヲ取戻サント求ムル  
コトヲ得ス

第五款 取締役及ヒ監査役

第八十五條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカラサル取締役ヲ三ヶ年內ノ時期ヲ以テ選定ス但其  
時期滿了ノ後再選スルハ妨ナシ

取締役ハ同役中ヨリ主トシテ業務ヲ取扱フ可キ專務取締役ヲ選クコトヲ得然レトモ其責任ハ他ノ取  
締役ト同一ナリ

第八十六條 取締役ノ代理權及ヒ其權ノ制限ニ付テハ第四百十三條及ヒ第四百十四條ノ規定ヲ適用  
ス

第八十七條 取締役ニ選マルル爲メ株主ノ所有ス可キ株式數ハ會社定款ニ於テ之ヲ定ム取締役ハ在任  
中ハ其株式ニ融通ヲ禁スル印ヲ捺シ之ヲ會社ニ預リ置ク可シ

第八十八條 取締役ハ其職分上ノ責務ヲ盡スコト及ヒ定款並ニ會社ノ決議ヲ遵守スルコトニ付キ會  
社ニ對シテ自己ニ其責任ヲ負フ

第八十九條 取締役ハ會社ノ義務ニ付キ各株主ニ異ナラサル責任ヲ負フ然レトモ定款又ハ總會ノ決  
議ヲ以テ取締役ノ在任中ニ生シタル義務ニ付キ取締役カ連帶無限ノ責任ヲ負フ可キ旨ヲ豫メ定ムル

○商法



コトヲ得其責任ハ退任後一ノ年ノ満了ニ因リテ消滅ス

第九十條 取締役ノ更迭ハ其度毎ハ登記ヲ受ク可シ

第九十一條 總會ハ株主中ニ於テ三人ヨリ少ナカラサル監査役ヲ二年内ノ時期ヲ以テ選定ス但其時期満了ノ後再選スルハ妨ナシ

第九十二條 監査役ノ職分ハ左ノ如シ

第一 取締役ノ業務施行カ法律、命令、定款及ヒ總會ノ決議ニ適合スルヤ否ヤヲ監視シ且總テ其業務施行上ノ過愆及ヒ不整ヲ檢出スルコト

第二 計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ檢査シ此事ニ關シ株主總會ニ報告ヲ爲スコト

第三 會社ノ爲メニ必要又ハ有益ト認ムルトキハ總會ヲ招集スルコト

第九十三條 監査役ハ何時ニテモ會社ノ業務ノ實況ヲ尋問シ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ヲ展閱シ會社ノ金匯及ヒ其全財産ノ現況ヲ檢査スル權利アリ

第九十四條 監査役中ニ於テ意見ノ分レタルトキハ其意見ヲ總會ニ提出ス

第九十五條 監査役ハ第九十二條ニ掲ケタル職務ヲ缺キタルニ因リテ會社又ハ其債權者ニ加ヘタル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第九十六條 取締役又ハ監査役カ給料又ハ其他ノ報酬ヲ受ク可キトキハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第九十七條 取締役又ハ監査役ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得其解任セラレタル者ハ會社ニ對シテ解任後ノ給料若クハ其他ノ報酬又ハ償金ヲ請求スルコトヲ得ス

第六款 株主總會

第九十八條 總會取締役、監査役又ハ其他本法ニ依リテ招集ノ權ヲ有スル者之ヲ招集ス

第九十九條 總會ノ招集ハ會日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ其會議ノ目的及ヒ事項ヲ示シ且定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

此規定ハ創業總會ノ招集ニモ亦之ヲ適用ス

第一百條 通常總會、毎年少ナクトモ一回定款ニ定メタル時ニ於テ之ヲ開キ其總會ニ於テハ前事業年度ノ計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ株主ニ示シテ其決議ヲ爲ス

取締役ノ提出スル書類ニ付テハ監査役ノ報告書ハ其書類ト共ニ之ヲ提出ス

第一百一條 臨時總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ何時ニテモ之ヲ招集スルコトヲ得又總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ申立ソルトキハ亦臨時總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

第一百二條 總會ハ本法ニ於テ別段ノ規定アルトキノ外定款ノ定ニ從ヒテノミ決議ヲ爲スコトヲ得定款ニ其定ナキトキハ總株金ノ少ナクトモ四分一ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ決議ヲ爲ス

第一百三條 定款ノ變更及ヒ任意ノ解散ニ付テノ決議ヲ爲スニハ第六十四條ニ定メタル決議ノ方法ニ依ル

第一百五十二條ノ規定ハ株式會社ニモ亦之ヲ適用ス

○附法



第七款 定款ノ變更

第二百五條 會社ハ定款ニ定アルトキ又ハ總會ノ決議ニ依リテ定款ヲ變更スルコトヲ得然レトモ法律ノ規定又ハ政府ヨリ免許ニ附シタル條件ニ違背スルコトヲ得ス

第二百六條 會社資本ノ増加ハ株券ノ金額ヲ増シ又ハ新株券若クハ債券ヲ發行シテ之ヲ爲シ又其減少ハ株券ノ金額又ハ株券ヲ減シテ之ヲ爲スコトヲ得但資本ハ其金額ノ四分一未滿ニ減スルコトヲ得ス此債券ハ記名ノモノニシテ其金額ニ付テハ第百七十五條ノ規定ヲ適用ス

第二百七條 會社資本ヲ減セントスルトキハ會社ハ其減少ノ旨ヲ總會ノ決議者ニ通知シ且異議アル者ハ三十日內ニ申出ツ可キ旨ヲ備告スルコトヲ要ス

第二百八條 前條ニ掲ケタル期間ニ異議ノ申出アラサルトキハ異議ナキモノト看做ス  
異議ノ申出アリタルトキハ會社ハ其債務ヲ辨償シ又ハ之ニ擔保ヲ供シテ異議ヲ取除キタル後ニ非サレハ資本ヲ減スルコトヲ得ス

第二百九條 資本ノ減少シタル部分ノ拂戻ヲ受ケタル株主ハ過越ナキ不知ノ爲メ其減少ニ付キ異議ヲ申出テサル債權者ニ對シテ登記ノ日ヨリ二個年間其受ケタル拂戻ノ額ニ至ルマテ自己ニ責任ヲ負フ  
第二百十條 會社ノ定款中既ニ登記ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ直チニ其變更ノ登記ヲ受ケ可シ登記前ニ在テハ其變更ノ効ヲ生セス

營業所ヲ移轉スルトキハ舊所在地ニ於テ移轉ノ登記ヲ受ケ新所在地ニ於テハ新ニ設立スル會社ニ付キ要スル諸件ノ登記ヲ受ケ可シ又同一ノ地域內ニ於テ移轉スルトキハ移轉ノミノ登記ヲ受ケ可シ  
第二百十一條 會社定款ノ變更ノ登記ヲ受ケタルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ其變更ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八款 株金ノ拂込

第二百十二條 株金拂込ノ期節及ヒ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ム其拂込ヲ催告スルニハ拂込ノ日ヨリ少ナクトモ十四日前ニ各株主ニ通知スルコトヲ要ス其通知ニハ拂込ヲ爲ササル爲メ株主ノ被フル可キ損失ヲ併示ス

第二百十三條 拂込期節ヲ怠リタル株主ハ年百分ノ七ノ遲延利息及ヒ其遲延ノ爲メニ生シタル費用ヲ支拂フ義務アリ

第二百十四條 拂込ヲ怠リタル株主カ更ニ少ナクトモ十四日ノ期間ニ於テ拂込ム可キ催告ヲ會社ヨリ受ケ仍ホ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ其株主ニ對シテ株券ノ所權有ヲ失ヒタリト宣言スルコトヲ得然ルトキハ其株券ハ會社ノ所有ト爲ル

第二百十五條 所有權ヲ失ヒタリト宣言セラレタル株券ノ從前ノ所有者ハ會社ニ於テ其株券ヲ公賣スルモ其代金既ニ催告ヲ受ケタル拂込金額ニ滿タサルトキハ其不足金及ヒ第百十三條ニ記載シタル利息並ニ費用ノ支拂ニ付キ仍ホ責任ヲ負フ但剷除アルトキハ會社ハ之ヲ從前ノ所有者ニ還付ス  
會社ハ其定款ヲ以テ別ニ違約金ヲ拂フ可キコトヲ定ムルコトヲ得

第九款 會社ノ義務

第二百十六條 會社ハ株金ノ全部又ハ一分ヲ株主ニ拂戻スコトヲ得ス

若シ拂戻シタルトキハ其金額ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

第二百十七條 會社ハ自己ノ株券ヲ取得シ又ハ之ヲ買ニ取ルコトヲ得ス所有權ヲ失ヒタリト宣言セラレタル株券又ハ債務ノ辨償ノ爲メ若クハ其他ノ事由ニ因リテ會社ニ交付セラレ若クハ移属シタル株券ハ一个月內ニ於テ公ニ之ヲ賣リ其代金ヲ會社ニ收ム

○商法



第二百十八條 會社ハ每年少ナクトモ一回計算ヲ閉鎖シ計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案ヲ作り監査役ノ検査ヲ受ケ總會ノ認定ヲ得タル後其財産目録及ヒ貸借對照表ヲ公告ス其公告ニハ取締役及ヒ監査役ノ氏名ヲ載スルコトヲ要ス

第二百十九條 利息又ハ配當金ハ損失ニ因リテ減シタル資本ヲ填補シ及ヒ規定ノ準備金ヲ扣取シタル後ニ非サレハ之ヲ分配スルコトヲ得ス

準備金カ資本ノ四分一ニ達スルマテハ毎年ノ利益ノ少ナクトモ十分一ヲ準備金トシテ積置クコトヲ要ス

第二百二十條 前二條ノ成規ニ依ラスシテ拂出シタル利息又ハ配當金ハ會社又ハ其債權者直接ニ之ヲ取戻サント求ムルコトヲ得

第二百二十一條 利息又ハ配當金ノ分配ハ各株ニ付キ拂込ミタル金額ニ應シ總株主ノ間ニ平等ニ之ヲ爲ス

第二百二十二條 會社ハ其本店及ヒ各支店ニ株主名簿、目録見書、定款、設定免許書、總會ノ決議書、毎事業年度ノ計算書、財産目録、貸借對照表、事業報告書、利息又ハ配當金ノ分配案及ヒ抵當若クハ不動産ノ質ノ價額者ノ名簿ヲ備置キ通常ノ取引時間中何人ニモ其求ニ應シ展開ヲ許ス義務アリ

第二百二十三條 諸帳簿檢正ノ爲メ事業年度毎ニ一回一ヶ月ヲ超エサル期間前條ニ定ムタル展限ヲ停止スルコトヲ得

第十款 會社ノ検査

第二百二十四條 總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ノ申立ニ因リテ會社營業所ノ裁判所ハ一人又ハ數人ノ官吏ニ會社ノ業務ノ實況及ヒ財産ノ現況ノ検査ヲ命スルコトヲ得

第二百二十五條 検査官吏ハ會社ノ金匣、財産現在高、帳簿及ヒ總テノ書類ヲ検査シ取締役及ヒ其他ノ役員ニ説明ヲ求ムル權利アリ

第二百二十六條 検査官吏ハ検査ノ顛末及ヒ其面前ニ於テ爲シタル供述ヲ調査ニ記載シ之ヲ授命ノ裁判所ニ差出スコトヲ要ス

調査ノ勝本ハ裁判所ヨリ之ヲ會社ニ付與シ又株主及ヒ其他ノ者ヨリ手数料ヲ納ムルトキハ其求ニ應シテ之ヲ付與ス

第二百二十七條 主務省ハ何時ニテモ其職權ヲ以テ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ第二百二十四條ニ掲ケタル検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一款 取締役及ヒ監査役ニ對スル訴訟

第二百二十八條 總會ハ監査役又ハ特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條 會社資本ノ少ナクトモ十分一ニ當ル株主ハ亦特ニ選定シタル代人ヲ以テ取締役又ハ監査役ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得但各株主ノ自己ノ名ヲ用井又ハ参加人ト爲リ裁判所ニ於テ其權利ヲ保衛スル權ヲ妨ケス

第十二款 會社ノ解散

第二百三十條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ解散ス

- 第一 定款ニ定メタル場合
- 第二 株主ノ任意ノ解散
- 第三 株主ノ七八未滿ニ減シタルコト

○商法



第四 資本ノ四分一未滿ニ減シタルコト

第五 會社ノ破産

第六 裁判所ノ命令

第二百三十一條 會社解散ノ場合ニ於テハ既ニ始メタル取引ヲ完結シ又ハ現ニ存在スル會社義務ヲ履行スル外其業務ヲ止ム取締役之ニ拘ハラスシテ營業ヲ續行スルトキハ之カ爲メ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十二條 會社解散ノ場合ニ於テハ取締役ハ總會ヲ招集シ解散ノ決議ヲ取ル但裁判所ノ命令ニ依リテ解散スル場合ハ此限ニ在ラス  
其總會ニ於テハ破産ノ場合ヲ除ク外一人又ハ數人ノ清算人ヲ選定ス

第二百三十三條 前條ニ掲ケタル解散ノ決議又ハ清算人ノ選定ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ債權者若クハ株主ノ申立ニ因リ又ハ職權ニ依リ其命令ヲ以テ決議ニ換ヘ又ハ清算人ヲ任スルコトヲ得

第二百三十四條 會社ハ破産ノ場合ヲ除ク外決議後七日内ニ解散ノ理由、年月日及ヒ清算人ノ氏名、住所ノ登記ヲ受ケ之ヲ裁判所ニ届出テ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ各株主ニ通知シ且地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ソルコトヲ要ス

第二百三十五條 裁判所ハ解散及ヒ清算ノ實現ヲ監視スル權アリ

第二百三十六條 登記ヲ受クルト共ニ取締役ノ代理權ハ清算人ニ移ル然レトモ取締役ハ清算人ノ求ニ應ジ清算事務ヲ補助スル義務アリ

第二百三十七條 登記後ニ爲シタル株式ノ讓渡及ヒ清算ノ目的ノ爲メニセサル財産ノ處分ハ總テ無効タリ但特別ノ理由アリテ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十八條 取締役カ總會ヲ招集又ハ登記ノ届出ヲ爲サザリシトキハ此カ爲メ會社又ハ第三者ニ生セシメタル損害ニ付キ其全財産ヲ以テ自己ニ責任ヲ負フ

第二百三十九條 解散及ヒ清算ノ費用ハ現在ノ會社財産中ヨリ最モ先ニ之ヲ支拂フモノトス

第十三款 會社ノ清算

第二百四十條 清算人ノ職分ニ付テハ第三百三十條及ヒ第三百三十一條ヲ適用ス

第二百四十一條 清算人ノ職分ノ履行ニ付テハ會社ヨリ又ハ株主若クハ債權者ノ申立ニ因リテ裁判所ヨリ清算人ニ訓示ヲ與フルコトヲ得清算人ハ其訓示及ヒ法律ノ規定ヲ遵守スル責任ヲ負フ

第二百四十二條 會社ノ債權者ノ相當ノ理由ヲ以テ爲シタル申立ニ因リ會社又ハ時宜ニ從ヒテ裁判所ハ債權者ノ利益保護ノ爲メ一人又ハ數人ノ代人ヲシテ清算ヲ監督シ又ハ清算人ニ参加セシムルコトヲ得

第二百四十三條 清算人ハ其選定ノ日ヨリ六十日内ニ會社帳簿ニ依リテ其財産ノ現況ヲ取調ヘ少ナクトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニハ其債務ノ辨濟期限ニ至リタル時直チニ之ヲ辨濟ス可ク又債權者ニハ或ル期間ニ其債權ヲ申出ソ可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ六十日ヲ下ルコトヲ得ス  
其公告ニハ債權者期間ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ヲ清算ヨリ除外セラルル旨ヲ附記ス然レトモ

清算人ハ期間ニ申出テサル債權者ト雖モ其知レタル者ヲ清算ヨリ除外スルコトヲ得ス

第二百四十四條 清算人ハ其期間滿了前ニ於テハ債權者ニ支拂ヲ爲シ始ムルコトヲ得ス

第二百四十五條 期間後ニ申出テタル債權者ハ會社ノ債務ヲ濟了シタル後未タ株主ニ分配セサル會社財産ノミニ對シテ其辨償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百四十六條 清算人ハ清算ノ爲メ株主ヲシテ其未タ全額ヲ拂込マサル株券ニ付キ拂込ヲ爲サシム

○商法



ル權利アリ

第二百四十七條 清算人ハ必要又ハ有益ト認ムルトキハ何時ニテモ總會ヲ招集スルコトヲ得又清算人ハ定款又ハ總會ノ決議ヲ以テ定メタルトキ又ハ總株金ノ少ナクトモ五分一ニ當ル株主ヨリ申立ツルトキハ總會ヲ招集スル義務アリ

第二百四十八條 清算人ハ委任事務ヲ履行シタル後總會ニ計算書ヲ差出シテ其認定ヲ求ム

第二百四十九條 清算人ハ前條ニ掲ケタル認定ヲ得タルトキハ會社ノ債務ヲ了シタル後餘ノ財産ヲ各株主ニ其所有株數ニ應シ金錢ヲ以テ平等ニ分配ス此分配ハ總債權者ニ辨償シタル時ヨリ三個月ノ満了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

株主ハ總會ニ於テ金錢ニ非サル物ヲ以テ分配ス可キ決議ヲ爲シタルトキト雖モ之ヲ受取ル義務ナシ  
第二百五十條 清算ノ終リタル後清算人ハ總計算書及ヒ一般ノ事務報告書ヲ總會ニ差出シテ卸任ヲ求ム若シ總會ニ於テ卸任ヲ許ササルトキハ裁判所ハ清算人ノ申立ニ因リ其命令ヲ以テ之ヲ許スト否トヲ定ム但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百五十一條 清算人ハ其行為ニ付キ總會ノミニ對シテ責任ヲ負フ然レトモ其行為ニ因リ或ル株主ノ一已ノ權利ヲ害シタルトキハ其株主ハ清算人ニ對シテ其權利ノ承認及ヒ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十二條 清算人ハ卸任ヲ得タル後商業登記簿ニ清算了ノ登記ヲ受ケ且之ヲ公告ス其公告ニハ清算ニ付キ生シタル會社ニ對スル請求アレハ之ヲ三個月ノ期間ニ主張ス可キ旨ノ催告ヲ附ス其請求アリタルトキハ清算人ニ於テ之ヲ辨了ス

第二百五十三條 清算中ニ現在ノ會社財産ヲ以テ會社ノ總債權者ニ完済シ能ハサルコトノ分明ナルニ

至リタルトキハ清算人ハ破産手續ノ開始ヲ爲シテ其旨ヲ公告シ且會社ノ取引先ニ通知ス  
此場合ニ於テ既ニ債權者又ハ株主ニ支拂ヒタルモノ有ルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得清算人カ貸方債權者ニ對シテ其責任ヲ負フ

第二百五十四條 會社ノ決議ニ依リテ會社ノ帳簿及ヒ其他ノ書類ノ貯藏ヲ委任セラレタル者ノ氏名、住所ハ清算人ヨリ之ヲ裁判所ニ届出ツ可シ此届出前ニ在テハ清算人其貯藏ノ責任ヲ負フ

第二百五十五條 清算ノ結果即チ左ノ事項ハ清算人ヨリ裁判所ニ届出テ且之ヲ公告ス可シ

- 第一 支拂又ハ示談ニ因リテ總債權者ニ辨償ヲ爲シタルコト
  - 第二 會社ノ殘餘財産ヲ株主ニ分配シタルコト及ヒ其分配ノ金額
  - 第三 清算費用ヲ辨濟シ及ヒ清算ニ付キ生シタル請求ヲ辨了タルコト
  - 第四 總會ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ卸任ヲ得タルコト
  - 第五 會社ノ帳簿及ヒ書類ノ貯藏ニ關スル處置ヲ爲シタルコト
  - 第六 會社ノ株券又ハ債券ノ其効力ヲ失ヒタルコト
- 其清算ノ結果ハ亦清算人ヨリ地方長官ヲ經由シテ主務省ニ届出ツルコトヲ要ス

第四節 罰則

第二百五十六條 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

- 第一 本章ニ定メタル登記ヲ受クルコトヲ怠リタルトキ
- 第二 登記前ニ閉業シタルトキ

〇商法



第二百五十七條 株式會社ノ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 株主名簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

第二 會社解散ノ場合ニ於テ總會ノ招集又ハ株主ヘノ通知ヲ怠リタルトキ

第二百五十八條 株式會社ノ取締役ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百五十六條ノ規定ニ反シ株金ノ全部又ハ一分ヲ拂戻シタルトキ

第二 第二百五十七條ノ規定ニ反シ會社ノ爲メ其株券ヲ取得シ又ハ買ニ取リ又ハ公費セサルトキ

第三 第二百十八條又ハ第二百十九條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ株主ニ拂渡シタルトキ

第四 第二百二十五條ノ場合ニ於テ會社ノ金匯、財産現在高帳簿及ヒ總テノ書類ノ檢査ヲ妨ケ又

ハ求メラレタル説明ヲ拒ミタルトキ

合資會社ノ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役カ第五百五十三條ノ規定ニ反シ利息又ハ配當金ヲ社員ニ

拂渡シタルトキハ亦本條ニ定メタル罰則ヲ之ニ適用ス

第二百五十九條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百四十三條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二 第二百五十三條ノ規定ニ反シ破産手續ノ開始ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

第二百六十條 株式會社ノ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一 第二百四十四條ノ規定ニ反シ債權者ニ支拂ヲ爲シ始メタルトキ

第二 第二百四十九條ノ規定ニ反シ株主ニ分配ヲ爲シタルトキ

第二百六十一條 前數條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其命令ニ對シテ即時抗告ヲ

爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付テハ業務擔當ノ任アル社員、取締役又ハ清算人連帶シテ其責任ヲ負フ

第二百六十二條 業務擔當ノ任アル社員、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百

圓以下ノ罰金ニ處セラレ情重キトキハ罰金ニ併セ一年以下ノ重禁錮ニ處セラル

第一 官廳又ハ總會ニ對シテ書而若クハ口頭ヲ以テ會社ノ財産ノ現況若クハ業務ノ實況ニ付キ故

意ニ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ不正ノ意ヲ以テ其現況若クハ實況ヲ隱蔽シタルトキ

第二 公告ノ中ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

前ニ掲ケタル者ノ外會社ノ他ノ役員及ヒ使用人カ之ト共ニ犯シタルトキハ亦右ノ罰ニ處セラル

第二百六十三條 發起人カ株式申込ニ付キ詐僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金

ニ處セラル

第二百六十四條 前二條ニ掲ケタル罰ニ處スルニハ刑事裁判上ノ手續ヲ以テス

第五節 共済商業組合

第二百六十五條 共済商業組合ノ契約ハ會社ニ關スル本法ノ規定ニ從フコトヲ要セス其契約ニ因リテ

商事會社及ヒ會社財産ハ成立セス

第二百六十六條 二人以上共通ノ計算ヲ以テ一時ノ商取引又ハ作業ヲ爲スチ常座組合トシテ約實行ノ

爲メ其一二ノ組合員若クハ總組合員ニ於テ又ハ共同代理人ヲ以テ爲シタル行爲ニ付テハ第三者ニ對

シテ各組合員直接ニ連帶ノ權利義務ヲ有ス

第二百六十七條 二人以上各自別箇ニ一時ノ商取引若クハ作業ヲ爲シ又ハ商業ヲ營ムト雖モ此ニ因リ

テ生スル損益ヲ共分スルコトヲ契約シタルモノヲ共分組合トシ各組合員亦前條ニ掲ケヌ

ルト同シキ連帶ノ權利義務ヲ有ス然レトモ他ノ組合員ノ爲シタル行爲ヨリ生スル請求ニ對シテハ此

○商法







ノ特別ナル業體又ハ雙方間ノ平常ノ取引關係ニ因リテ承諾シタルモノト通例推定ス可キ場合ヲ除ク外ハ決シテ存スルモノト看做スコトヲ得ス

第二百八十三條 雙務ノ契約ニ在テハ相手方ノ履行ニ對スル承諾ハ其承諾シタル一方ニ於テモ履行ス可キ默示ノ約束ヲ爲シタルモノトス

第二百八十四條 契約上ノ義務ハ明示ト默示ト間ハ合法ノ原因アルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス

第二百八十五條 契約上ノ義務ヲ將來ノ事件ノ不確定ナル發生又ハ不發生ニ關ラシムル場合ニ於テハ契約ハ其事件ノ發生セサルトキ又ハ發生シタルトキハ當然消滅ス

第二百八十六條 契約ニ加ヘタル未必條件又ハ期限ハ此カ爲メ利益ヲ受ク可キ者ノ明示ノ拋棄ニ因ルニ非サレハ無効ト爲スコトヲ得ス

第二百八十七條 商事契約ニ依リ二人以上共同シテ債權ヲ取得シ又ハ債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ反對ヲ明示シタルニ非サレハ其債權ハ各債權者ヨリ又其債務ハ各債務者ニ對シテ連帶且無條件ニテ其効力ヲ致サシムルコトヲ得

第二百八十八條 前條ノ規定ハ保證義務ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス殊ニ一人ノ保證人ニ對スル二人以上ノ債權者ニ關シテモ一人ノ債務者ノ爲メニスル二人以上ノ保證人ニ關シテモ二人以上ノ債務者中ノ一人ノ爲メニスル保證人ニ關シテモ之ヲ適用ス

第二百八十九條 商事ニ於テ他人ニ對シテ責任スル注意ハ別段ノ規定又ハ契約アルニ非サレハ辯護アリ且勉勵ナル商人カ履行地ノ慣例ニ從ヒテ爲ス可キ注意ナリトス  
第二百九十條 不適法ノ意思又ハ甚シキ怠慢ニ出テタル行爲ニ付テノ責任ハ豫メ契約ヲ以テ之ヲ免カ

ルコトヲ得ス

第二百九十一條 意外ノ事ニ因ル危險及ヒ至重ナル注意ハ本法ニ規定ナキモ明示ノ契約ヲ以テ之ヲ引受クルコトヲ得

第三節 契約ノ取結

第二百九十二條 契約ハ一方ノ提供ヲ他ノ一方ニ於テ異議ナク承諾シタルトキ直チニ之ヲ取結ヒタルモノトス但默示ノ承諾ノ存セサルトキハ適當ノ方式ヲ以テ提供者ニ承諾ヲ達スルコトヲ要ス

第二百九十三條 契約ノ提供ハ即時ニ又ハ被提供者ニ許與シタル期間ニ承諾ヲ達ヘサルトキハ之ヲ拒絶シタルモノト看做ス

第二百九十四條 提供ノ默示ノ承諾ヲ推定スルコトヲ得ル場合ニ於テハ被提供者カ即時又ハ許與セラレタル期間ニ拒絶ヲ達ヘサルトキハ其提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二百九十五條 地ヲ隔テタル者ノ間ニ於テハ提供者ニ對スル承諾ノ陳述ハ逕クトモ提供ヲ受取リタル翌日正午マテニ普通ノ送達方法ヲ以テ提供者ニ其陳述ヲ達シタルトキハ即時ニ之ヲ爲シタリト看做ス但其翌日カ一般ノ休日ナルトキハ更ニ其翌日ニ於テスルコトヲ得

第二百九十六條 契約提供ニ對シテ條件ヲ附シ又ハ變更ヲ加ヘテ爲ス承諾ニ在テハ提供者ハ其選擇ヲ以テ之ヲ純粹ノ拒絶ト看做シ又ハ被提供者ヨリ更ニ爲シタル提供ト看做スコトヲ得

第二百九十七條 提供者ハ被提供者カ通常ノ情況ニ於テ即時又ハ期間ニ承諾ヲ達ノルコトヲ得ル時ニ至ルマテハ被提供者ニ對シテ其提供ニ要求セラルルモノトス然レトモ提供ノ被提供者ニ達スル以前又ハ達スルト同時ニ反對ノ通知ヲ以テ其提供ヲ取消スコトヲ得

第二百九十八條 契約提供ノ承諾ヲ達ヘタルトキハ他ノ一方ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其承諾ヲ取消ス

◎新法



コトヲ得ス然レトモ地ヲ隔テタル者ノ間ニ於テハ取消カ承諾陳述ノ達スル以前又ハ達スルト同時ニ  
提供者ニ達スルトキハ其取消ヲ有効トス

第二百九十九條 契約取結ニ關スル通信ヲ爲スニ當リ送達人ノ過誤及ヒ遅延ニ付キ送達人ニ其責任ヲ  
キトキハ送達ノ爲メ利益ヲ受クル者其責ニ任ス

第三百條 見本、代價付其他契約提供ヲ媒介スル物ニシテ契約提供ト共ニ送付シ若クハ別ニ送付スル  
モノハ其提供ノ拒絶セラルル場合ト雖モ被提供者ノ方ニ留マルヲ通例トス其他ノ商品ニ在テハ被提  
供者ハ提供者カ更ニ處分ヲ爲スニ至ルマテ相當ノ方法ヲ以テ之ヲ貯藏ス可シ然レトモ第三百七十三  
條ノ規定ニ從ヒ相當ノ期間ニ其商品ヲ賣却シテ立替金及ヒ口錢ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得

第三百一條 商專契約ハ強暴、詐欺又ハ錯誤アル場合ニ於テハ之ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得然レ  
トモ大ナル損失ニ因リ殊ニ代價其他ノ報償ノ不相當ナルニ因リテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三節 契約ノ履行

第三百二條 契約ノ履行ハ一方カ他ノ一方ノ同意ヲ得テ明示又ハ默示ニテ負ヒタル義務ヲ完全ニ辨濟  
スルニ在リ

第三百三條 債務者ノ義務ノ旨趣及ヒ範圍殊ニ債務ノ目的物ノ性質及ヒ品位ニ付テハ履行地ニ行ハル  
ル定例ニ依リテ之ヲ定ム但別段ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百四條 十分ナル債務辨濟ヲ適當ノ方法ヲ以テ債務者ニ言込ムモ債權者其承諾ヲ拒絶スルトキハ  
債務者ハ其辨濟ス可キモノヲ債權者ノ計算及ヒ危險ニ於テ處分スルコトヲ得此場合ニ於テハ債務者  
ハ不適法ノ意思又ハ甚シキ怠慢ニ付テノミ債權者ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百五條 債權者ハ一分ノ履行又ハ遅延シタル履行ヲ承諾スルコトヲ要セス但割拂ノ契約又ハ慣習

アルトキハ此限ニ在ラス

第三百六條 契約ノ履行ハ契約上ノ満期日又ハ其他定マリタル満期日ニ之ヲ爲ササルトキハ遅延シタ  
ルトス

第三百七條 満期日ハ日ヲ指シテ之ヲ定メ又ハ期間ヲ設ケテ之ヲ定ムルコトヲ得

第三百八條 期間ヲ定ムルニ日數ヲ以テシタルトキハ其期間ノ末日ヲ満期日ト看做シ週數、月數又ハ  
年數ヲ以テシタルトキハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ結納ノ日ニ相當スル日ヲ満期日ト看做ス

第三百九條 日ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニ付テハ結納ノ日ハ之ヲ算入セス

第三百十條 半个月ハ十五日ノ期間ト看做ス

第三百十一條 満期日カ一般ノ休日ニ當ルトキハ其翌日ヲ満期日ト看做ス

第三百十二條 特別ノ情况アルトキノ外ハ履行地ニ於ケル慣習上ノ取引時間ヲ以テ履行ニ付テノ一日  
ノ時間ト看做ス

第三百十三條 或ル期間ノ經過中ニ履行ヲ爲ス契約ナルトキハ其履行ハ期間内何レノ取引日ニテモ之  
ヲ爲シ又ハ之ヲ求ムルコトヲ得

第三百十四條 前條ノ場合ニ於テ疑ハシキトキハ期間ノ定ニ因リテ利益ヲ受ク可キ一方カ履行日ヲ擇  
ムコトヲ得通例此ノ如キ一方ト看做ス可キ者ハ商品ノ受取人又ハ金錢ニ係ル債權ニ在テハ債務者ト  
ス

第三百十五條 期間ヲ延ヘタル場合ニ於テ別ニ定ムル所アルニ非サレハ其新期間ハ舊期間ノ満了ヨリ  
起算ス

第三百十六條 契約其他ニ履行期日ノ定ナクシテ債務者其履行ヲ相當ノ期間ニ爲ササルトキハ債權者

○商法



ハ満期日ヲ定ムルコトヲ得

第三百十七條 別段ノ履行地ヲ定メス又ハ取引ノ性質若クハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ推知スルコトヲ得サルトキハ履行ハ債權者若クハ受取ノ權利アル者ノ指定シタル地若シ指定セサルトキハ其住地殊ニ營業場ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第三百十八條 債務者ノ負擔セル送付ノ義務ハ債權者ノ指定シタル運送場若シ指定セサルトキハ適當ノ運送場ニ交付スルヲ以テ之ヲ履行シタルモノトス

第三百十九條 當事者雙方カ同地ニ住スル場合ニ於テ別段ノ契約ナキトキハ債務者カ債務ノ目的物ヲ送付ス可キヤ又ハ債權者カ之ヲ取寄ス可キヤハ其地ノ慣習又ハ取引ノ性質ニ依リテ之ヲ定ム

第三百二十條 別段ノ契約ナキトキハ債務ノ目的物ノ送付ハ債權者ノ危険ニ於テ之ヲ爲スヲ通例トス但債務者カ自己又ハ其使用人ノ過失ニ付テ負擔責任ハ此カ爲メニ妨ケラルルコト無シ

第三百二十一條 度量衡、距離、期間、休日、支拂貨幣ノ本位並ニ種類其他履行ノ細目ハ履行地ニ行ハルル定例ニ從ヒテ之ヲ定ム但別段ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第三百二十二條 擇一債務其他目的物ノ特定セサル債務ニ付キ履行ノ目的物ヲ定ムルコトハ其目的物ノ尙ホ存スル場合ニ限り疑ハシキトキハ債務者ノ擇ムニ任ス

第四節 價額賠償、損害賠償及ビ割引

第三百二十三條 債務者カ其債務ノ履行ヲ正當期日ニ爲ササルトキハ債權者ハ契約ヲ解除シ又ハ價額賠償若クハ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十四條 價額賠償ハ金錢ニ係ル債務ニ付テハ價額ノ外満期日ヨリ其債務ヲ清済スルロマテノ遲延利息ヲ支拂フニ在リ總テ其他ノ債務ニ付テハ債務ノ目的物カ満期日ノ後ニ有セシ最高ノ價額

ト其定價額ヲメタル時ヨリ清済ノ日マテノ遲延利息ト支拂フニ在リ但債權者ニ於テ債務ノ目的物カ満期日ニ有セシ價額ト此日ヨリノ遲延利息ノ賠償トチ得ント欲スルトキハ此限ニ在ラス

第三百二十五條 債權者ハ債務者ノ過失ヲ證明シ又ハ債務ノ不履行ニ因リ自己ニ加ヘラレタル損害ヲ證明スルコト無クシテ價額賠償ヲ求ムルコトヲ得但義務ノ性質及ヒ範圍ニ因リテ債務者カ不履行ニ付キ責任ヲ負フトキニ限ル

第三百二十六條 第三百二十四條ノ規定ニ從ヒテ査定ス可キ債務ノ目的物ノ價額ハ其普通ノ市場價額又取引所ニ於テ發賣スル物ニ在テハ其取引所相場ニ加フルニ遲延ニ因リテ生シタル費用及ビ立替金ヲ以テシタルモノトス

第三百二十七條 第三百四條ニ掲ケタル承諾ヲ遲延シタル債權者ハ亦遲延ニ因リテ生シタル費用及ビ立替金ヲ債務者ニ賠償ス可シ

第三百二十八條 故意又ハ怠慢ノ行爲ニ因リテ不適當ニ損害ヲ他人ニ加ヘタル者ハ其損害ニ付キ十分ノ賠償ヲ爲ス義務アリ

第三百二十九條 損害賠償ハ生シタル損失及ヒ失ヒタル利益ノ賠償ヲ包括ス

第三百三十條 利益トハ一方ノ加害ノ行爲ナカリシトキハ他ノ一方カ爲シ得ヘカリシコトヲ證明シ得ヘキ取得ヲ謂フ此取得ハ豫見シ得ヘカリシモノト否ト又ハ適當ナリシモノト否トヲ問フコト無シ

第三百三十一條 損害賠償ヲ査定スルニハ偶然、推測若クハ將來ノ利益若クハ損失又ハ他ノ情況ノ加ハルニ因リテ生スルコト有ル可キ利益若クハ損失ハ之ヲ問フコトヲ得ス

第三百三十二條 契約ヲ以テ豫メ價額賠償又ハ損害賠償ノ額ヲ定メタルトキハ之ニ從フテ通例トシテ

○商法



際ノ情况ヲ接用シテ其豫定ノ額ヲ増減セント主張スルコトヲ得ス

第三百三十三條 費用ノ立替金前貸金其他此類ノ支出金ノ賠償及ヒ損害ノ賠償ヲ爲ス可キ者ハ權利者ノ求ニ依リ其各金額ノ割合ニ應シテ賠償ス可キヨリノ利息ヲ支拂フ可シ

第三百三十四條 遅延利息其他ノ利息ニシテ法律又ハ契約ニ於テ歩合ヲ定メサルモノハ年百分ノ七トス

第三百三十五條 金錢ニ係ル債務ヲ満期前ニ支拂フトキハ債務者ハ契約又ハ商慣習アルトキニ限リ其満期前ノ時間ニ應シテ割引ヲ求ムルコトヲ得

第三百三十六條 契約不履行ニ因リテ債權者ヨリ契約ヲ解除スルトキハ債務者ハ既ニ爲シタル一分ノ清済ヲ現狀ニテ取戻シ既ニ受取リタル報償ヲ全額又ハ全價額ヲ以テ債權者ニ償還ス可シ

第五節 違約金

第三百三十七條 債權者ハ契約ノ履行ヲ確ムル爲メ其不履行ノ場合ニ於テ違約金トシテ或ル金額ヲ支拂フ義務ヲ債務者ニ負ハシムルコトヲ得其違約金ヲ求ムルニハ損害賠償ノ要件ニ關係ナキモノトス

第三百三十八條 履行又ハ賠償ヲ求ムル債權者ノ權利ハ違約金ノ爲メニ停止セラレスト雖モ疑ハシキトキハ違約金ト共ニ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第三百三十九條 過失アル不履行ニ因リテ債權者ニ加ヘタル損害カ違約金ノ額ヲ超ユルトキハ違約金ノ外此超過額ニ付キ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得

第六節 代理

第三百四十條 違約金ノ契約ニシテ差額取引又ハ不法ナル博奕若クハ賭博ノ取引ヲ隱蔽セントスル目的ヲ以テスルモノハ無効トス

第三百四十一條 商取引ノ取結ノ爲メニスル委任ハ總テノ場合ニ於テ其取引取結ノ爲メニスル代理ト見做ス但委任者カ代理人ノ行為ニ承諾ヲ與フルコトヲ要スル旨ヲ明示シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十二條 委任者ノ名ヲ以テシタルト否トテ問ハス委任者ノ爲メニ代理人ノ取結ヒタル商取引代理人ハ委任ヲ行フ際至重ノ注意ヲ爲ス義務アリ

第三百四十三條 委任又ハ事後ノ承諾ヲ受クルコト無クシテ第三者ノ爲メニ或人ト取引ヲ取結フ者ハ其人ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十四條 取引取結ノ際其委任ノ權限ヲ踰越スル者ハ第三者カ其踰越ヲ知ラス又ハ知ルコト能ハサリシトキハ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ

第三百四十五條 代理人カ他人ノ爲メ商取引ヲ取結ヒタル場合ニ於テ相手方カ自己ノ過失ニ非スシテ代理ナルコトヲ知ラス又ハ委任者ヲ知ラサリシトキハ其相手方ハ委任者ノ不履行ニ因リテ被フリタル損害ニ付キ其代理人ニ對シテ賠償ヲ求ムル權利アリ

第三百四十六條 代理ハ委任者又ハ代理人ノ死亡ニ因リテ解除スルモノニ非ス

第三百四十七條 代理ハ委任者ノ承諾アリ又ハ其承諾ヲ得ヘキモノト推定ス可キ情况アルニ非サレハ之ヲ第三者ニ轉付スルコトヲ得ス

第三百四十八條 他人ノ爲メニ其委任又ハ事後ノ承諾ヲ受ケテ商取引ヲ取結フ者ハ明約ナキトモ計簿書ヲ示シテ其取引取結ニ付キ正當ニ爲シタル前貸金、立替金並ニ費用ヲ賠償セシメ及ヒ慣習上ノ利息、手数料又ハ口錢ヲ求ムル權利アリ

第七節 時效

○商法



第三百四十九條 商事ニ於ケル債權ハ満期日ヨリ若シ此期日ノ定ナキトキハ其債權ノ生シタル日ヨリ六ヶ年ノ満了ニ因リテ時効ニ罹ル但此法律上ヨリ短キ時効期間ヲ規定シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百五十條 時効ハ履行ノ爲メ債務者ニ明示シテ爲シタル催告又ハ債權ノ取立若クハ擔保ノ爲メ債務者ニ對シテ爲シタル債權者ノ裁判上若クハ裁判外ノ行爲又ハ書面上ノ支拂約束又ハ主タル物若クハ從タル物ニ關シ債務者ノ爲シタル一分ノ支拂ニ因リテ中斷ス

第三百五十一條 受取證ヲ記シ又ハ記セサル計算書ノ送付ノミニテハ之ヲ催告ト看做スコトヲ得ス

第三百五十二條 満了シタル時効ノ效力ハ主タル物及ヒ從タル物ニ付テノ債權全ク消滅シ債權者ヨリ直接ニモ間接ニモ復タ之ヲ主張スルコトヲ得サルニ在リ

第八節 交互計算

第三百五十三條 相互ノ間ニ絶エス債權及ヒ債務カ生スル所ノ平常ノ取引關係ヲ有スル者ハ期間ヲ定メテ互ニ差引計算ヲ爲シ其債權及ヒ債務ヲ消却スルコトヲ得

第三百五十四條 交互計算ノ關係ハ明示又ハ默示ノ契約ニ因リテ生ス然レトモ長キ期間其信用ヲ繼續シタルモ此カ爲メニ交互計算ノ關係ヲ生スルコト無シ

第三百五十五條 差引計算ノ期間ハ一ヶ年トス但契約ヲ以テ此ヨリ短キ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

第三百五十六條 各當事者ハ毎期間ノ終ニ計算ヲ閉鎖シ且約定又ハ相當ノ期間ニ其計算書ヲ承認又ハ異議申述ノ爲メ互ニ送付スル義務アリ

第三百五十七條 異議ヲ起サヌ又ハ異議ヲ起シタルモ留保ヲ爲サヌシテ交互計算ノ關係ヲ繼續スルトキハ計算ヲ默認シタルモノト看做ス

第三百五十八條 交互計算ニ屬スル各債權ハ交互計算ノ關係ヲ解キ又ハ計算ニ對シテ異議ヲ述フルトキニ非サレハ各債ニ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第三百五十九條 計算カ承認セラレタルトキハ其計算ニ依ルニ非サレハ差引殘額ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百六十條 毎期間ノ終ニ生スル差引殘額ハ之ヲ新ナル債務計目トシテ次ノ計算ニ移スコトヲ得但反對ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 別段ノ契約又ハ慣習アラサルトキハ商事ヨリ生スル相互ノ債權及ヒ債務ハ種類ノ何タルヲ問ハス交互計算ヲ以テ取扱フコトヲ得

第三百六十二條 一方ニ於テノミ債權ヲ生シ他ノ一方ハ其債權ノ計算ノ爲メニ時時支拂ヲ爲シテ終ニ取引スル者ノ間ニ交互計算ノ關係ヲ生スルトキハ其計算ニ屬スル債權ハ期間ニ從ヒ且交互計算ノ全部ニ依ルニ非サレハ之ヲ主張スルコトヲ得ス

第三百六十三條 交互計算ニ繰込ミタル債權ハ契約上ノ定ナキトキト雖モ其繰込ノ日ヨリ之ニ相當ノ利息ヲ付ス可シ

第三百六十四條 各計算期間ニ生スル差引殘額ニ付テハ期間ノ末日ヲ満期日ト看做ス

第三百六十五條 交互計算ノ關係ハ其計算ニ繰込ミタル債權及ヒ債務ニ付テハ第三者ニ對シテ其效ナ有セス

第三百六十六條 交互計算ノ關係ハ當事者ノ一方カ何時ニテモ之ヲ辭スル外死亡又ハ破産ニ因リテ解除ス

第九節

買權

○商法



第三百六十七條 商取引ヨリ生スル債權ノ擔保ノ爲メニスル動産質權ノ設定ハ總テノ場合ニ於テ該面  
契約ヲ以テ之ヲ爲ス可シ其契約ハ擔保セラル可キ債權ノ年月日、數量並ニ其合法ノ原因及ヒ質權設  
定ノ年月日並ニ目的物ヲ逐一記載セサルトキハ無効トス

第三百六十八條 質權設定ニ因リ債權者ハ質物ヲ賣却シテ其債權ノ償價ニ充ツル權利ヲ取得ス但質物  
ノ占有カ自己又ハ其代人ニ移リタルトキニ限ル

第三百六十九條 船荷證書、倉荷證書其他稟書ヲ以テ所載商品ノ處分權ヲ移轉スルコトヲ得ル證券ノ  
裏書讓渡ハ物ノ占有ノ移轉ト同一ナリトス

第三百七十條 指圖證券カ質權設定ノ目的物ナルトキハ其證券ニ質入ノ旨ヲ附記シテ債權者ニ裏書讓  
渡ス可シ

第三百七十一條 債務者カ其債務ノ清償ヲ遲延シタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ訴ヲ起スコト無ク  
シテ質契約書ヲ差出シ裁判所ノ命令ヲ得タル後質物ノ賣却ニ著手スルコトヲ得

此命令ハ債權者ヨリ遲延ナク債務者ニ之ヲ通知ス可シ

第三百七十二條 債務者カ契約書ヲ以テ賣却ノ承諾ヲ明示シタルトキ又ハ指圖證券ヲ質入シタルトキ  
ハ債權者ハ裁判所ノ命令ナクシテ賣却ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條 前二條ノ場合ニ於ケル賣却ハ仲立人又ハ競賣人カ競賣ヲ以テ之ヲ爲シ又取引所ニ於  
テ賣買スル商品ニ在テハ取引所ニ於テ公ノ呼上ヲ以テ之ヲ爲シ且賣却期日ノ少ナクトモ八日前ニ其  
爲サントスル賣却ヲ債務者ニ通知ス可シ

第三百七十四條 前條ニ掲ケタル期間ノ満了スルマテハ債務者ハ債權者ニ清償ヲ爲シテ質物ノ還付ヲ  
求ムル權利アリ

第三百七十五條 債務額ニ利息及ヒ必要ノ費用並ニ立替金ヲ加ヘタル額ヲ超ニル賣却代價ノ過剩ハ賣  
却ノ諸費用ヲ引去リタル後之ヲ債務者ニ還付ス可シ

第三百七十六條 債務者ハ質權ノ設定ニ因リテ質物ヲ他ニ讓渡ス權利ヲ失フコト無シ然レトモ質債務  
ノ金額ニ滿ツバマテ其代價ヲ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フトキハ二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十七條 質主ニシテ其買入レタル物ニ付キ第三者ニ質權ノ存スルコトヲ知ル者ハ質債務ノ全  
額ニ滿ツルマテ其代價ヲ直接ニ質債權者ニ支拂フ可シ之ニ違フトキハ亦前條ノ刑ニ處ス

第三百七十八條 同一ノ物ニ付キ質權ヲ二人以上ニ設定シタルトキハ其物ノ占有者カ賣却ノ優先權ヲ  
有ス但強暴若クハ隱密ニテ又ハ隨時返還ノ條件ヲ以テ其占有ヲ得タルトキハ此限ニ在ラズ

第三百七十九條 二人以上ノ質債權者中一人ハ現物ヲ占有シ他ノ者ハ其物ニ付テノ處分證券ヲ占有ス  
ルトキハ孰レニテモ其占有ヲ先キニ得タル者賣却ノ優先權ヲ有ス

第三百八十條 動産ニ付テノ有効ナル質權ハ質債權者ノ善意ナルトキニ限リ所有者ニ於テ又ハ物ヲ處  
分スル爲メ所有者ヨリ委託セラレタル代人ニ於テ又ハ正當ナル取付ニ因リ物ノ占有ヲ得タル各人ニ

於テ之ヲ設定スルコトヲ得但無記名證券ヲ除ク外其物カ盜品又ハ紛天品ナルトキハ此限ニ在ラズ

第三百八十一條 所有者ニ非サル者ノ質入シタル者ハ賣却執行ノ終ニ至ルマテハ所有者ヨリ質債權者  
ニ十分ナル雜償ヲ爲シテ其取戻ヲ求ムルコトヲ得

第三百八十二條 有効ニ質入シタル物ヲ賣却シ其代價ノ支拂アリタルトキハ從來其物ニ付キ存セル所  
有權又ハ質權ハ總テ消滅ス

第三百八十三條 質權ハ第三者ニ於テモ債務者ノ爲メ之ヲ設定スルコトヲ得

第三百八十四條 質權ハ將來ノ債權ノ爲メ豫メ之ヲ設定スルコトヲ得ス

◎商法



第三百八十五條 買物賣却ノ裁判上ノ停止ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シタリトノ抗辯ヲ以テ之ヲ爲サシムルコトヲ得但其抗辯ヲ直チニ信認セシメ得ルトキニ限ル

第三百八十六條 指圖證券又ハ無記名證券ニ因リテ生シタル債權ヲ買入スルニハ債務者ニ通知ヲ爲スコトヲ要セス

買債權者ハ買ニ取リタル債權ヲ賣却ニ代ヘテ直接ニ取立ツルコトヲ得又金錢ニ係ル債權ニ非サルトキハ目的物ヲ買物トシテ取扱フコトヲ得

第十節 留置權

第三百八十七條 商取引ニ因リテ他人ノ物ヲ占有シ其物ニ付キ勞力、費用、前貸金、立替金、手数料又ハ利息ニ關シテ満期ト爲リタル債權ヲ有スル者ハ其債權ノ完全ナル辨濟又ハ擔保ヲ得ルマテハ其物又ハ其賣得金ヲ留置スル權利アリ

第三百八十八條 交互計算ヨリ生スル差引債額ニ付テノ債權ノ爲メ又ハ債務者支拂ヲ停止シタルトキハ未タ満期ト爲ラサルモ商取引ヨリ生スル總テノ債權ノ爲メ債權者ハ正當ニ占有ヲ得タル債務者ノ總テノ物ニ對シテ留置權ヲ行フコトヲ得

第三百八十九條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但債權者カ自己ノ利益ノ爲メ其物ヲ處分シタル其留置權アルコトヲ新所持人ニ告知セシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十條 留置權ハ債權カ時效其他ノ事由ニ因リテ消滅シタルカ爲メニ消滅スト雖モ物ノ所有權カ債權者ノ意ヲ以テ又ハ意ナクシテ他人ニ移リタルカ爲メニハ消滅セス

第三百九十一條 留置權ハ債權者ヨリ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三百九十二條 留置權ノ行使テ債務者ニ通知シタルモ仍ホ相當ノ期間ニ辨濟又ハ擔保ヲ得サル者ハ

留置シタル物ヲ第三百七十一條及ヒ第三百七十三條ノ規定ニ從ヒテ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充ツルコトヲ得

第三百九十三條 雙務ノ契約ニ依リテ其履行ヲ求ムルコトヲ得ル者ハ他ノ一方カ履行ヲ爲スマテハ自己ノ義務ノ目的物ヲ留置スルコトヲ得但反對ノ契約又ハ商慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第十一節 指圖證券及ヒ無記名證券

第三百九十四條 或ル金額又ハ商品ノ引渡ニ係ル書面契約ヨリ生スル債權ハ契約書カ其明文又ハ商慣習ニ從ヒテ指圖式ナルトキハ裏書ヲ以テ之ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得

第三百九十五條 指圖證券ノ發行人又ハ裏書讓渡人ハ其證券ニ指圖式ニ非サル旨ヲ明記シテ裏書讓渡スヲ得サルモノト爲スコトヲ得

第三百九十六條 指圖證券及ヒ其裏書ニハ年月日ヲ記シ發行人又ハ裏書讓渡人之ニ署名捺印ス可シ

第三百九十七條 發行又ハ裏書讓渡ノ緣由タル契約ノ合法ノ原因ハ之ヲ證券ニ掲クルコトヲ要セス但

第三百九十八條 指圖證券ノ裏書讓渡ハ白地ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十九條 指圖證券ノ發行人ハ受取證ヲ記シタル指圖證券ノ呈示及ヒ交付ヲ受ケタルトキハ豫メ引受ヲ爲サスト雖モ其證券ニ記載シタル金額又ハ商品ヲ裏書讓受人ニ引渡ス義務アリ第三百八十七條ニ依リテ留置權ノ原因タル反對債權ヲ有スル場合ニ於テハ其辨濟ヲ受ケタルトキニ限ル

第四百條 指圖證券ノ發行人ハ呈示人ノ眞偽ヲ調査スル權利アルモ其義務ナシ然レトモ惡意又ハ甚シキ惡慢ニ付テハ此カ爲メ損害ヲ受ケタル者ニ對シテ其責ヲ負フ

第四百一條 指圖證券ノ發行人ハ前二條ノ旨趣ニ從ヒ自己ニ屬スル抗辯又ハ證券面ヨリ生スル抗辯ニ

○商法



依ルニ非サレハ義務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ス

第四百二條 寫實讓受人カ其書讓渡ニ因リテ受取リタル物ニ付キ如何ナル權利ヲ有スルカハ寫實讓受人ト其書讓渡人トノ間ニ取結ヒタル契約ノ旨趣ニ依リテ之ヲ定ム

第四百三條 盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル指圖證券ハ寫實讓渡アリタルト否トヲ問ハス民專訴訟法ニ從ヒテ權利者之ヲ無効トスル手續ヲ爲スコトヲ得

第四百四條 切手、切符其他ノ無記名證券ハ交付ノミテ以テ之ヲ他人ニ付轉スルコトヲ得此等ノ證券ニ因リ所持人カ發行人ニ對シテ有スル權利ハ其證券ニ記載シタル旨趣又ハ法律、命令若クハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム

第八章 代辦人、仲立人、仲買人、運送取扱人及ヒ運送人

第一節 總則

第四百五條 代辦人、仲立人、仲買人及ヒ運送取扱人ノ權利義務ハ第七章第六節ニ掲ケタル原則ニ從ヒテ之ヲ定ム但下ノ數條ニ別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二節 代辦人

第四百六條 代辦人ハ商事ニ於テ他人ノ代理ヲ爲スル營業トスル商人タリ

代辦人ハ或ル營業者ノ代辦店ノ業務ヲ取扱フ爲メニモ之ヲ置コトヲ得

第四百七條 代辦人ハ自己ノ計算ヲ以テ商業其他ノ職業ヲ行ヒ又數人ノ代理ヲ引受クルコトヲ得然レトモ一箇ノ取引ニ付キ同時ニ雙方ヲ代理スルコトヲ得サルヲ通例トス

第四百八條 代辦ノ契約ハ一箇ノ取引ノ爲メ又ハ一種類若クハ數種類ノ取引ノ爲メ有期ト無期ト又明示ト默示トヲ開ハス之ヲ取結フコトヲ得又其契約ハ何時ニテモ一方ヨリ之ヲ解クコトヲ得然レトモ

其契約ヨリ生シタル權利及ヒ過失ニ出ツル解除ニ因リテ被ラシメタル損害ナ賠償スル義務ハ其契約ヲ解キタルカ爲メニ妨ケラルルコト無シ

第四百九條 代辦人ハ特ニ委任者ノ求ナキモ其委任セラレタル取引ノ範圍内ニ於テ委任者ノ利益ヲ謀ル義務アリ然レトモ満期ト爲リタル自己ノ債權ノ解決ヲ受ケサル間ハ其任務ヲ履行スルコトヲ要セス

第四百十條 委任者ニ對スル代辦人ノ代理權ノ範圍ハ委任者ヨリ與ヘタル委任又ハ事後ノ承諾ニ依リテ之ヲ定ム常職ノ代辦人ニ在テハ其事後ノ承諾ヲ以テ引續ク委任ト見做ス但反對ノ情況又ハ明示アルトキハ此限ニ在ラス

第四百十一條 代辦人ハ明示ノ委任ヲ受クルニ非サレハ契約ノ取結ヲ爲スコトヲ得サルヲ通例トス

第四百十二條 取引ノ取結ヲ爲スノミノ委任ヲ受ケタル代辦人ハ支拂ノ金錢若クハ貨戻ノ商品ヲ受取リ又ハ異議ヲ承諾スル權利ナシ

第四百十三條 代辦人ハ別段ノ委任ヲ受クルニ非サレハ和解契約ヲ取結ヒ又ハ訴訟ヲ爲ス權利ナシ

第四百十四條 商品ノ引渡其他契約履行ノ爲メ委任ヲ受ケタル代辦人ハ其代價ノ支拂ヲ受クル權利アリト看做ス但委任者其反對ヲ明示シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十五條 代辦人ハ其取扱ヒ又ハ取結ヒタル取引ニ關シテハ過失アルトキ又ハ別段ニ義務ヲ負擔シタルトキニ限リ第三者ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ對シテ責任ヲ負フ其別段ニ義務ヲ負擔シタル場合ニ於テハ第二百八十八條ノ規定ヲ適用ス

第四百十六條 常職ノ代辦人其行為ニ付キ第三者ノ間ニ對シテ已レニ其權アリト明言シタルトキ人ハ其行為カ慣習上委任ノ範圍内ニ在ルトキハ委任者ハ善意ナル第三者ニ對シテ責任ヲ負フ

○商法



第四百十七條 代辦人ハ其行爲ニ付キ第三者ヨリ口錢、報酬又ハ償金ヲ受クルトキハ之ヲ委任者ノ計  
算ニ歸ス可シ然ラサルトキハ委任者其行爲ニ付キ責任ナシト述ブルコトヲ得

第四百十八條 代辦人ハ自己ノ受取ル可キ手數料、前貸金、立替金、費用及ヒ利息ノ爲メ第三百八十七  
條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒ委任者ニ對テシ留置權ヲ有ス又其現ニ支拂ヒタル立替金及ヒ費  
用ニ付テハ商慣習又ハ實際ノ必要ニ依リ又ハ委任者ノ利益ノ立メ正當ト認ム可キモノニ限り之ヲ委  
任者ノ負擔ニ歸スルコトヲ得

第三節 仲立人

第四百十九條 仲立人ハ官ノ認可ヲ受ケ他人間ノ商取引ノ媒介ヲ爲スヲ營業トスル商人ニシテ取引所  
ナキ地ニ於テハ商品、有價證券、貨幣及ヒ爲替ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公ニスル專權ヲ有ス其仲立人ノ  
行爲ハ總テ公ノ信用アルモノトス

第四百二十條 仲立人ハ或ル部類ノ商取引ノ爲メニ認可セララルコトヲ得

仲立人ハ仲立營業外ノ商業ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ其地ノ情況ニ因リテ二箇以上ノ仲立營業部類  
ヲ一人ニ兼テシムルコト及ヒ仲立人ヲシテ取引所ニ於テ其營業ヲ爲サシムルコトヲ官ヨリ又ハ取引  
所定款ニ於テ許スコトヲ得

第四百二十一條 何人ニテモ年齢滿二十五歲ニ達シ少ナクトモ五年間其部類ノ商ニ從事シ且聲聞ニ瑕  
疵ナキ者ニ限り仲立人ト爲ルコトヲ得但破産シタル者ハ復舊ヲ得タル後ニ非サレハ仲立人ト爲ルコ  
トヲ得ス

第四百二十二條 仲立人ハ其業務ヲ始ムル以前ニ保證金ヲ提出ス可キモノトス其額ハ各地及ヒ各商部  
類並ニ二箇以上ノ仲立營業部類ヲ兼テシムル場合ノ爲メ省令ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ二萬圓ヲ超ユ

ルコトヲ許サス

第四百二十三條 仲立人ノ員數ハ各地ノ爲メ及ヒ其地ノ各商部類ノ爲メ其需用ニ應シテ之ヲ定ムルコ  
トヲ得

第四百二十四條 仲立人ハ其資格アル者ニ其營業ヲ讓渡シ又ハ相續セシムルコトヲ得ルト雖モ其承繼  
人ハ官ノ認可ヲ受ケ及ヒ保證金ヲ差出シタル後ニ非サレハ其營業ヲ行フコトヲ得ス

第四百二十五條 一地ノ仲立人又ハ一地ニ於ケル或ル商部類ノ仲立人十人以上アルトキハ其仲立人ハ  
官ノ認可ヲ受ケタル後組合ヲ成スコトヲ得此場合ニ於テハ其組合中ヨリ一今年ノ任期ニテ少ナクト  
モ三人ノ取締役ヲ選舉ス可シ總テ其他ノ仲立人ハ此組合ニ加入スル權利及ヒ義務アリ

第四百二十六條 仲立人及ヒ仲立人組合ハ共通計算ヲ以テ仲立營業ヲ爲スコトヲ許サス之ニ背クトキ  
ハ仲立人ニ在テハ其營業ヲ禁止シ組合ニ在テハ其組合ヲ解散シ尙ホ其組合員ノ營業ヲ禁止ス然レト  
モ仲立人組合ハ其組合同定款ニ從ヒテ各組合員ノ爲メニ共同保證ヲ引受クルコトヲ得

第四百二十七條 仲立人組合ハ多數決ヲ以テ其營業ヲ行フ爲メノ定款ヲ設ク可シ此定款ハ商業會議所  
及ヒ取引所又ハ其一ノ存スル地ニ在テハ其承諾ヲ經且官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス各組合員ハ其定  
款ヲ遵守スル義務アリ

前項ノ規定ハ定款變更ノ場合ニ於テモ之ヲ適用ス  
定款ハ法律、命令、商慣習及ヒ其地ノ取引所定款ニ背戻スルコトヲ得ス  
第四百四十八條ノ規定ハ取締役ノ決議ニ付テモ之ヲ適用ス  
第四百二十八條 取締役ハ左ニ掲クル權利及ヒ義務アリ

第一 仲立人カ其職務範圍内ニ属スル取引ニ於テ法律、命令及ヒ仲立人組合同定款ヲ遵守スルヤ否  
○商法



- 第二 組合員中ニ違犯者アルトキハ之ヲ懲罰シ且必要ノ場合ニ於テハ其處罰及ヒ除名ヲ申立ツルコト
- 第三 取引所ナキ地ニ於テハ各組合員ヨリ提出スル覺書ニ基キ少ナクトモ一週日毎ニ爲替相場及ヒ貨幣、商品並ニ有價證券ノ相場ヲ定メ及ヒ之ヲ公示スルコト
- 第四 其定メタル相場ヲ絶エス記入スル爲メ帳簿ヲ備ヘ且求ニ應シテ公定ノ相場書ヲ交付スルコト
- 第五 裁判所又ハ官廳ノ求ニ應シテ商ノ情况ヲ開陳シ又慣習ニ付キ意見ヲ陳述スルコト
- 第六 仲立人ノ認可及ヒ員數ノ増減ニ付キ意見ヲ陳述スルコト
- 第七 總テ組合内部ノ事務ヲ管理スルコト
- 第四百二十九條 仲立人ハ其媒介スル取引ニ於テ雙方ヲ代理スル權利アリ
- 仲立人ハ正當ノ理由アルニ非サレハ何人ノ委任タリトモ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第四百三十條 仲立人ハ自己又ハ他人ノ計算ノ爲メニスルモ自己又ハ他人ノ名義ヲ以テスルモ自己ニ直接又ハ間接ノ利害アル取引ヲ爲スコトヲ得ス
- 仲立人ハ他人ノ爲メニ支拂若クハ保證其他ノ擔保ヲ受ケ又ハ爲シ又ハ他人ノ爲メニ商品ニ對シテ前貸ヲ爲スコトヲ得ス
- 仲立人ハ代務人又ハ商業使用人タル資格ヲ以テ他人ノ用ヲ辨スルコトヲ得ス
- 前三項ノ規定ヲ犯シテ仲立人ノ爲シタル取引ハ總テ無効トス
- 第四百三十一條 仲立人ハ委任者ニ對シテ詳悉、完全及ヒ正實ニ必要ノ申告ヲ爲スコシ其申告ニ付キ

- 殊ニ其媒介シタル取引ニ關シテハ委任者ノ人選ニ非サルコト無能力者ニ非サルコト及ヒ署名捺印ノ眞正ナルコトニ付キ責任アルモノトス又其地ノ顯著ナル商人ニ於テ人選ニ非サルコトヲ擔保スルニ非サレハ面識ナキ人ノ爲メ又ハ之ニ對シテ取引ヲ媒介スルコトヲ得ス
- 第四百三十二條 仲立人ハ委任者ノ求ニ應シテ事務ヲ秘スル義務アリ
- 第四百三十三條 仲立人ハ其媒介シタル取引ニ付キ自ら其商品ノ存在、品位及ヒ買主ノ支拂資力ヲ確認シ且其受取リタル雜形及ヒ見本ニ相當ノ記號ヲ附シ其取引ノ結了スルマテ之ヲ貯藏ス可シ
- 第四百三十四條 仲立人ハ手形其他ノ有價證券ノ取引ニ付キ委任ヲ受クルトキハ買主ニ對シテハ證券ノ交付ヲ求メ買主ニ對シテハ價額ノ少クトモ百分ノ二十ノ前拂ヲ求ム可キモノトス
- 第四百三十五條 仲立人ハ當事者ノ明言アルトキニ限り取引ヲ取結フ權アリ匿名委任者ノ場合ニ於テハ取引取結ノ權限ニハ辨濟又ハ報償ヲ受クル權ヲ併セテ與ヘタルモノト見做ス
- 第四百三十六條 仲立人ハ違法若クハ制禁ノ取引又ハ空取引ヲ媒介スルコトヲ得ス
- 第四百三十七條 仲立人ハ自ら業務ヲ営ム可キモノニシテ殊ニ取引取結ニ付テハ使用人又ハ代理人ヲ用ユルコトヲ得ス
- 第四百三十八條 仲立人ハ其擔任義務ノ違背其他ノ過失ニ付キ委任者ニ對シテ損害賠償ヲ爲ス責任ス
- 第四百三十九條 匿名委任者ノ爲メ取結ヒタル取引ニ付テハ仲立人獨リ直接ニ請求ヲ受ク
- 第四百四十條 仲立人ハ其取結ヒタル取引ノ要旨ヲ特設ノ日記帳ニ日記入シ自ら其記入ヲ日閉鎖シテ之ニ署名捺印シ且通クトモ翌日中ニ關係アル部分ノ原本ニ署名捺印シテ之ヲ委任者雙方ニ交付ス可シ但其原本ハ指圖式ト爲スコトヲ得

○商法



其一方ニ於テ右際本ノ旨趣ニ對シテ異議ヲ唱ヘ又ハ承諾スルコトヲ肯セサルトキハ仲立人直チニ之ヲ他ノ一方ニ通知ス可シ但他ノ一方カ匿名委任者ニ非サルトキニ限ル

第四百四十一條 死亡シ又ハ退職シタル仲立人ノ日記帳ハ仲立人組合ノ取締役ニ於テ其組合ナキ地ニ在テハ裁判所ニ於テ之ヲ預リ置ク可シ

第四百四十二條 仲立人ノ手数料ハ別段ノ定例又ハ慣習ノ存スル場合ヲ除ク外其取引結了ノ後ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

手数料ノ額ハ仲立人組合定款又ハ慣習ニ依リテ之ヲ定ム

手数料ハ別段ノ契約又ハ慣習ナキトキニ限リ委任者雙方ヨリ各其半額ヲ拂フヲ通例トス

手数料ハ仲立人ノ過失ニ因リテ其契約ヲ相當ニ履行セサルトキハ之ヲ拂フコトヲ要セス

第四百四十三條 仲立人カ適法ノ手数料ヲ超過シタル報酬又ハ惠與ヲ委任者ノ一方ヨリ受ケタルトキハ他ノ一方ニ於テ其取引ヲ無効ナリト陳述スルコトヲ得

第四百四十四條 取引所ハ取引所定款ノ規定ニ從ヒテ商取引ヲ爲ス所ノ公設場トス

第四百四十五條 相應ノ商アル地ニ於テハ其地又ハ其一區域内ノ商人ニ於テ一般又ハ或ル部類ノ商取引ノ爲メ官ノ認可ヲ得テ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第四百四十六條 取引所ハ取引場ヲ定メ定款ヲ設ケ及ヒ取締役ヲ置ク可シ此條件及ヒ其變更ニ付テハ官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四百四十七條 取引所ノ事務及ヒ章程ハ特別ノ法律、命令アルニ非サレハ定款ヲ以テ之ヲ定ム若シ其定ナキトキハ取締役其定款ニ準據シテ之ヲ定ム

第四百四十八條 取締役ノ決議ヲ不當又ハ有害ナリトシテ異議ヲ述フル者アルトキハ農商務省ニ於テ雙方ヲ審判シタル後其理由ヲ示シテ之ヲ裁決ス

第四百四十九條 或ル商品ヲ小賣ノ外ハ取引所ニ非サレハ商フヲ得サルコトヲ官ヨリ規定スルコトヲ得

此規定ニ違フ者ハ二百圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ第二百六十一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第四百五十條 取引所ニ於テハ其賣買ヲ許サレタル商品ノ倉庫ヲ設置シ及ヒ指圖式ノ倉庫證書ヲ發行スルコトヲ得取締役又ハ取引所仲立人ハ其倉庫證書ニ對シテ前貸ヲ爲シ又ハ之ヲ買受クルコトヲ得

第四百五十一條 取引所仲立人ハ特ニ取引所仲立人トシテ官ノ認可ヲ受ケ且保證金ヲ差出シタル後取締役ヨリ其職ニ充テラルルモノトモ其仲立人ハ取引所ノ定款其他ノ章程ヲ遵守スルコトヲ誓フ可シ

第四百五十二條 仲立人組合ノ存在スル地ニ在テハ其組合取締役ノ中少ナクトモ一人ヲ取引所取締役ニ選ム可シ

第四百五十三條 取引所ハ其取引ノ範圍ニ應スル員數ノ仲立人ヲ置ク可シ

第四百五十四條 本法中仲立人ニ係ル規定ハ取引所仲立人モ之ヲ遵守ス可シ

第四百五十五條 仲立人、取引所仲立人及ヒ取引所ハ大藏省及ヒ農商務省ノ監督ヲ受ク

第五節 仲買人

第四百五十六條 仲買人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ計算ヲ以テ商業ヲ營ム商人タリ

第四百五十七條 仲買人ノ第三者ト取結ヒタル取引ノ効力ハ第三者ニ對シテハ委任者ノ委任又ハ承諾

○商法



ニ承諾セス

第四百五十八條 仲買人ハ委任者ノ與ヘタル委任ヲ遵守スル義務アリ其委任ノ踰越其他ノ過失ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テハ委任者ニ對シテ其責ニ任ス

第四百五十九條 仲買人事情避ク可カラザリシコトト委任者ノ爲メ更ニ大ナル損害ヲ防止シタルコトトヲ證明スルトキハ委任踰越ノ責ヲ免カル但委任者カ明示又ハ默示ニテ其委任ヲ必行ス可キコトヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十條 仲買人ハ委任踰越ニ因リテ委任者ノ損失ト爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ差額ヲ自己ニ負擔スルヲ以テ委任踰越ノ責ヲ免カルコトヲ得ス

第四百六十一條 仲買人ハ委任ニ背クニ因リテ委任者ノ利益ト爲リタル物價ノ差額其他計算上ノ差額ヲ自己ノ有ニ歸スルコトヲ得ス

第四百六十二條 第四百九條ノ規定ハ仲買人ニテモ之ヲ適用ス殊ニ仲買人ハ取引施行ノ前後ヲ問ハス常ニ遲延ナク委任者ニ必要ノ報知ヲ爲シ且運送、貯蔵、保險、賣買其他總テ商業上ノ作用ニ付ト十分ニ所有者ノ利益ヲ謀ル可シ

第四百六十三條 仲買人ハ必要ノ前貸金ヲ運搬ナク交付セラレ又ハ取引ヨリ生ス可キ自己ノ請求ニ對スル引當チ有シ若クハ擔保ヲ得タルトキハ總テ其營業ニ属スル委任ヲ引受クル義務アリ

第四百六十四條 仲買人委任ノ引受チ肯セサルトキハ直チニ之ヲ委任者ニ通知シ且寄託ノ貨物ヲ適當ニ保存スル義務アリ若シ其通知チ爲ササルトキハ委任施行ノ責ニ任ス

第四百六十五條 仲買人ハ別段ノ契約ナキトキハ委任者ニ又ハ委任者ノ計算ヲ以テ第三者ニ前貸チ爲ス義務ナシ然レトモ委任者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ其承諾ナキモ商慣習アルトキハ委任者ノ計算ヲ

以テ第三者ニ前貸チ爲シ又ハ信用ヲ與フル權利アリ

第四百六十六條 仲買人ハ第四十五條ノ規定ニ從ヒ第三者ノ支拂資力ニ付キ委任者ニ對シテ責ニ任ス然レトモ其責任ハ第三者カ責ニ任ス可キマテテ以テ限トス

第四百六十七條 委任者ハ仲買人ニ與ヘタル委任ノ未タ施行セサルモノニ限り何時ニテモ之ヲ停止シ又ハ變更スルコトヲ得

仲買人ハ第四百六十三條ノ規定ニ依リテ委任ノ引受チ拒ミ得ルトキニ限り解約チ申込ム權利アリ但正當ニ其申込チ爲シタル後ト雖モ惡意又ハ怠慢ニ付テハ委任者ニ對シテ仍ホ責ニ任ス

第四百六十八條 仲買委任ノ關係ハ一方ノ破産ニ因リテ終ル又死亡其他委任ヲ施行スルコト能ハサル事由ニ因リテハ此事由ニ基キテ其關係ヲ解クコトヲ一方ヨリ明會シタルトキニ限り終ルモノトス

第四百六十九條 仲買人ハ仲買取引ノ外自己ノ計算ヲ以テ同種類又ハ他種類ノ取引チモ爲ス權利アリ

前項ノ兩人ニシテ仲買取引ヲ營業ト爲ササル者ニハ第四百六十三條ノ規定ヲ適用セス

第四百七十條 仲買人委任者ニ於テ反對ノ明會チ爲ササルトキハ其受ケタル委任ヲ買主、賣主又ハ其他ノ者トシテ自己ノ計算ヲ以テ施行スルコトヲ得然レトモ委任者ニ對スル自己ノ權利及ヒ義務ハ變更スルコト無シ

第四百七十一條 前條ノ場合ニ於テハ仲買人ヨリ自己ノ計算ヲ以テ引受ケタル旨ノ通知チ委任者ニ發送シタル時直チニ其委任ヲ施行シタルモノト看做ス

第四百七十二條 仲買人ハ委任施行ノ後之ヲ委任者ニ通知シ其取引ノ資得金ヨリ自己ノ取分ヲ引去リテ之ヲ委任者ニ支拂ヒ又ハ其計算ニ立ツ可シ

○商法



第四百七十三條 委任者ノ計算ヲ以テ買入レ又ハ引受ケタル商品ハ委任ニ他ノ定ナキトキハ仲買人之  
ヲ委任者ノ成分ニ付シ其成分アルマテ適當ニ貯藏ス可シ其商品ノ運送ヲ周旋スル義務アルハ明示ノ  
委任アルトキニ限ル但自己ノ留置權ハ此カ爲メニ妨ケララルコト無シ

第四百七十四條 仲買人ノ取引ニシテ委任者ノ承認スル義務ナキモノハ其承認ナキニ拘ハラズ仲買人  
ノ計算ニ於テハ有効トス然レトモ第三百八十一條ノ規定ハ此カ爲メニ妨ケララルコト無シ又仲買人  
ハ委任者ニ總テノ損害ヲ賠償ス可シ

第四百七十五條 仲買取引ヨリ生シタル債權及ヒ債務ハ仲買人ノ直接ノ債權及ヒ債務タルヲ通例トス  
然レトモ仲買人其債權ヲ委任者ニ讓渡シ又ハ支拂資力ヲ失ヒタルトキハ委任者直チニ第三者ニ對シ  
テ其債權ヲ主張スルコトヲ得

第四百七十六條 仲買人ハ委任者ニ爲シタル前貸ノ償還ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ求ムル權利アリ

- 第一 必要又ハ有益ニシテ商慣習ニ適スルモノニ限り現ニ支拂ヒタル費用及ヒ立替金ノ償還
- 第二 各地慣習又ハ契約上ノ仲買手数料
- 第三 仲買人ニ於テ資力保護ヲ負擔シタルトキハ其保證料

仲買人ハ右ノ債權ニ付キ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒテ留置權ヲ有ス

第四百七十七條 仲買人ノ過失ニ非スシテ委任ヲ施行セザリシトキト雖モ仲買人ハ慣習アル地ニ限り  
仲買手数料ヲ求ムルコトヲ得但其額ハ通常手数料ノ半額ヲ超ユルコトヲ得ス

第四百七十八條 仲買人ハ仲買ノ爲メ取扱フ商品ニ自己ノ商標又ハ商號ヲ附スルコトヲ得  
然レトモ其商品ニ附シタル他ノ商人又ハ製造人ノ商標又ハ製造標ヲ其承諾ヲ得スシテ變更シ又ハ除  
去スルコトヲ得ス又他ノ商人又ハ製造人ヨリ出テタル仲買商品ニ出所ノ區別ヲ表セシテ自己ノ商

標又ハ商號ヲ附スルコトヲ得ス

第四百七十九條 仲買人或ル見本又ハ雛形ニ從ヒテ委任ヲ施行ス可キトキハ反對ノ明約ナキトキニ限  
リ正當ノ所有者又ハ製出者ニ依ルニ非サレハ其委任ヲ施行スルコトヲ得ス之ニ違フトキハ委任者ハ  
其商品カ見本又ハ雛形ニ適スルト否トヲ問ハス其契約ヲ解クコトヲ得

第四百八十條 書籍其他器械ヲ以テ複製スル學藝、技術上ノ製出物ノ發行引受ハ仲買營業ノ原則ニ依  
ル可シ

第六節 運送取扱人

第四百八十一條 運送取扱人ハ契約ニ從ヒ自己ノ名ヲ用井他人ノ計算ヲ以テ商品其他ノ物ノ運送取扱  
ヲ營業トスル商人ナリ

運送取扱人ハ其營業ノ外亦自己ノ計算又ハ他人ノ計算ヲ以テ他ノ商取引ヲ爲スコトヲ得

第四百八十二條 運送取扱人ハ運送貨ヲ約定シタルト否トヲ問ハス又其引受ケタル運送ヲ自己ノ運送  
具、賃借ノ運送具又ハ他人ノ運送具ヲ以テ施行スルト施行セシムルトヲ問ハス仲買人及ヒ運送營業  
人ト同一ノ責ニ任ス

第四百八十三條 運送取扱人ハ別段ノ契約ヲ爲ササルトキ又ハ直接ニ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ其運送  
ヲ遞次施行スル總テノ中間運送取扱人、代辦人、運送營業人其他ノ人ノ爲メ運送營業人タル責ニ任ス

第四百八十四條 運送取扱人ハ運送狀ヲ發行ス可シ其運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲クルコトヲ要ス

- 第一 年月日、運送取扱人ノ氏名及ヒ住所
- 第二 運送營業人ノ氏名及ヒ住所
- 第三 運送品ノ種類及ヒ重量

○商法



第四 行李アルトキハ其箇數、性質及ヒ記號

第五 約定シタル引渡ノ地及ヒ時

第六 運送貨

其他運送狀ニハ左ノ諸件ヲ掲クルコトヲ得

第一 運送品ノ價額

第二 名宛人ノ氏名

第三 引渡ヲ運送シタル場合ニ於テ支拂フ可キ損害賠償ノ額

第四百八十五條 運送狀ハ反對ヲ明記セサルトキハ指圖式トス又無記名式ニテ之ヲ發行スルコトヲ得

第四百八十六條 運送品ノ差出人ハ運送狀一通又ハ數通ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第四百八十七條 運送取扱人ハ其取結ヒタル總テノ運送取扱契約ヲ特設ノ帳簿ニ日日記入シ且其帳簿ヲ日閉鎖シテ之ニ署名捺印ス可シ各運送狀ハ其帳簿ノ記入ト同文ナルコトヲ要ス

第四百八十八條 運送狀ノ記入ニシテ運送取扱契約又ハ法律、命令ニ背戾スルモノハ無効トス

第四百八十九條 運送取扱人ハ左ニ掲クルモノヲ求ムルコトヲ得

第一 運送取扱人ヨリ運送品ニ對シテ爲シタル前貸及ヒ其立替ヘタル運送貨ノ價額

第二 運送取扱人ヨリ運送品ノ爲メニ支拂ヒタル必要又ハ有益ノ費用及ヒ立替金ノ雜費

第三 各地慣習又ハ契約上ノ運送取扱手数料但運送貨額ヲ定メタル場合ニ於テハ其手数料ヲ明約シタルトキニ限ル

運送取扱人ハ右ノ價額ニ付テハ第三百八十七條及ヒ第三百八十八條ノ規定ニ從ヒ運送品ニ對シテ留置權ヲ有ス

第四百九十條 運送取扱人ノ價額ハ特約アルニ非サレハ到達地ニ於テ運送品ヲ引渡ス際運送取扱人、其受次人又ハ約定シタル運送ノ全部若クハ一分ヲ施行シタル者ヨリ始メテ之ヲ主張スルコトヲ得

第四百九十一條 運送取扱人ノ責任ニ因リテ生スル請求又ハ抗辯ニ對シテハ運送取扱人及ヒ前條ニ掲ケタル各人ハ連帯且無條件ニテ其責ニ任ス

第四百九十二條 本節ノ規定ハ旅客ノ運送、新聞紙、電報、印刷物其他ノ物ノ送達或ニ廣告ノ取次其他ノ送達事業ヲ營業トスル人ニモ之ヲ適用ス然レトモ運送仲立人、代辦人、商事問合場及ヒ此類ノモノニハ之ヲ適用セス

第七節 運送人

第四百九十三條 運送人ハ陸上又ハ國內水上ニ於テ商品其他ノ物ノ運送ヲ營業トスル商人タリ

運送人ハ運送品ヲ引受ケタル時ヨリ其運送品ノ喪失、毀損及ヒ引渡ノ運送ニ付キ責ニ任ス但此事實カ差出人ノ過失、運送品ノ性質又ハ不可抗力ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十四條 運送品ノ引渡ハ約定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ又期間ノ約定ナキ場合ニ於テハ運送ヲ施行スル爲メ通例必要ナル期間ニ之ヲ爲ササルトキハ運送シタルモノトス

右ノ期間ハ孰レノ場合ニ於テモ運送狀ノ日附ヨリ若シ其日附ナキトキハ運送品ヲ引受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第四百九十五條 運送品ノ引渡ヲ運送シタルニ付テノ賠償額ハ運送貨ノ三分一トス但此額カ損害ノ割合ニ應セサルトキ又ハ別段ノ額ヲ約定シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十六條 運送品カ運送又ハ一分ノ喪失若クハ毀損ニ因リテ其価値却シ若クハ使用シ得ヘカラサルニ至リタルトキ又ハ少ナクモ其價額ノ四分三ヲ失ヒタルトキハ其運送品ヲ運送人ニ委付シテ

○商法

丙七十七



全價額ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

附七十八

第四百九十七條 運送品ノ各部又ハ各箇ノ喪失若クハ毀損ノ場合ニ於テ毀損セサル各部又ハ各箇ヲ其儘使用シ若クハ賣却シ得ヘカラサルトキハ其喪失若クハ毀損ニ因リテ運送品全部ニ付キ賦シタル價額ヲ賠償ス可シ然レトモ其毀損セサル各部又ハ各箇ノ價額カ運送品全部ノ價額ノ四分一ニ起エサルトキハ前條ノ規定ヲ適用ス

第四百九十八條 賠償額ハ商品ニ在テハ引渡地ノ商價額ニ從ヒ其他ノ運送品ニ在テハ引渡地ノ普通價額ニ從ヒ第三百二十四條ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス可シ但運送狀ニ此ヨリ高キ價額ヲ掲ケサルモノニ限ル

第四百九十九條 價額ニ付キ又ハ損傷ノ範圍ニ付キ當事者間ニ争ノ生スルトキハ鑑定人ノ鑑定ニ因リ之ヲ定ム其鑑定人ハ當事者之ヲ任シ若シ當事者同意スルコトヲ得サルトキハ其申立ニ因リテ裁判所之ヲ任ス

第五百條 金銀貨幣、貴金屬、寶石、金銀物、有價證券、證書類其他ノ高價物ニ在テハ其賠償ハ運送委託ノ際其物ノ性質及ヒ價額ヲ明告シ且適當ニ廣告シタル特別運送貨表ニ依リテ高價ノ運送貨ヲ承諾シタルトキニ限リ其實價ニ從ヒテ之ヲ求ムルコトヲ得

第五百一條 前條ニ掲ケサル運送品ニ在テハ運送人ハ豫メ適當ニ廣告シタル運送貨表ヲ以テ各行亭又ハ重量ニ付キ或ル金額マテニ限リ第四百九十八條ノ價額賠償ヲ解決ス可キ旨ヲ約定スルコトヲ得

第五百二條 前數條ニ掲ケタル賠償額ハ至當ノ理由ニ基キタル明示ノ契約ニ依ルニ非サレハ之ヲ増減スルコトヲ得ス

第五百三條 運送人ハ甚シキ怠慢又ハ惡意ニ因リテ總テノ場合ニ於テ第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ規定ニ從ヒテ十分ナル損害賠償ノ義務ヲ負フ

第五百四條 運送人ハ使用人其他自己ノ引受ケタル運送ヲ爲スニ當リ使用スル者ノ爲メ責任ニ任ス

第五百五條 或ル運送人ニ於テ引受ケタル運送之ニ次ク他ノ運送人ノ爲ストキハ其各運送人ハ運送シテ責任ノ全部ヲ負擔ス

第五百六條 運送人ハ運送ノ爲メ委託セラレタル貨物ニ付テハ差出人又ハ受取人ノ代辦人ト看做サレ差出人又ハ受取人ニ對シテ其貨物ノ保存及ヒ適當ナル運送ノ爲メニ必要ナル注意ヲ爲ス責任ニ任ス

第五百七條 第四百八十三條乃至第四百九十一條ノ規定ハ運送人ニモ之ヲ適用ス

第五百八條 差出人又ハ受取人ハ運送前ハ勿論運送中ト雖モ其約定シタル運送ノ施行ヲ止メ又ハ變更スル權利アリ然レトモ運送人ニ屬スル求償權ハ此カ爲メニ妨ケラルルコト無シ

第五百九條 不可抗力其他ノ意外ノ事ニ因リテ約束シタル運送ノ著手又ハ續行ヲ妨ケラレ又ハ之ヲ爲スコトヲ得ス若クハ其危險ナルニ至リタルトキハ雙方ニ於テ前條ト同一ノ權利ヲ有ス然レトモ此場合ニ於テ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル運送貨ノ支拂及ヒ費用又ハ立替金ノ賠償ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第五百十條 約定ノ運送ヲ爲サス又ハ中止シタルコトカ運送人ノ過失又ハ行為ニ出テタル場合ニ於テ其運送人カ他ノ適當ナル運送人ヲ任セサルトキハ差出人又ハ受取人ハ契約ヲ解除シ又ハ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第五百十一條 運送人カ運送品又ハ運送狀ヲ最初ニ定メタル受取人ニ交付セサル間ハ差出人ハ運送前ト運送中トナ間ハ其運送品ニ付キ運送狀ニ掲ケタルモノニ異ナレル處分ヲ爲スコトヲ得

第五百十二條 運送人ハ其求メラレタル運送力特別ナル危險ヲ免カルルコトヲ得サルトキ又ハ其平常

○商法

丙七十九



為ス運送營業ニ屬セサルトキノ外ハ適法ノ理由アルニ非サレハ其運送委託ノ引受ヲ拒ミ又ハ其引受  
ヲ困難ナル條件ニ懸ラシムルコトヲ得ス殊ニ非常ノ情況アルトキノ外ハ運送具又ハ運送設備ノ不完  
全ナルヲ以テ口實ト為スコトヲ得ス

第五百十三條 運送狀又ハ其他ニ指名シタル受取人ハ自己ノ名ヲ以テスルト他人ノ名ヲ以テスルトナ  
開ハス到達地ニ於テ運送狀ニ從ヒ運送人ニ對シテ運送契約ヨリ生スル債權ヲ主張スルコトヲ得

第五百十四條 運送狀又ハ其他ニ指名シタル受取人カ運送品ノ引受若クハ差出人ノ附シタル條件ノ履  
行ヲ拒ムトキ又ハ運送貨其他運送人ノ正當ナル債權ノ支拂ヲ為ササルトキ又ハ其受取人ヲ提出スル  
ヲ得サルトキハ運送人ハ運送品ヲ公ノ倉庫ニ寄託シ又ハ裁判所ノ命令ニ依リテ他人ニ寄託シ及ヒ館  
三百九十二條ノ規定ニ從ヒ其總價額ノ額ニ滿ソルマテ之ヲ發却スルコトヲ得

第五百十五條 受取人留保ヲ為サスシテ運送品ヲ受取り及ヒ運送人ニ支拂ヲ為シタルトキハ運送人ニ  
對スル總テノ請求權ハ消滅ス

第五百十六條 喪失、毀損又ハ迂延ノ為メ運送人ニ對スル總テノ既及ヒ抗辯ノ權ハ運送品ノ引渡ヲ為  
シタル日又全部喪失ノ場合ニ於テハ其引渡ヲ為ス可カリシ日ヨリ一个年ヲ以テ時効ニ罹ル

第八節 旅客運送

第五百十七條 陸上又ハ國內水上ニ於テ通例運送貨ヲ受ケテ旅客ヲ運送スル者ハ其運送ヲ為スニ當リ  
テ旅客ノ為メ至重ノ注意ヲ為ササルニ因リテ之ニ加ヘタル身體上ノ傷害ニ付キ賠償ヲ為ス義務アリ  
但爭アル場合ニ於テハ自己ノ過失ニ非サルヲ證明スルコトヲ要ス

第五百十八條 損害賠償ハ傷害ヲ被リタル者ニ生セシメタル治療費及ヒ特別ノ給養費ノ賠償ト慰籍  
金トヲ包括ス其慰籍金ハ災害ノ結果ノ輕重、長短及ヒ罹災者ノ所得ノ關係ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第五百十九條 災害ノ為メ死亡シ又ハ永久ノ癱疾、不具若クハ所得無能カト為リタルトキハ慰籍金ノ  
額ハ尙ホ罹災者ノ家族ノ生計ノ需用ヲモ斟酌シテ之ヲ定ム

第五百二十條 旅行行李ニ付テハ旅客カ携帶スルト否ト又別段ノ報酬ヲ支拂フト否トヲ問ハス之ヲ旅  
客運送人ニ交付シ且必要ノ場合ニ於テ其性質及ヒ價額ヲ明告シタルトキハ旅客運送人ハ運送人ト同  
一ノ責ニ任ス

第五百二十一條 手荷物ニ付テハ旅客運送人ハ過失ノ責ノ自己ニ歸スル場合ニシテ其手荷物カ現實且  
相當ノ旅行需用ヲ充タスニ必要ナルモノニ限リ賠償ノ責ニ任ス

第五百二十二條 旅行行李ハ別段ノ委託ナキトキハ旅行ノ終ニ於テ之ヲ旅客ニ交付シ若シ交付スルコ  
トヲ得サルトキハ三日間保護ス可シ此期間ノ満了後ハ旅客運送人ノ責任ハ第三百四條ノ規定ニ從フ  
第五百二十三條 前諸條ノ外ハ旅客及ヒ行李ノ運送ニ付キ前節ノ規定ヲ適用ス其旅客ノ衣服又ハ器具  
ニ對シテハ留置權ヲ行フコトヲ得ス

第五百二十四條 旅客及ヒ行李ニ付テノ責任ハ運送貨ヲ前拂ニ為シタルト否トニ拘ハラヌ又之ヲ支拂  
フコトヲ要セサル場合ト雖モ仍ホ存スルモノトス

第九章 賣買

第一節 賣買契約

第五百二十五條 契約取結ノ時現ニ存在シ且賣主ニ處分權ノ屬スル物ニ非サレハ賣買契約ノ目的物タ  
ルコトヲ得ス

第五百二十六條 他人ノ物ト雖モ其占有ヲ正當ノ方法ヲ以テ取得シタル者ハ所有權移轉ノ時ニ於テ買  
主善意ナルトキハ之ヲ買買スルコトヲ得但無記名證券ヲ除ク外盜品又ハ紛失品ハ此限ニ在ラス

○兩法



第五百二十七條 契約取結ノ時現ニ存在スルモ天然ノ原因ニ由リテ未タ引渡ス能ハサル物ノ買買契約ハ其物カ引渡スヲ得ヘキモノト爲ラハトノ條件ヲ以テスル契約タリ但當事者カ他ノ意思ヲ有スルトキハ此限ニ在ラス

第五百二十八條 契約取結ノ時既ニ存在セサル物ノ買買契約ハ雙方孰レモ此事實ヲ知ラス且其存在ノ確實ナラサルコトヲ認メテ之ヲ取結ヒタルトキハ有効トス

第五百二十九條 賣主カ買戻ヲ約定スル買買契約ハ差額取引又ハ違法ノ高利取引其他ノ不法ノ取引ヲ目的トシテ之ヲ取結ヒタルトキハ無効トス

第五百三十條 初ヨリ履行ノ意思ナクシテ取結ヒ又ハ取得若クハ讓渡ヲ禁セラレタル物ニ付キ取結ヒタル買買契約ハ無効トス

第五百三十一條 買主ハ買買契約ノ取結ニ因リ又條件附契約ノ場合ニ於テハ其條件ノ成就ニ因リ又物ヲ先ツ量定シ若クハ分割スルコトヲ要スルトキハ其量定、分割若クハ符記ニ因リテ物ノ所有者ト爲リ且其喪失若クハ毀損ノ危険ヲ負擔ス

二人以上ニ属スル共有物ノ持分ヲ賣渡スニ付テハ豫メ其量定若クハ分割ヲ爲スコトヲ要セス

第五百三十二條 照檢又ハ嘗試ノ上ニテ爲ス買買契約ハ買主カ其物ヲ承諾セハトノ條件ヲ以テ之ヲ取結ヒタリト看做ス

買主カ契約若クハ商慣習ニ因リテ定マリタル期間又ハ照檢若クハ嘗試ノ爲メ必要ナル期間ニ其承諾ヲ達ヘサルトキハ條件ハ成就セサリシモノト看做ス之ニ反シテ照檢又ハ嘗試ノ爲メ買買物ヲ買主ニ引渡シタル場合ニ於テ買主カ右期間ノ満了マテニ承諾ヲ達ヘス又其物ヲ賣主ニ還付セサルトキハ條件ハ成就シタルモノト看做ス

第五百三十三條 商標、見本、雛形又ハ試品ヲ以テ爲ス買買契約ハ無條件ノモノニシテ此契約ニ依リテ賣主ハ物カ商標、見本、雛形又ハ試品ニ適合ス可ク且別段ノ契約アルニ非サレハ其物カ商標、見本、雛形又ハ試品ノ所有者又ハ製出者ニ由來ス可キ義務ヲ負フ

第五百三十四條 物ヲ照檢ノ後無條件ニテ賣買シタルトキハ賣主ハ自己ノ詐欺又ハ買主ノ重罪ナル錯誤アル場合ノ外ハ其擔保ヲ引受ケ又ハ買主ニ隱蔽シタル欠缺若クハ瑕疵ニ付テノミ責任ヲ負フ買主ハ欠缺若クハ瑕疵ノ些少ナルトキ又ハ賣主ニ過失ナキトキハ代價ノ相當ナル減少ノミヲ求ムルコトヲ得

第五百三十五條 商品及ヒ代價ヲ明細ニ記載シテ見本、雛形、試品、商品目錄其他ノ取引上ノ通告書ヲ指定セル人ニ送付シタルトキハ其送付ハ羈束セラルル提供ト看做ス但送付者カ其提供ヲ變更スル權利ヲ留保シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十六條 契約取結ノ後直チニ賣主ハ物ヲ引渡シ及ヒ代價ヲ受取リ買主ハ物ヲ受取リ及ヒ代價ヲ支拂フ可キ權利及ヒ義務アリ但契約又ハ商慣習ニ依リテ此義務ノ履行ノ爲メ或ル期間ノ存スルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十七條 別段ノ定例、契約又ハ商慣習ナキトキハ物ノ引渡ハ賣主ノ費用ヲ以テ之ヲ爲シ其受取、檢査及ヒ代價支拂ハ買主ノ費用ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百三十八條 物ノ引渡マテハ賣主ハ至重ノ注意ヲ爲ササルニ因リテ生シメタル喪失又ハ毀損ニ付キ買主ニ對シテ責任ヲ負フ但買主カ受取ヲ遲延シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十九條 契約取結ノ前豫メ物ヲ買主ニ引渡シタルトキハ買主ハ賣主ニ對シテ前條ニ掲ケタル責任ヲ負フ

○商法



第五百四十條 契約取結ノ時物カ第三者ノ手ニ存在スルトキハ其第三者ハ賣主ニ引渡スト同様ニ其物ヲ買主ニ引渡ス義務アリ

第五百四十一條 代價ヲ明示ニテ定メサリシ場合ニ於テ當事者ノ別段ノ意思ナキトキハ履行ノ時及ヒ地ニ於ケル市場代價又取引所ニ於テ發賣スル物ニ在テハ取引所相場代價ヲ支拂フコトヲ要ス

買主ハ別段ノ契約又ハ商慣習ナキトキハ物ノ引渡前ニ代價ヲ支拂フ義務ナシ

第五百四十二條 買主ハ物ノ欠缺若クハ瑕疵又ハ引渡ノ遅延ニ付キ仲立人ヲシテ賣主ノ費用ヲ以テ故隱證書ヲ作ラシメ之ヲ賣主ニ送付スル權利アリ

第五百四十三條 別段ノ契約ナキトキハ賣主ハ履行ノ時及ヒ地ニ於テ普通ナル品質ノ商品ヲ引渡ス義務アリ

右ノ規定ハ罐、箱其他ノ容器、外包ニシテ商品ノ引渡若クハ轉賣ノ用ニ供スルモノ又ハ運送ノ用ニ供スル外包ニシテ商品ノ形状、性質ヲ保全スルニ必要ナルモノニモ之ヲ適用ス

第五百四十四條 買主商品ヲ受取りタルトキハ即時ニ其分量及ヒ品質ヲ検査シ欠缺又ハ瑕疵アラハ之ヲ賣主ニ通知スル義務アリ

後ニ至リ發見シタル欠缺又ハ瑕疵ニ付テハ賣主カ擔保ヲ引受ケ若クハ詐欺ヲ行ヒ又ハ買主カ商品ノ性質ニ因リ即時検査ヲ爲ス能ハサリシ場合ニ於テ其發見後直チニ通知ヲ爲シタルニ非サレハ買主ハ既又ハ抗辯ヲ以テ其權利ヲ主張スルコトヲ得ス

第五百四十五條 賣主カ契約ノ一分ノミヲ履行シタルトキハ買主ハ其全部ヲ解除スルコトヲ得但當事者ノ意思ニ依リテ一分ノ履行ヲ爲シ得ヘキトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テハ代價ハ其爲シタル履行ノ割合ニ應シテ之ヲ支拂フコトヲ得

若シ賣主カ完全ノ履行ヲ爲シタル場合ニ於テ買主カ代價ノ一分ノミヲ支拂ヒタルトキハ賣主ハ第三百二十三條ニ掲ケタル權利ヲ主張シ又ハ其支拂ヲ受ケサル部分ヲ取戻シテ之ヲ自己又ハ買主ノ計算ニテ賣却スルコトヲ得

第五百四十六條 風袋ノ重量ハ明示ノ契約又ハ商慣習アルニ非サレハ商品ノ重量ニ算入スルコトヲ得ス

風袋ノ重量トシ又ハ損敗、毀損ノ部分トシテ買主ニ増數若クハ増量ヲ與フルヤ否ヤ及ヒ其多少ハ契約又ハ商慣習ニ從フ

第五百四十七條 買主ヨリ物ノ欠缺又ハ瑕疵ニ付テ通知若クハ故障ヲ受ケタルトキハ賣主ニ於テモ仲立人其他ノ鑑定人ヲシテ其物ノ現状及ヒ品質ヲ検査セシムルコトヲ得

第五百四十八條 當事者又ハ其鑑定人ニ於テ協議調ハサルトキハ裁判所ヨリ任スル鑑定人其物ノ現状又ハ品質ヲ査定ス

第五百四十九條 買主カ物ノ受取ヲ拒ムトキハ遅延ナク其物ヲ賣主ノ處分ニ付スルコトヲ要シ又此處分ヲ爲シ又ハ當ニ爲スヘキニ至ルマテ其貯蔵ニ注意スルコトヲ要ス

買主ハ賣主ノ委託アルニ非サレハ其物ヲ賣主ニ送還スル權利及ヒ義務ナシ

第五百五十條 買主ハ其拒ミタル物ノ代價ヲ既ニ支拂ヒタルトキ又ハ其物カ損敗シ若クハ價ヲ失フニ至ル可キモノナルトキハ賣主ノ計算ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得買主ノ利益ノ爲メニスル賣却ニ在テハ第三百九十二條ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五百五十一條 買主ハ賣主ニ對シテ運クトモ物ノ引渡マテニ送品勸定書ヲ得ント求メ又代價支拂ノ爲メ受取證書ヲ得ント求ムルコトヲ得

○商法



第二節 供給契約

第五百五十二條 供給契約ハ契約取結ノ時未タ現存セサル物又ハ賣主ニ處分權ノ屬セサル物又ハ仍ホ運送中ニ在ル物又ハ指圖證券、無記名證券ヲ以テ若クハ必要ナル名前書替ヲ以テ引渡ス可キ物ノ賣買契約タリ

第五百五十三條 供給契約ハ雙方ヲ纏束ス然レトモ物ノ所有權及ヒ危險ハ其物ヲ引渡スニ因リ始メテ買主ニ移ル

第五百五十四條 天然ニハ現在スト雖モ未タ人ノ威力内ニ在ラサル物ハ之ヲ現存セサルモノト看做ス第五百五十五條 買主ニ引渡スニ至ルマテ其送付ニ付キ賣主カ責任ヲ負フ物ハ之ヲ運送中ニ在ル物ト看做ス

運送中ニ在ル物ヲ指圖證券、無記名證券ヲ以テ又ハ其他ノ間接ノ方法ヲ以テ賣渡シタルトキハ賣主ハ其物ノ引渡ニ至ルマテ全部ノ喪失又ハ毀損ノ危険ヲ負擔ス又買主ハ一分ノ喪失又ハ毀損ニ付テハ代價ノ相當ナル減少ヲ請求スルコトヲ得

第五百五十六條 指圖證券、無記名證券等ヲ以テスル供給契約ノ場合ニ在テハ此證券等ニ基キテ物ヲ引渡ス義務アル第三者ニ買受代價ヲ支拂フニ因リテノミ其物ヲ買主ニ引渡スコトヲ得ルハ契約又ハ商慣習アルトキニ限ル

供給契約ノ目的物ニ質權ノ存スルトキハ尙ホ第三百七十七條ノ規定ヲ遵守スルコトヲ要ス

第五百五十七條 指圖證券、無記名證券等ニ基キテ引渡ス可キ物ノ引渡ヲ得サルトキハ買主ハ供給契約ヨリ生スル權利ヲ賣主ニ對シテ行フコトヲ得但當事者ノ意思又ハ取引ノ性質ニ因リテ賣主カ責任ヲ免カル可キトキハ此限ニ在ラス

第五百五十八條 本節ノ規定ノ外賣買契約ノ原則ハ供給契約ニモ之ヲ適用ス

第三節 競賣

第五百五十九條 他人ノ爲メ公ノ競賣ヲ爲スチ營業トスル者ハ其受ケタル競賣ノ委託ヲ適法ノ理由ナクシテ拒ムコトヲ得ス

第五百六十條 取引所ニ於テ爲ス競賣ハ取引所仲立人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十一條 支拂資力ナキコト又ハ惡意アルコトニ付キ理由アル嫌疑ノ存セサル者ハ公ノ競賣ニ於テ競買スルコトヲ得

第五百六十二條 競賣人ハ自己ノ爲メニ競買ヲ爲スコトヲ得ス又賣主ハ競買ヲ爲ス權利ヲ明示シテ留保シ且詐欺ニ因リテ代價ヲ昂ラシムル目的ナキニ限り競買ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條 明示ノ留保ナキトキハ競賣ニ付シタル物ハ其期日ニ於テ最高額ノ競買人ニ競落セラ

第五百六十四條 競落カ最終ノ競買人ニ歸シタルトキハ競賣ノ各箇ノ物又ハ番號ニ付キ賣買契約ヲ取結ヒタルモノトス

第五百六十五條 二人以上同時ニ最高ノ價額ヲ呼ビタル場合ニ於テ物ヲ共同シテ取得スルコトヲ欲セサルトキハ競落ハ其者ノ中更ニ最高價ノ競買ヲ爲ス者ニ歸ス

第五百六十六條 最終ノ競買無効ナルトキ又ハ競賣人之ヲ承諾セサルトキハ其競落ハ之ニ次ク最高價ノ競買人ニ歸ス

第五百六十七條 各競買人ハ競賣前ニ競賣人ヨリ公告シタル競賣ノ條件ニ服従ス可シ但其條件カ違法ノモノナルトキハ此限ニ在ラス

○商法



印刷シ又ハ其他書面ニテ定メタル條件ハ競賣人ノ口頭陳述ヲ以テ之ヲ變更シ又ハ廢止スルコトヲ得

第五百六十八條 競賣人ハ競買ニ付キ及ヒ賣買契約ノ取結或ニ履行ニ付キ買主ノ代理ナモ引受クルコトヲ得然レトモ競賣ノ爲メ委託セラレタル物ヲ競賣スル以前ニ其物ニ對シテ賣主ニ前貸ヲ爲ス權利ナシ

第五百六十九條 競賣ノ費用ハ賣主ニ於テ之ヲ負擔スルコトヲ要ス但別段ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十條 競賣人ハ契約上又ハ慣習上ノ競賣手数料ト競賣ニ付キ支拂ヒタル費用及ヒ立替金ニシテ競賣手数料中ニ包含セサルモノノ賠償トテ賣主ニ對シテ請求スルコトヲ得又競賣人ハ此債權ノ爲メ及ヒ適法ニ賣主ニ爲シタル前貸ノ爲メ競賣物又ハ其代價ニ付キ留置權ヲ有ス

第五百七十一條 競賣人ハ賣主ニ對シテ怠慢、不熟練又ハ惡意ニ因リテ加ヘタル損害ニ付キ責任ヲ負フ

第四節 取戻權

第五百七十二條 賣買契約ノ取結後買主其支拂ヲ停止シ又ハ其取結前既ニ支拂停止ト爲リタルコトヲ賣主ノ知リタル場合ニ於テ賣主カ他ノ方法ヲ以テ十分ナル支拂又ハ擔保ヲ受ケサルトキハ賣主ハ買主又ハ其指圖シタル人ニ宛テタル運送中ノ賣買物ヲ取戻スコトヲ得但未タ買主若クハ其代人ノ占有ニ移ラサルモノ又ハ買主若クハ其代人カ有効ニ總收シ若クハ買入セサルモノニ限ル

第五百七十三條 總買ハ後ノ買主善意ニシテ且其代價ノ相當及ヒ眞實ナルトキニ限り有効トス若シ未タ其代價ヲ支拂ハサルトキハ初ノ賣主ハ自己ノ債權ノ額ニ滿ソルマテ後ノ買主ニ對シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ得

第五百七十四條 取戻權ハ賣主カ掛買ヲ爲シ又ハ一分ノ支拂ヲ受ケ又ハ買主ト交互計算ノ關係ヲ有スルニ因リテ之ヲ失フコト無シ然レトモ賣主カ爲替手形ヲ提出シ又ハ手形其他ノ信用證券ヲ買主ヨリ受取り代價全額ノ支拂ニ充テタル場合ニ於テ此等ノ證券ニ義務者トシテ買主若クハ其代人ノ外第三者ノ署名アルトキハ取戻權ヲ失フ

第五百七十五條 買主ノ支拂停止ニ至ラントスルニ付キ理由アル嫌疑アルトキ又ハ切迫ナル取引情況ノ爲メ支拂停止ヲ爲スコトノ測リ難キトキハ眞ノ支拂停止ヲ爲シタルニ同シ

第五百七十六條 貨物ヲ買主ノ倉庫ニ入レ又ハ買主ノ名ヲ以テ倉庫ニ寄託シタルトキハ運送貨、關稅其他貨物ノ負擔スル費用ヲ支拂ヒタルト否トヲ問ハス買主又ハ其代人ニ於テ占有ヲ得タリト見做ス

第五百七十七條 取戻權ハ運送ニ因リ又ハ運送ニ關シ貨物ノ負擔スル費用、立替金其他ノ債務殊ニ運送貨、仲買手数料、運送取扱手数料、關稅、保險料若クハ海損共擔金ノ支拂又ハ償還ヲ爲スニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五百七十八條 取戻權ハ貨物發渡ノ委任ヲ受ケタル仲買人又ハ其代人カ既ニ貨物ヲ占有シ又ハ之ヲ第三者ニ賣リタルトキト雖モ委任者ヨリ其仲買人又ハ其代人ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得貨物買受ノ委任ヲ受ケタル仲買人ヨリ其委任者ニ對シテモ亦同シ

第五百七十九條 取戻權ハ左ノ場合ニ於テ亦之ヲ行フコトヲ得

第一 手形其他ノ信用證券ニ關シテハ或人カ他ノ者ノ債務者ニ非スシテ交互計算ノ爲メ又ハ貯藏、取立若クハ保證ノ爲メ又ハ支拂ヲ爲サシメシカ爲メ之ヲ他ノ者ニ送り且其證券カ未タ金錢ニ交換セラレヌシテ受取人ノ方ニ存在スル場合

○商法



第二 金錢ニ關シテハ或人カ前號ト同一ノ目的ヲ以テ之ヲ他ノ者ニ送リ其金錢カ未タ受取人ニ送  
セヌ又ハ送シタル後其受取人ノ自己ノ計算ニ移サス若クハ之ニ付キ其他ノ處分ヲ爲ササル場  
合

第十章 信用

第一節 消費貸借

第五百八十條 消費貸ハ債權者ヨリ又ハ債權者ノ計算ヲ以テ他人ヨリ債務者ニ又ハ債權者ノ計算ヲ以  
テ他人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第五百八十一條 債務者ノ計算ヲ以テスル前貸若クハ支拂又ハ定マシタル義務ノ引受ハ直接ノ契約ニ  
出ツルト其他雙方間ニ存在スル契約關係ニ出ツルトナ間ハ消費貸ニ同シ

第五百八十二條 債務者ハ常ニ同種ノ同量ノ物ヲ償還スル義務アリ但同種ノ同量ノ償還ヲ爲スコトヲ得  
ヌ又ハ當事者ノ意思ニ依リテ爲スコトヲ要セサルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十三條 商品又ハ有價證券ノ消費借ニ付テハ債務者ハ別段ノ契約ナキトキ又ハ特定物ナルト  
キハ其領收ノ時ト地トニ於ケル價額ヲ償還スルコトヲ要ス

第五百八十四條 債務者ノ名ヲ記シタル信用證券又ハ債務者ノ計算ヲ以テ發行シタル信用證券ハ債務  
者其金額ヲ償還スル義務アルトキニ限り債務者ニ於テ又ハ債務者ノ計算ヲ以テ之ヲ讓渡シ又ハ其他  
ノ方法ニテ之ヲ付與スルニハ券面記載ノ滿額ヲ以テスルコトヲ要ス之ニ違フトキハ其證券ヲ無効ト  
ス然レトモ割引ヲ爲スコトハ此カ爲メニ妨ケラレルコト無シ

第五百八十五條 裏書讓渡ス可キ信用證券其他流通ス可キ信用證券ヲ以テ消費貸ヲ爲シタルトキハ右  
證券ニ債權者又ハ債務者トシテ記載セラレタル者ヲ以テ債權者又ハ債務者ト看做ス

第五百八十六條 債務者ハ明示ノ契約ナキモ其消費借ヲ償還スル義務アリ但反對カ當事者ノ意思又ハ  
其取引ノ性質ニ依リテ推知スルコトヲ得ヘキトキハ此限ニ在ラス

第五百八十七條 債務者カ約定ノ豫告又ハ相當ノ豫告ノ後何時ニテモ消費借ヲ償還スル權利ハ豫メ契  
約ヲ以テ之ヲ奪フコトヲ得ス然レトモ別段ノ契約ナキトキハ債務ノ主タルモノ及ヒ從タルモノヲ割  
引ナク一回ニ償還スルニ非サレハ債權者之ヲ領收スルコトヲ要セス

第五百八十八條 無期ノ消費借ニ於テハ債務者ハ相當ノ豫告ノ後何時ニテモ之ヲ償還スルコトヲ得然  
レトモ債權者ハ相當ノ豫告ノ後ニシテ且惡意ナキトキニ非サレハ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第五百八十九條 第五百八十五條ノ場合ニ於テハ償還ノ義務ハ期間ヲ定メテノミ之ヲ約定スルコトヲ  
得

第五百九十條 元債ノ償還ハ若シ債務者カ契約上負擔シタル利息ノ支拂ヲ二期以上遲延シ又ハ支拂停  
止ト爲リ又ハ資産上切迫ナル情況ニ至リタルトキハ反對ノ契約アルニ拘ハラズ約定期間ノ滿了前ニ  
之ヲ求ムルコトヲ得

第五百九十一條 第五百八十一條ノ場合ニ於テハ債權者ト債務者トノ間ニ存スル契約關係ニ準據シテ  
ノミ債權ヲ主張スルコトヲ得

第五百九十二條 總テ消費貸又ハ他人ノ爲メニスル資本ノ交付若クハ使用付ニテハ取引ノ性質ニ依リ  
テ定マリタル慣習上ノ利息ヲ求ムルコトヲ得但明示ノ契約又ハ前條ノ規定ニ反スルトキハ此限ニ在  
ラス

第五百九十三條

滿期ト爲リタル利息カ差引殘額ノ計算若クハ其他ノ清算ニ因リ又ハ特別ノ契約ニ因  
リテ元債ニ組入レラレタルトキハ其利息ノ利息ヲ求ムルコトヲ得



第五百九十四條 元債金額ノ償還ニ對スル單一ナル受取證書ハ其利息ヲモ併セタル受取證書ト看做ス  
第五百九十五條 任意ニ支拂ヒタル利息ハ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第五百九十六條 債權者ハ直接ノ償還ヲ受クルニ換ヘ主タルモノ及ヒ從タルモノヲ併セタル債務ノ額ニ滿ソルマテ自己ノ計算ヲ以テ他人ニ支拂ヲ爲シ又ハ手形若クハ支拂手形ノ引受者クハ支拂ヲ爲シ又ハ其他債務ノ擔任ヲ爲ス可キコトヲ債務者ニ對シテ求ムルコトヲ得又債務者ハ債權者ニ對シテ第五百八十一條ニ準據シテ計算セシムルコトヲ得

第二節 信用約束

第五百九十七條 信用ヲ與フル約束ハ之ヲ取消ササル間ハ他ノ契約ノ附從トシテモ獨立ノ約束トシテモ其効力ヲ有ス

第五百九十八條 債務ノ支拂者クハ保證ノ爲メ或ル額ニ付キ債權者ニ信用約束ヲ爲シタル明約又ハ情況アルトキハ其約束ハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百九十九條 或ル額ニ付キ引受ケタル獨立ノ信用約束ハ受信用者カ其約束ニ對シテ負擔シタル義務ヲ履行セス又ハ支拂停止ト爲リ又ハ取引上切迫ナル情況ニ至リ且與用信者ノ爲メ十分ナル引當若クハ擔保ノ備ハラサルトキニ限り之ヲ取消スコトヲ得

第六百條 信用約束ハ額ヲ定ムルモ定期ニテモ無期ニテモ條件附ニテモ無條件ニテモ人ヲ特定シテモ指圖式ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第六百一條 相互ノ信用約束ハ變務契約ノ原則ニ從ヒ各當事者ヲ羈束ス然レトモ第五百九十九條ノ場合ニ於テハ其約束ヲ取消スコトヲ得

第六百二條 寄託物其他ノ金額又ハ有價物ヲ交互計算ニ於テ領收シタルトキハ信用ノ成分シ得ヘキ額

ナ限トシテ默示ノ信用約束ヲ爲シタリト看做ス

第六百三條 信用約束ニ付テノ利息又ハ手数料ハ疑ハシキ場合ニ於テハ其約束ニ依リ現ニ與ヘタル信用ノ割合ニ應ジテノミ之ヲ求ムルコトヲ得

第六百四條 支拂手形又ハ信用證券ヲ以テ信用約束ヲ爲シタルトキハ其發行人ハ受信用者ニ對シテ履行ノ責ヲ負ヒ且自己ノ計算ヲ以テ其履行ヲ爲スモノトス然レトモ其支拂手形又ハ信用證券ニ對スル第三者ノ引受ハ之ヲ新ナル信用約束ト看做ス

第六百五條 他人ノ委託ヲ受ケテ信用約束ヲ爲シタルトキハ其委託者ヲ受信用者ノ保證人ト看做ス  
第六百六條 或ル額ニ付キ與信用ノ爲メ二人ヲ紹介スルハ之ヲ信用委託ト看做ス但其紹介ヲ留保ナクシテ爲シタルトキニ限ル

第三節 寄託

第六百七條 他人ノ物ヲ貯藏ノ爲メ領收シタル者ハ自己ノ所有物ニ付テ爲スト同一ノ注意ヲ加ヘテ寄託者ニ其物ヲ還付スル責任アリ

第六百八條 他人ノ物ノ貯藏ノ爲メ報酬ヲ受クル者又ハ其貯藏ニ付キ明示シテ責任ヲ負擔スル者又ハ其物ヲ貯藏ノ爲メノミナラス管理ノ爲メニ領收スル者又ハ其物ノ貯藏若クハ管理ヲ以テ營業ト爲ス者又ハ自己ノ營業ニ因リテ他人ノ物ノ寄託ヲ受クル者ハ寄託者ニ對シテ至重ノ注意ヲ爲ス義務ヲ負フ

第六百九條 旅店主、飲食店主、浴場營業者其他他人ヲ自家ニ引受クル營業者ハ客ノ持込ミテ此等ノ者ノ方ニ置キタル物ニ關シテハ其喪失又ハ損害ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ無責任ノ告示ヲ爲スモ客ニ自身ノ注意ヲ備カスモ又此等ノ者又ハ其使用人ノ過失アルトキハ契約ヲ以テモ之ニ免カルコトヲ得

○商法



ス大金及ヒ特ニ貴重ナル物ハ之ヲ明告シテ特別ナル貯蔵ノ爲メ交付スルコトヲ要ス

第六百十條 受託者ハ契約ニ從ヒテ又他人ノ物ノ貯蔵又ハ管理ヲ營業トスルトキハ契約ナシト雖モ受託料ヲ求ムルコトヲ得又總テノ場合ニ於テ必要ナル立替金ノ賠償及ヒ寄託者ノ過失ニ因リテ被フリタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

受託者ハ其價權ノ爲メ寄託物ニ對シテ留置權ヲ有ス

第六百十一條 寄託物ハ有期ト無期トヲ問ハス第六百十七條ノ場合ヲ除ケ外ハ豫告ナクシテ何時ニテモ其還付ヲ求ムルコトヲ得

第六百十二條 無期ノ寄託物ハ何時ニテモ受託者之ヲ還付スルコトヲ得但相當又ハ約定ノ豫告期間ニ從フコトヲ要ス

第六百十三條 物ヲ二人以上共同シテ寄託シタル場合ニ於テ別段ノ契約ナキトキハ各人ヨリ其物ノ還付ヲ求メ又各人ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第六百十四條 寄託中寄託物ヨリ生スル果實又ハ利益ハ別段ノ契約アルニ非サレハ寄託者ニ屬ス

第六百十五條 物ノ種類ノミヲ定メ數量ヲ以テ之ヲ寄託シタルトキハ同一ノ數量ヲ以テノミ還付ヲ求ムルコトヲ得但物ノ性質ニ於テ特定物ト看做ス可キトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 二人以上ノ寄託者ノ代替物カ互ニ混合シタルトキハ各寄託者ハ其寄託シタル數量ノ割合ニ應ジテ混合物ノ共有者ト爲リ且其割合ニ應ジテ混合物全部ノ喪失又ハ毀損ノ危険ヲ負擔ス

第六百十七條 契約又ハ商慣習ニ依リ使用權又ハ處分權カ受託者ニ屬ス可キ方法ヲ以テ代替物ヲ寄託シタルトキハ受託者カ受託料ヲ受クルト否ト又寄託者ニ利息ヲ支拂フト否トヲ問ハス其物ノ所有權及ヒ其物ノ喪失若クハ毀損ニ係ル危険ノ全部ハ受託者ニ移ル

第六百十八條 特定物ニ付キ受託者カ其物ヲ使用スルコトヲ得ルト否トハ專ラ當事者ノ意思ニ從ヒテ之ヲ定ム

第六百十九條 反對ノ明約ナキトキハ封セサル金錢又ハ貴金屬ノ寄託物ハ常ニ受託者ノ所有物ト看做シ又封セサル有價證券ノ寄託物ハ其證券ヲ寄託者ヨリ定マラザル相場ニテ受託者ニ交付シタルトキニ限り受託者ノ所有物ト看做ス

第六百二十條 受託者ハ自己ニ所有權ノ移リタル寄託物ニ付テハ明約アルトキニ限り利息ヲ支拂フコトヲ要ス又明約又ハ慣習アルトキニ限り報酬ヲ求ムルコトヲ得

第六百二十一條 寄託物ノ受取證書ハ寄託者ノ名ヲ以テモ指圖式ニテモ無記名式ニテモ之ヲ發行スルコトヲ得但反對ノ明約ナキトキハ其裏書譲渡ヲ爲スコトヲ得

第六百二十二條 第六百十七條及ヒ第六百十九條ノ場合ニ於テハ契約又ハ商慣習ニ依リ現物ニテモ交付若クハ還付ノ時及ヒ地ニ於ケル市場代價ニテモ償還スル權利ヲ受託者ニ與ヘ又之ヲ要求スル權利ヲ寄託者ニ與フルコトヲ得

第六百二十三條 受託者ハ寄託者ノ所有權若クハ處分權ヲ調査シ又ハ寄託證書ヲ提示シテ還付ヲ要求スル者ノ權利ヲ調査スル義務ナシ然レトモ惡意及ヒ甚シキ怠慢ニ付テハ責任ヲ負フ

第六百二十四條 第六百十五條以下ニ掲ケタル原則ハ運送、製作其他ノ目的ノ爲メ封緘若クハ記號ナクシテ數量ヲ以テ物ヲ委託セラレタル運送人、船長及ヒ其他ノ者ニモ金錢其他ノ代替物ヲ買物トシテ受取リタル買債權者ニモ之ヲ適用ス

第十一章 保險

第一節 總則

○商法



第六百二十五條 保險契約ハ保險者カ保險料ヲ受ケテ或ル物ニ關シ或ル時間ニ於テ不測又ハ不確定ノ事故ニ因リテ生ズルコト有ル可キ喪失又ハ損害ニ付キ被保險者ニ賠償ヲ爲ス義務ヲ負フ契約タリ

第六百二十六條 保險スルコトヲ得ヘキ危險ハ主トシテ火災、地震、暴風雨其他ノ天災、陸海運送ノ危險、死亡及ヒ身體上ノ災害ナリ然レトモ其他ノ危險ニ對スル保險ハ此カ約メニ妨ケララルコト無シ海上運送ノ保險ハ第二編ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限リ本章ノ規定ニ從フ

第六百二十七條 所有權、質權其他ノ權利名義又ハ權利關係ニ基因スル財産上ノ利益ニシテ此ニ關スル危險ノ起生ニ因リ被保險者ニ直接ニ損害ヲ加フ可キモノハ保險ニ付スルコトヲ得ル利益トス

第六百二十八條 保險ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス又被保險者ノ委託ヲ受ケタルト否ト被保險者ノ豫知スルト否ト被保險者ヲ明示スルト否トヲ問ハス之ヲ受ケルコトヲ得契約ニ依リテ他人ノ利益カ知レサルトキハ保險申込人ハ保險者ニ對シテ被保險者ト看做サル

第六百二十九條 被保險利益ハ被保險物ノ普通價額ヲ以テ限トスルヲ通例トス若シ其利益カ此價額ヲ超過ス可キトキハ特ニ之ヲ明約スルコトヲ要ス

第六百三十條 被保險物ノ價額ハ使用ニ供スル動産ニ在テハ修繕又ハ新置ノ費用ニ依リ商品ニ在テハ損害又ハ喪失ノ生ズタル時及ヒ地ニ於ケル市場代價ニ依リテ之ヲ定ム

第六百三十一條 保險ハ被保險物ノ利益額ヲ超過スル部分ニ限リ無効トス

第六百三十二條 前條ノ規定ニ拘ハラズ被保險物ノ價額ヲ豫メ明約又ハ鑑定人ノ評價ニ依リテ定メタルトキハ後ニ至リ其價額ヲ定ニ對シテハ強暴若クハ詐欺ノ場合又ハ價額ノ著シク適當ナル場合ニ於テノミ異議ヲ述フルコトヲ得

第六百三十三條 保險セラレタル債權ノ價額ハ債務額ニ利息及ヒ取立費用ヲ合算シタル額トス

第六百三十四條 辨濟ス可キ賠償額ハ人ノ保險ニ在テハ被保險額トシ物ノ保險ニ在テハ被保險者カ危險ノ發生ニ因リテ直接又ハ間接ニ被フリタル損害ヲ以テ限トス

第六百三十五條 費用及ヒ損害ヲモ包含スルモノトス 被保險者カ已ムヲ得サルニ非スシテ任意ニ加ヘ若クハ加ヘシメタル喪失若クハ損害又ハ被保險物ノ性質、固有ノ瑕疵若クハ當然ノ使用ニ因リテ直接ニ生シタル喪失若クハ損害ニ付テハ被保險者ハ賠償ヲ爲ス義務ナシ

第六百三十六條 保險契約取結ノ時既ニ生シタル危險ニ對スル保險ハ無効トス但當事者雙方又ハ其代人ノ孰レモ其危險ノ生シタルコトヲ知ラス且既ニ危險ノ生シタルモ有効タル可キ旨ヲ明示シテ契約ヲ取結ヒタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十七條 一人カ同一ノ物及ヒ同一ノ利益ニ關シ時ヲ同クシ又ハ時ヲ異ニシテ二人以上ノ保險者ヨリ各別ニ保險ヲ受クルトキハ其重複保險ヲ各保險者ニ通知シテ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス之ニ違フトキハ各保險者ハ其保險ヲ解除スルコトヲ得

第六百三十八條 重複保險ノ場合ニ在テハ被保險者ハ別段ノ契約ヲ爲ササルトキハ保險者ノ孰レニ對シテモ賠償ヲ求ムルコトヲ得其保險者ハ賠償ヲ爲シタル後保險ノ割合ニ應ジテ其賠償ノ割賦金ヲ他

○商法 丙九十七



ノ保險者ニ請求スルコトヲ得他ノ保險カ無効ナルトキ又ハ期間ノ満了若クハ其他ノ理由ニ因リテ終リシトキハ此限ニ在ラス

一保險者ノ為メニスル拋棄ハ他ノ保險者ノ害ト為ル効力ヲ生スルコト無シ

第六百三十九條 保險スルコトヲ得ル利益ノ額ニ滿タサル保險ノ場合ニ在テハ其殘額ノ額ニ付キ被保險者ヲ自己ノ保險者ト看做シ被保險者ハ其額ノ割合ニ應シテ損害ヲ負擔ス但別段ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十條 保險ハ被保險物ノ讓渡其他被保險利益ノ轉付ニ因リテ當然新取得者ニ移ル但讓渡人カ利益ヲ留置キタル場合又ハ第六百五十四條ノ場合又ハ保險者カ轉付ニ付キ承諾ヲ與フル權利ヲ明示シテ留保シタル場合ハ此限ニ在ラス

然レトモ總テノ場合ニ於テ被保險者ハ其爲シタル轉付ヲ遲延ナク保險者ニ通知シ又保險者ハ保險カ記名ナルトキハ新取得者ノ名ニ書替フルコトヲ要ス

第六百四十一條 被保險額ノ請求權ハ特約ナキトキニ限り満期日ノ前後ヲ開ハス保險者ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ轉付スルコトヲ得保險者ハ其轉付ヲ知リタル時ヨリ其人ニノミ支拂ヲ爲ス義務アリ被保險物ノ抵當若クハ質入又ハ抵當物若クハ質物ノ保險又ハ第三者ノ爲メニスル保險ハ被保險額請求權ノ轉付ト同視ス

第六百四十二條 保險契約ノ取結及ヒ履行ニ付テハ第七條ノ原則ヲ準テ爲ス然レトモ保險者ハ總テノ場合ニ於テ契約取結ノ後即時ニ保險証券ヲ作リテ被保險者ニ交付スル義務ヲ負ヒ此手續ヲ爲サス又ハ遲延スルニ因リテ生シタル總テノ損害ニ付キ被保險者ニ對シテ責任ヲ負フ

第六百四十三條 保險契約ハ保險者又ハ契約取結ノ權アル代人カ保險申込書及ヒ之ニ属スル陳述書ヲ

異議ナク承諾シタルトキハ之ヲ取結ヒタリト看做ス

第六百四十四條 保險契約ハ各當事者ニ於テ仲買人ヲ以テモ之ヲ取結フコトヲ得

第六百四十五條 保險營業者ノ其取引場ヨリ他ノ地ニ置キタル代辦人又ハ外國保險營業者ノ内國ニ置キタル代辦人ハ被保險者ニ對シ契約ノ取結、陳述ノ承諾、保險料ノ受取、被保險額ノ支拂其他總テ保險者ノ代理ヲ爲ス權アリト看做ス但其代辦人カ被保險者ニ反對テ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十六條 保險証券ニハ年月日ヲ記シ及ヒ保險者若クハ其代人署名、捺印シ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 保險ノ初日及ヒ其期間

第二 被保險物ノ十分精密ナル記載

第三 被保險額

第四 保險料ノ額

第五 保險シタル危険

第六 保險申込人ノ氏名及被保險者ノ指示

第六百四十七條 保險ノ旨趣ニ重要ナル影響ヲ及ボス事情及ヒ契約ノ特別ナル條款アラハ其條款

第六百四十七條 保險証券ノ旨趣ハ商慣習又ハ附屬書類其他ノ證書ヲ以テ之ヲ更正シ説明シ補充シ又ハ變更スルコトヲ得

第六百四十八條 保險証券ハ指圖式又ハ無記名式ニテ之ヲ發行スルコトヲ得然レトモ白地ニテ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第六百四十九條 保險契約ノ旨趣ニ係ル證據ハ保險証券又ハ附屬書類ヲ以テノミ之ヲ舉グルコトヲ得

○商法



但其證券及ヒ附屬書類カ最早存在セス又ハ其發行ヲ爲ササルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十條 被保險物ノ價額ニシテ保險證券ニ掲ケサルモノ及ヒ損害額ノ證據ハ總テ他ノ適法ナル證據方法ヲ以テ之ヲ舉グルコトヲ得

損害額ノ評定ハ當事者雙方ノ協議調ハサルトキハ裁判所ヨリ指名シタル鑑定人之ヲ爲ス

第六百五十一條 被保險者ハ危險ノ生スルニ當リ成ル可ク其防止ニ盡カシ又其既ニ生シタル後ハ保險者又ハ其代人ニ遲延ナク其危險及ヒ喪失若クハ損害並ニ其大小ヲ通知スル義務ヲ負ヒ其義務違反ニ因リテ生シタル損害ニ付キ保險者又ハ其代人ニ對シテ責任ヲ負フ

第六百五十二條 戰爭又ハ暴動ニ因リテ生シタル危險ニ對シテハ明約ヲ以テ引受ケタルニ非サレハ保險ノ責ニ任スルコト無シ

第六百五十三條 保險者ハ被保險者カ契約取結ノ際重要ナル情況ニ付キ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其情況ヲ默スルトキハ惡意アリタルト否トヲ問ハス契約ヲ解ク權利アリ但被保險者カ保險者ノ總テノ間ニ對シテ其知ル所ヲ竭シ且善意ニ答ヘタルトキハ過失ナキモノト看做ス然レトモ保險者ノ有スル解約ノ權利ハ此カ爲メニ妨ケラルルコト無シ

第六百五十四條 契約取結ノ後被保險物ニ付キ情況ノ變更カ發生シタル爲メ其引受ケタル危險ノ増加シ若クハ變更スル場合又ハ保險料ノ支拂ニ付キ明示若クハ默示ノ延期ナキトキ契約上又ハ慣習上ノ期間ニ受取證書ト引換ニテ其支拂ヲ求ムルモ仍ホ之ヲ得サル場合ニ於テハ保險者ハ其契約ニ續東セラルルコト無シ但孰レノ場合ニ於テモ保險者其契約ヲ繼續スルトキハ此限ニ在ラス  
保險料ノ支拂ハ第六百四十條及ヒ第六百四十一條ノ場合ト雖モ被保險者又ハ其權利承繼人之ヲ爲スコトヲ得

第六百五十五條 契約ハ保險シタル危險カ被保險者ニ對シテ生ス可キニ至ラサルトキハ被保險者ヲ稱求セス然レトモ危險ノ減少又ハ其期間ノ短縮ノ爲メ保險料ヲ分割スルコトヲ得ルハ保險料支拂期間ニ回以上ノ保險料ヲ前拂シタルトキニ限ル  
保險料支拂期間ハ一年タルヲ通例トス

第六百五十六條 當事者ノ一方カ保險ノ存続中ニ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ他ノ一方ハ契約ヲ解キ又ハ其履行ニ付キ擔保ヲ求ムルコトヲ得

第六百五十七條 契約カ被保險者ノ過失ナクシテ無効タリ又ハ任意ニ解カルトキハ保險者ニ對シテ危險ノ生ス可キニ至ラサル場合ニ在テハ既ニ支拂ヒタル保險料ノ全部ヲ被保險者ニ償還シ又重複保險者クハ超過保險ノ場合、被保險利益ノ減少ノ場合又ハ其他ノ事由ニ因レル場合ニ在テハ現保險料支拂期間ノ爲メ既ニ支拂ヒタル保險料ヲ危險減少ノ割合ニ應シテ被保險者ニ償還スルコトヲ要ス但慣習上保險者カ受ク可キモノヲ扣除ス

第六百五十八條 保險者ハ被保險者ニ被保險額ヲ支拂ヒタルトキハ損害ノ生シタル爲メ被保險者カ第三者ニ對シテ有スル請求權ヲ當然取得シ殊ニ債權ノ保險ノ場合ニ於テハ債務者ニ對スル債權者ノ權利ヲ當然取得ス但其支拂ヒタル額ヲ限トス  
被保險者ハ此事ニ關シ保險者ニ害ヲ加ヘタル行爲ニ付キ責任ヲ負フ

第六百五十九條 社員相互ノ保險ヲ目的トシテ設立シタル會社ニ在テハ社員ノ權利及ヒ義務殊ニ保險料ノ支拂、追拂、會社負債ノ支拂、會社利益ノ分配及ヒ計算書ノ提出ニ關スルモノハ其會社ノ契約若クハ定款ニ從ヒ其不十分ナル場合ニ在テハ本法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ム

第二節 火災及ヒ震災ノ保險

○商法



第六百六十條 動産又ハ不動産ハ賃借人、用益者若クハ受託者其他ノ資格ヲ以テ之ヲ占有シ又ハ保管スル者ニ於テ自己ノ利益ニテモ所有者ノ利益ニテモ自己及ヒ所有者ノ利益ニテモ之ヲ保險スルニ付スルコトヲ得但執レノ利益ニテ保險ニ付シタルカニ付キ辯アルトキハ自己ノ利益ニテ保險ニ付シタルモノト看做ス

自己ノ利益ニテ保險ニ付シタル場合ニ在テハ第一ニ被保險者自己ノ損害ニ充テンカ高メ次ニ所有者ニ對スル自己ノ責任ニ充テンカ高メ保險ニ付シタルモノト看做ス其責任ニ充ツル被保險額ノ部分ニ對シテハ被保險者ノ債權者ハ總テ請求權ヲ有セス

所有者又ハ其他ノ者ノ損害賠償ノ要求ニ充テンカ高メ保險ニ付シタル場合ニ於テハ第六百三十九條ニ依リ自己ノ保險者ト看做ス可キト雖モ其被保險額ヲ限トシテ保險者獨リ全部ノ損害ヲ負擔ス第六百六十一條 不動産ノ保險ニ在テハ法律、命令其他ノ成規又ハ契約ニ依リテ被保險者ニ毀滅シ若クハ破損シタル物ノ再築若クハ修繕ヲ爲ス義務アルトキハ保險者ハ被保險者若クハ其權利承繼人此ノ義務ヲ履行ス可キ期間ヲ定メンコトヲ裁判所ニ申立テ又其再築若クハ修繕ノ實施ヲ監視シ及ヒ其工事ノ排ル割合ニ應シテ被保險額ヲ支拂フコトヲ得

又保險者ハ契約ニ依リ被保險額ノ割合ニ應シ自費ヲ以テ再築若クハ修繕ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六百六十二條 動産ハ各箇ニ又ハ包括シテ保險ニ付スルコトヲ得包括シテ保險ニ付シタル場合ニ在テハ保險ノ存續間其包括中ノ各部分ヲ増減シ又ハ他ノ物ヲ以テ其全部若クハ一分ニ代フルトキト雖モ保險ニハ影響ヲ及ホスコト無シ

家屋内ニ備在ル動産一切ノ保險ハ現貨、寶玉、證券、有價證券及ヒ稿本其他普通價額ヲ有セサル物ヲ

包含セス但反對ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十三條 動産ノ保險ハ保險証券ニ記載シタル住居其他ノ場所ニ關シテノミ効力ヲ有ス然レトモ其契約ハ被保險物ヲ一時保險外ノ場所ニ移シタルモ此カ爲メニ解止セラルルコト無シ

第六百六十四條 自然又ハ煙發ノ危險アル物ニ付テハ被保險者カ契約上若クハ相當ノ豫防處分ヲ爲ササルトキニ限リ第六百三十五條ノ規定ヲ適用ス

第六百六十五條 火災カ被保險者ノ方ニ起リタルト近傍ニ起リタルト間ハ消防若クハ救済ノ處分又ハ竊盜其他類似ノ事由ニ因リテ被保險者ニ加ヘタル損害モ火災損害ト看做ス

第六百六十六條 雷電ノ危險、火藥若クハ機關ノ破裂ノ危險、火藥若クハ機關ニ原因スル破裂ノ危險其他類似ノ危險及ヒ震災ノ危險ハ同時ニ火災ノ起リタルト否ト間ハ之ヲ火災ノ危險ト同視ス但其他ノ契約アルトキハ此限ニ在ラス

第三節 土地ノ產物ノ保險

第六百六十七條 土地ノ果實其他ノ天產物ノ保險ハ強雨、洪水、旱魃、暴風雨ノ如キ人ノカト注意トヲ以テ防ク能ハサル非常ノ天災ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得

保險シタル危險ハ保險証券ニ逐一明記スルコトヲ要ス

第六百六十八條 保險ハ一年間効力ヲ有ス但更ニ短キ期間ヲ約定シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十九條 損害ノ生シタル場合ニ在テハ保險シタル產物カ其損害ナク成熟シタル現狀ニ於テ有シタル可キ價額ト其災害ノ後ニ有スル價額トノ間ノ差額ヲ被保險額ノ割合ニ應シテ被保險者ニ償フ但被保險額カ成熟シタル現狀ニ於テ有シタル可キ價額ヲ超過セサルトキニ限ル

第六百七十條 保險者ハ損害ノ額カ其損害ノ生スルニ非サレハ產物ノ有シタル可キ價額ノ少ナクトモ

○商法



四分一ニ滿タサルトキハ其責ニ任セス

第四節 運送保險

第六百七十一條 運送中ニ在ル物ハ運送人ヨリ又ハ其物ノ到達地ニ安著スルコトニ付キ利益ヲ有スル各人ヨリ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得

第六百七十二條 保險者ハ運送品ノ保險ニ因リ運送ノ期間中其物ノ喪失若クハ毀損ノ各危險ヲ引受ケ其危險中ニ火災、盜難、敵ノ威力及ヒ此類ノモノヲモ包含ス但或ル危險ヲ明示シテ取除キタルトキハ此限ニ在ラス

運送ノ期間ハ別段ノ契約アルニ非サレハ運送人ニ物ヲ交付ヲ始ムル時ヨリ受取人ニ其引渡ヲ終フル時マテトス

第六百七十三條 運送ノ期間中運送品ヲ讓渡シタルトキハ保險ハ第六百四十條ノ規定ニ從ヒテ讓渡人ヨリ新取得者ニ移ル

第六百七十四條 保險證券ヲ以テ保險シタル以外ノ喪失若クハ損害カ運送品ニ生スルトキハ其例外タル證據ヲ舉クル義務ハ保險者ニ在リトス

第六百七十五條 價額ヲ保險證券ニ記載セサル場合ニ於テ損害ノ價額ヲ評定スルニハ最初ノ代價及ヒ其附帶ノ費用ヲ標準トス若シ之ヲ知ル能ハサルトキハ積込ノ地及ヒ時ニ於ケル普通價額若クハ市場價額ニ附稅、保險費用、積込費用及ヒ被保險者ノ負擔ニ歸スル運送費用ヲ合算シタルモノヲ標準トス  
第六百七十六條 保險證券ニハ第六百四十六條ニ掲ケタル諸件ノ外尙ホ運送ノ方法、運送具ノ種類、運送取扱人及ヒ運送人ノ氏名、運送ノ線路及ヒ發送地並ニ到達地ヲ逐一記載シ且立寄地アルトキハ其地又運送期間ノ約定アルトキハ其期間ヲ掲グルコトヲ要ス

保險證券ハ反對ノ明約アルニ非サレハ其證券ニ掲ケタル運送期間若クハ通常ノ運送期間ヲ踰越シ其他前項ニ掲ケタル保險證券ノ條件ニ違反シタルカ爲メニ無効ト爲ルコト無シ但其踰越又ハ違反ニ因リ運送取扱人若クハ運送人ニ對シテ生シタル被保險者ノ請求權ハ保險者ニ移ル

第五節 生命保險、病傷保險及ヒ年金保險

第六百七十七條 人ノ生命又ハ健康ハ終身其他或ル期間中ニテ保險ニ付スルコトヲ得

第六百七十八條 何人ニテモ自己ノ生命若クハ健康ヲ保險ニ付スルコトヲ得又保險ニ付セントスル時ニ於テ他人ノ生命若クハ健康ニ付キ財産上ノ利益ヲ有スル者ハ其他人ノ生命若クハ健康ヲ保險ニ付スルコトヲ得

配偶者、兄弟姉妹、尊屬親及ヒ卑屬親ノ生命若クハ健康ニ關スル相互ノ利益ニ付テハ證據ヲ舉グルコトヲ要セス

第六百七十九條 他人ノ生命又ハ健康ノ保險ノ有効ナルニハ其人ノ承諾又ハ了知ヲ要セス

第六百八十條 被保險額ハ其支拂フ可キニ至リタルトキ直チニ被保險者又ハ保險證券ニ依リテ保險ノ爲メ益ヲ受クル者又ハ被保險額請求權ノ添付ヲ受ケタル者ニ之ヲ支拂フコトヲ要ス

被保險者ノ死亡ニ因リ被保險額ヲ支拂フ可キニ至リタル場合ニ於テ其被保險額ヲ受ク可キ人カ其際存在セサルトキハ其被保險額ハ死亡者ノ遺產ノ一分トシテ之ヲ處分スルコトヲ要ス

第六百八十一條 他人ノ生命又ハ健康ハ其人ノ爲メ又ハ第三者ノ爲メ契約上ノ義務ニ依リテ之ヲ保險ニ付スルコトヲ得

第六百八十二條 保險ハ左ノ場合ニ於テハ無効トス

第一 保險シタル死亡又ハ病傷カ保險契約取結ノ際既に生シタルトキ但保險申込人カ其事ヲ知ラ

○商法